

2022年度

# 大学院シラバス



日本女子体育大学大学院

## 目 次

スポーツ科学論特講	1
スポーツ医学特講	2
スポーツ生理学特講	3
体力とスキルのトレーニング科学特講	4
スポーツバイオメカニクス特講	5
スポーツ外傷リハビリテーション特講	6
スポーツコーチング論特講	7
スポーツ戦術論特講	8
スポーツ技術論特講	9
ライフステージと健康科学論特講	10
スポーツ栄養学特講	11
スポーツ心理学特講	12
スポーツマーケティング特講	13
スポーツ政策論特講	14
スポーツ組織論特講	15
体育・スポーツ教育論特講	16
スポーツ運動発生論特講	17
舞踊教育法特講	18
幼児スポーツ論特講	19
舞踊表現論特講	20
舞踊演出法特講	21
比較舞踊学特講	22
マルチメディア・パフォーマンス特講	23
健康教育とヘルスプロモーション特講	24
体育・スポーツ史特講	25
スポーツ医科学特演Ⅰ	26
スポーツ医科学特演Ⅱ	29
スポーツ医科学特演Ⅲ	32
スポーツ医科学特演Ⅳ	35
スポーツ運動学特演Ⅰ	38
スポーツ運動学特演Ⅱ	41
スポーツ運動学特演Ⅲ	44
スポーツ運動学特演Ⅳ	47
スポーツ健康科学特演Ⅰ	50
スポーツ健康科学特演Ⅱ	55
スポーツ健康科学特演Ⅲ	60
スポーツ健康科学特演Ⅳ	65
スポーツマネジメント科学特演Ⅰ	70
スポーツマネジメント科学特演Ⅱ	72
スポーツマネジメント科学特演Ⅲ	74
スポーツマネジメント科学特演Ⅳ	76

スポーツ教育科学特演Ⅰ	78
スポーツ教育科学特演Ⅱ	80
スポーツ教育科学特演Ⅲ	82
スポーツ教育科学特演Ⅳ	84
舞踊学特演Ⅰ	86
舞踊学特演Ⅱ	89
舞踊学特演Ⅲ	92
舞踊学特演Ⅳ	95
測定方法演習	98
統計・調査方法演習	99
マルチメディア方法演習	100
運動観察法演習	101
健康スポーツ指導方法演習	102
保健体育科指導方法演習Ⅰ	103
保健体育科指導方法演習Ⅱ	104
スポーツ指導実践演習	105
スポーツ事業所実践演習	106
スポーツ科学研究施設実践演習	107
舞踊団実践演習	108
健康運動指導実践演習	109

<以下の科目は開講しない>

幼児発達論特講  
 幼児発達学特演Ⅰ  
 幼児発達学特演Ⅱ  
 幼児発達学特演Ⅲ  
 幼児発達学特演Ⅳ

科目名	スポーツ科学論特講		担当者	石塚 浩、松澤 慶信、田中 茂徳 八田 秀雄、細越 淳二、間野 義之	
英文名	Sport Sciences				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・必修
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>本来的にスポーツ科学は、1つの科学分野というよりは、多くの基礎・基本となる研究領域が統合してその成果を目指すという、極めて学際的な研究分野である。さらに、学術的な研究の成果はもとより、実践的・応用的な側面が強く期待される分野でもある。</p> <p>本講義は、そのようなスポーツ科学研究全般に共通する使命と性格をふまえて、各研究分野の基礎的な理念や理論を基軸に、今日的な課題と方法について討論するものである。授業は今日のスポーツ科学を構成しているさまざまな研究分野から、各領域の代表的な研究者が順次担当する。扱う領域は①スポーツ運動学分野、②スポーツ教育科学分野、③スポーツマネジメント科学分野、④スポーツ健康科学分野、⑤舞踊学分野、⑥スポーツ医科学分野である。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
<p>石塚 担当分 (スポーツ運動学)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学問の成立過程とスポーツ科学やスポーツ運動学の位置づけ</li> <li>2. スポーツ運動学の今日的課題</li> </ol> <p>松澤 担当分 (舞踊学)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 舞踊という身体の営為を、物象化する数値的価値ではなく、感性的aestheticな判断から受容するとはどういうことか。</li> <li>2. 悟性的理性的判断でも感性的判断でもなく、身体を受容はどのような体験構造を現出するかを考察する。</li> </ol> <p>田中 担当分 (スポーツ健康科学)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体活動・総エネルギー消費量の評価方法</li> <li>2. 生活習慣と肥満・生活習慣病</li> </ol> <p>八田 担当分 (運動生理生化学)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 糖と脂肪というエネルギー質の視点から運動を考える。</li> <li>2. 運動の疲労をどう考えたらよいのか。</li> </ol> <p>細越 担当分 (スポーツ教育科学)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. スポーツ教育学とは</li> <li>2. スポーツ教育学分野の研究領域とその課題</li> </ol> <p>間野担当分 (スポーツマネジメント科学)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. スポーツの成長産業化</li> <li>2. スポーツと地方創生</li> </ol>					
<b>【到達目標】</b>					
<p>スポーツ科学の基礎的理念と今日の問題を理解する。なお、各授業での到達目標は以下の通りである。</p> <p>石塚 担当分：スポーツ運動学の持つ学問的背景を理解するとともに、自然科学との相違点を明確化できるようにする。スポーツ運動学の研究成果が、どのように実践場面へ適用され、さらに、スポーツ科学の学際的な特性との接点を理解する。</p> <p>松澤 担当分：スポーツ科学の基礎的理念と今日の問題を理解する。なお、各授業での到達目標は以下の通りである。言葉による悟性的理性的判断に、感性的判断が、そして身体知が、どう新しい認識地平を開陳するかを、まさに直感的に把握してもらう。</p> <p>田中 担当分：身体活動や総エネルギー消費量の評価方法を理解した上で、肥満の予防・発症における身体活動の役割を通じて、科学的知見と根拠に基づかない思い込みを整理できるようにする。</p> <p>八田 担当分：酸素摂取量主体ではない視点での運動や疲労を考える。</p> <p>細越 担当分：スポーツ教育学に関する基礎的知識及びスポーツ教育の動向やその現代的課題を理解することができる。</p> <p>間野 担当分：日本が直面しているスポーツ産業政策の現状と課題について理解することができる。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>授業は集中講義で行う。全て出席することが大前提である。</p> <p>具体的な受講上の留意点は、授業時に各担当者から説明される。</p> <p>※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>石塚 担当分：「教師のための運動学」の「プロローグ」の項を熟読</p> <p>松澤 担当分：講義中に紹介する文献資料の読解</p> <p>八田 担当分：講義中に述べた考え方で運動を見てみる。健康情報を鵜呑みにしないで疑ってみる。</p> <p>細越 担当分：講義中に紹介する文献資料を読解しレポートを作成する。</p> <p>間野 担当分：『東京大学大学院特別講義スポーツビジネスイノベーション』（日経BP）</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>石塚 担当分：大修館書店発行の「教師のための運動学」「運動学講義」を参考書とする。</p> <p>松澤 担当分：講義中に紹介。</p> <p>細越 担当分：講義中に紹介する。</p> <p>間野担当分：『東京大学大学院特別講義スポーツビジネスイノベーション』（日経BP）</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>6名の担当教員から出された評価の平均値が最終評価となる。</p> <p>各教員の評価方法については、授業時に説明される。</p>					
<b>【関連科目】</b>					
<p>石塚 担当分：スポーツ運動学発生論特講</p> <p>松澤 担当分：比較舞踊学特講 舞踊演出法特講</p>					

科目名	スポーツ医学特講		担当者	夏井裕明	
英文名	Sport Medicine				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択
<b>【授業概要・方法】</b> スポーツ医学研究に必要な医学生理学の知識を深める。					
<b>【授業計画】</b>					
1. オリエンテーション			9. 酸素運搬の生理学：酸素の取り込みと二酸化炭素の排出について		
2. 女性とは何か：5段階の性別について			10. 酸塩基平衡：pHの調節機構について		
3. 性ホルモン：性ホルモンの類似性について			11. 体液：体液区分と水バランスについて		
4. 循環生理学Ⅰ：心臓と血管の生理学について			12. 血液学：血液学の基礎と血液検査値の読み方		
5. 循環生理学Ⅱ：循環力学について			13. 血液型：遺伝学と免疫学の考え方		
6. 心電図の基礎：心電図の原理と臨床的意義について			14. 骨・軟骨の生理学：骨及び軟骨の構造と代謝について		
7. 微小循環とバイオレオロジー：微小循環とバイオレオロジーの基礎			15. 総合討論		
8. 呼吸生理学：呼吸運動と換気力学について					
<b>【到達目標】</b> スポーツ医学研究（特に内科系）に必要な医学・生理学的基礎知識を習得し、研究遂行能力を身につける。					
<b>【受講上の留意点】</b> 学生の積極的な取り組みを期待する。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。 ※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。					
<b>【授業時間外学修】</b> 内科系スポーツ医学の論文を読み、疑問点を洗い出し、授業時間中に解決する。					
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書：特になし 参考書：標準生理学（医学書院）					
<b>【成績評価方法】</b> 授業内で行われる小テスト及び全講義を通したレポート内容で成績を評価する。					
<b>【関連科目】</b> スポーツ生理学特講、体力とスキルのトレーニング科学特講、ライフステージと健康科学論特講、スポーツ栄養学特講					

科目名	スポーツ生理学特講		担当者	定本朋子	
英文名	Sport Physiology				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>スポーツ生理学の主題は、ヒトが運動（日常の生活活動を含む）をした際の生理的応答（response）や定期的な運動を続けた際の適応（adaptation）の仕組みを明らかにすることである。最近では、この主題を超えた分野横断的研究が進展し、研究の対象・手法も多岐にわたり、新しいエビデンスが多数集積されている。このため従来の発想や定説といったものを、適宜再考修正する必要がある。本講義では、最近のトピック（10～15件）を取り上げて、それらの研究成果を互いに紹介しあうことにより、スポーツ生理学に関する新しい知識の習得を目指す。また、授業方法としてトピックに関わる説明および議論の時間を多く設けて科学的で論理的思考力の育成を目指す。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. ガイダンス			9. トピック：海馬神経細胞の新生に働く運動		
2. トピック：ストレッチングのメリット・デメリット			10. トピック：①運動によるアルツハイマー病の予防効果、または②デュアルタスク下における歩行関連動作能力と転倒リスク		
3. トピック：①全身持久力テストとしてのシャトルランを考える、または②運動制御能力テストを考える			11. トピック：身体活動・スポーツ実施率を高めるための科学的アプローチ		
4. トピック：セントラルコマンドによる随意運動開始時の循環調節機構			12. トピック：発育期のトレーニング開始の最適年齢		
5. トピック：血管内皮機能に及ぼす運動習慣や性差の影響			13. トピック：①Grit の育成と運動習慣との関連、または②子どもの運動能力と実行機能・学力との関連		
6. トピック：座り過ぎによる心血管・代謝機能低下の問題			14. トピック：①脳グリコーゲンと中枢性疲労、②運動時の脳でエネルギーとなる乳酸、または③筋出力の生理的限界と心理的限界		
7. トピック：①運動様式と動脈コンプライアンス（動脈スティッフネス）の適応、または②低強度筋力トレーニングによる血圧低下作用			15. トピック：褒めが運動学習に与える効果とその脳内機序		
8. トピック：①高強度間欠的トレーニング（HIT）または②トレーニングと脱トレーニングによる筋肥大応答の変化					
<b>【到達目標】</b>					
<p>(1) 図表データを読解できる。  (2) トピックの骨子を要約できる。  (3) トピックの骨子を分かりやすく説明できる。  (4) 他の人の質問・意見を踏まえて、問題点や次の課題を明確にできる。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>トピック（文献）は、生理学やスポーツ医科学を専門としていない人にとっても親しみやすいものを選んでいる。そのため領域の違いにかかわらず、新しい情報や専門的知識を習得する場と捉えて本講義にチャレンジしてほしい。また説明したり意見交換をする時間が多いので、受講生のこれまでのさまざまな経験や専門性の違いを活かして、積極的に自由闊達な議論をするように心がけてほしい。  ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。  ※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
授業時間に配布される資料・文献について、受講者は抄録の作成を行う。					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>特定の教科書はない。必要な資料を配布する。  参考図書は、一般的な生理学の教科書、「体育の科学（雑誌名）、毎月発行、杏林書院」、「ニュー運動生理学Ⅰ・Ⅱ（書名）、宮村実晴編、真興交易医書出版部、2014年」、「循環Ⅱ運動時の調節と適応（書名）、斉藤満編著、ナッパ、2007年」等である。</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
トピックに関するレポートおよび授業内での発表及び意見交換の状況により評価する。					
<b>【関連科目】</b>					
体力とスキルのトレーニング科学特講、スポーツ医学特講、測定方法演習等。					

科目名	体力とスキルのトレーニング科学特講		担当者	星川佳広	
英文名	Theory of Physical fitness and skill training				
標準履修年次	2年	単位	2単位	区分	特講・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>スポーツ、ダンスのパフォーマンスは、大きく分けて体力とスキル(技術)に規定される。本講義では、それらを高めるより合目的なトレーニング法とその背景となるエビデンス、理論について学ぶ。トレーナビリティ(トレーニング可能性)は、年齢、性別、競技特性等により異なるためそれぞれを分けて理解を深める。授業は講義とともに詳説・レビュー文献を読み込み、当該分野の最新知見および未知の点を整理する。発展的に、自身の研究課題に活かせるよう受講生各位の興味によって分野を調整したり、実際にトレーニングを行い、理解を深めることもある。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
<p>1. オリエンテーション- エビデンスに基づくトレーニング、パフォーマンスを規定する因子とトレーナビリティ</p> <p>2. 成長期の体力、スキルの発達とトレーニング①</p> <p>3. 成長期の体力、スキルの発達とトレーニング②</p> <p>4. 成長期の体力、スキルの発達とトレーニング③</p> <p>5. 体力、スキルとトレーニング効果の性差①</p> <p>6. 体力、スキルとトレーニング効果の性差②</p> <p>7. 体力、スキルとトレーニング効果の性差③</p> <p>8. 無酸素性競技(スプリント)の体力、スキルとトレーニング①</p> <p>9. 無酸素性競技(スプリント)の体力、スキルとトレーニング②</p> <p>10. 有酸素性競技の体力、スキルとトレーニング①</p> <p>11. 有酸素性競技の体力、スキルとトレーニング②</p> <p>12. 審美系競技の体力、スキルとトレーニング①</p> <p>13. 審美系競技の体力、スキルとトレーニング②</p> <p>14. その他の競技の体力、スキルとトレーニング①-球技</p> <p>15. その他の競技の体力、スキルとトレーニング②-コンバットスポーツ</p>					
<b>【到達目標】</b>					
<p>スポーツ、ダンスのパフォーマンスを規程する各要因とそのトレーニング法についてエビデンスに基づき科学的に理解できる。そのことを通し、個人や選手のニーズ、年齢、性別、各競技特性に合わせて、課題克服のために適切なトレーニングを実践、開発できるようにする</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>事前に関連文献を読み込み、疑問点を整理してから授業に参加することで理解が深まる  ※対面授業(面接授業)がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。  ※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
紹介する関連文献の読み込みおよびレジュメの準備					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
資料を配布する					
<b>【成績評価方法】</b>					
提出課題、レポートの完成度および授業への取り組み方から評価する					
<b>【関連科目】</b>					
スポーツ生理学特講、スポーツバイオメカニクス特講、測定方法演習					

科目名	スポーツバイオメカニクス特講		担当者	湯田 淳	
英文名	Sport Biomechanics				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>力学の基礎的理論やバイオメカニクスの分析法について実例を交えながら学習し、スポーツバイオメカニクスを自己のスポーツ実践や他者へのスポーツ指導に活用するための能力を養成することを目的とする。また、競技スポーツにおけるパフォーマンス向上の要因をバイオメカニクスの観点から検討することによって、競技現場に果たすスポーツ科学の役割について考える。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. スポーツバイオメカニクス概論 1			9. スポーツバイオメカニクス研究法 1		
2. スポーツバイオメカニクス概論 2			10. スポーツバイオメカニクス研究法 2		
3. スポーツバイオメカニクスの活用法			11. スポーツバイオメカニクス研究法 3		
4. 力学の基礎 1			12. データ収集・分析法 1		
5. 力学の基礎 2			13. データ収集・分析法 2		
6. 力学の基礎 3			14. データ収集・分析法 3		
7. 身体構造と力学的運動要因			15. 総合討論		
8. 上肢、下肢、体幹の運動					
<b>【到達目標】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツバイオメカニクスの学問的意義を理解し、身体運動の分析へのバイオメカニクスのアプローチを把握する。</li> <li>・映像を用いた動作改善法について理解し、バイオメカニクスがスポーツ現場でどのように活用されているかを把握する。</li> <li>・運動の力学および身体の構造に関する基礎的事項を理解し、スポーツバイオメカニクスのより良い理解のために活用できる。</li> <li>・スポーツバイオメカニクスにおける研究手法の理論的背景を理解し、その特徴を把握する。</li> <li>・スポーツバイオメカニクスにおけるデータ収集および分析法を理解し、自身の研究活動に活用できる。</li> </ul>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>授業はパワーポイントを用いて進められ、毎回の授業において内容に関する資料が配布される。受講者は講義内容における必要な箇所を素早く資料に書き取り、自分用のスポーツバイオメカニクスノートとしてまとめあげる努力が求められる。また、ほぼ毎回、その回の講義内容に関する小課題を実施する。受講者はただ単にノートをとるだけではなく、講義内容についての理解も求められる。</p> <p>※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p> <p>※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>様々なスポーツにおけるバイオメカニクスのデータの活用事例について、概要を把握する。</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>教科書は特に指定しない。適宜、参考資料を配付する。</p> <p>「スポーツバイオメカニクス20講」 阿江通良・藤井範久・著（朝倉書店）</p> <p>「スポーツバイオメカニクス」 深代千之・桜井伸二・平野裕一・阿江通良・著（朝倉書店）</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>小課題を40%、期末レポートを60%の割合として評価する。</p>					
<b>【関連科目】</b>					
<p>スポーツ技術論特講、スポーツコーチング論特講</p>					



科目名	スポーツ外傷リハビリテーション特講		担当者	永野康治	
英文名	Orthopedic Rehabilitation				
標準履修年次	2年	単位	2単位	区分	特講・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>スポーツ外傷・障害はスポーツ選手にとってパフォーマンスを低下させ、競技生活を阻害する大きな要因の1つである。外傷・障害の受傷後の適切なリハビリテーションによって、より早期にパフォーマンスを低下させることなく復帰させることが可能であるが、外傷・障害の受傷機転、危険因子を理解することで予防することが最も望ましい。近年のスポーツ医学の目的も予防に重点が置かれている。そこで、本講義ではスポーツ外傷・障害の予防に関する知見を整理し、その知識を学習していく。本講義の目的は、各種スポーツ外傷・障害の受傷機転、危険因子、予防法について理解し、実践できるようになることである。本講義のねらいは、スポーツ現場においてスポーツ外傷・障害の予防法を実践でき、対象者に指導ができるようになること。さらに自身の関連の深いスポーツ外傷・障害の予防法を提案できることである。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. スポーツ外傷・障害予防の概論 スポーツ外傷・障害予防に対する体系的アプローチ		9. ハムストリングス損傷の予防 ①疫学およびリスクファクター			
2. スポーツ外傷・障害の重大性 ①情報の収集		10. ハムストリングス損傷の予防 ②メカニズムおよび予防法			
3. スポーツ外傷・障害の重大性 ②各競技の特性(1)		11. 腰痛の予防 ①疫学およびリスクファクター			
4. スポーツ外傷・障害の重大性 ②各競技の特性(2)		12. 腰痛の予防 ②メカニズムおよび予防法			
5. 膝外傷の予防 ①疫学およびリスクファクター		13. 頭頸部外傷の予防			
6. 膝外傷の予防 ②メカニズムおよび予防法		14. 各種スポーツ外傷・障害の予防 予防法の実践			
7. 足関節損傷の予防 ①疫学およびリスクファクター		15. チーム内での外傷予防計画の開発と管理			
8. 足関節損傷の予防 ②メカニズムおよび予防法					
<b>【到達目標】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>各スポーツ外傷、障害の解剖学的特徴を踏まえて受傷機転を説明できる。</li> <li>各スポーツ外傷、障害の危険因子を説明できる。</li> <li>各スポーツ外傷、障害の予防法を説明、実践できる。</li> <li>スポーツ外傷、障害の予防法を提案できる。</li> </ul>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>参考書の該当部分を履修者がまとめてプレゼンテーションを行う。  外傷・障害の予防法の実践は実技・実演を交えながら行うので、動きやすい格好で出席すること。  ※対面授業（面接授業）が行えない場合には、遠隔授業で実施する。  ※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>外傷・障害に関する文献、参考書から情報収集し、授業内容に加え最新の知見をまとめる。  自身のスポーツ活動やチームでの活動に学修した内容を取り入れる。</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
参考書：スポーツ外傷・障害ハンドブック(医学書院)					
<b>【成績評価方法】</b>					
レポート40%、授業内での発表60%					
<b>【関連科目】</b>					

科目名	スポーツコーチング論特講		担当者	吉田孝久	
英文名	Coaching Theory in Sports				
標準履修年次	2年	単位	2単位	区分	特講・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>競技スポーツのコーチングのねらいは、その競技力を十分に向上させ、その最適ないし最高の成果をあげさせることにある。そのために、基本的にその競技の構造的認識、競技力向上のプログラミング、効果的運動指導法、達成力のチェック法の4点に要約される。本講義は、その4点について各スポーツに共通する基本的認識を提供し、それを基として各個別スポーツの競技力向上に活かすための問題性を浮き彫りにして、コーチング活動の実践に資することをねらいとする。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. コーチングとトレーニングについて			9. 運動指導の方法論と補助手段 1		
2. 競技スポーツのコーチングのねらい			10. 運動指導の方法論と補助手段 2		
3. スポーツコーチングの機能と構造			11. 運動修正の方法論 1		
4. スポーツコーチングの体系			12. 運動修正の方法論 2		
5. 競技力の構成要素について			13. トレーニング計画 1		
6. 動きを身につけることについて 1			14. トレーニング計画 2		
7. 動きを身につけることについて 2			15. コーチングにおける問題点		
8. 動きを身につけることについて 3					
<b>【到達目標】</b>					
<p>競技スポーツにおいて、選手が成果を上げるためには選手とコーチの協同による活動が有用であることを理解する。選手はトレーニングによって競技力の向上を図ろうとするが、一度や二度できたからといってそれが技能として身につけているわけではなく、状況が変われば動きの習熟度も変化することを理解する。このことを理解した上で、コーチングに関する多角的なアプローチを試みる。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>この講義内容を理解する上では、自分自身のスポーツ・ダンス活動経験を基に、指導者との対話、計画的トレーニング実践の重要性、動きの学習と習熟過程等について自分自身のトレーニング・コーチングを評価することが有用である。スポーツ・ダンス活動の経験が乏しい場合でも、自身の運動学習の経験を振り返ることによって理解を深めることが可能である。  ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。  ※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>授業でおこなった該当箇所について各自で情報収集を行い、教科書・参考書を精読することで内容の理解を深める。</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>教師のための運動学、運動学講義、競技力向上のトレーニング戦略、スポーツ運動学（金子著）、スポーツ運動学（マイネル著・金子訳）</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>授業時提示の課題（2～4回）をもとに評価する。</p>					
<b>【関連科目】</b>					
<p>スポーツ技術論特講、スポーツ運動発生論特講</p>					

科目名	スポーツ戦術論特講		担当者	石塚 浩・小海 隆樹	
英文名	Tactics in Sports				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>本講義の狙いは、スポーツ指導者やそれを目指す人達に戦術行動の意義と重要性についての認識を深めさせ、様々なスポーツ種目に共通する指導上の手がかりを提供することにある。個別のスポーツ種目の戦術に基礎を求めながら、種目を横断する一般的な戦術に言及していく。具体的事例に基づきながら、戦術構想、戦術行動とそのトレーニング法、そして競技での実践とその指導に関する諸問題について解説をしていく。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. ガイダンス					
9. 戦術構想の注意点					
2. 戦術に関連する用語について					
10. 個別種目における戦術構想と注意点					
3. スポーツ戦術（内容、構造）、スポーツ戦術トレーニング					
11. 戦術トレーニングの内容、戦術行動トレーニング					
4. スポーツ戦術に影響を与えた人とその理論（孫武）					
12. 戦術行動トレーニングの方法					
5. スポーツ戦術に影響を与えた人とその理論（クラウゼビッツ）					
13. 戦術行動トレーニングの注意点					
6. スポーツ戦術の歴史、意義					
14. 戦術行動の実践（即興性）					
7. 戦術構想と前提条件					
15. 総合討論					
8. 戦術構想と影響を及ぼすこと					
<b>【到達目標】</b>					
<p>種目を横断する一般的な戦術を理解する。各自が専門とする種目で、戦術構想、戦術行動とそのトレーニング法、そして競技での実践とその指導に関する諸問題について理解する。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>スポーツ種目による特性が著しいので、常にそのことを念頭に置いて受講すること、そして各自が自分の専門とするスポーツ種目でまとめをしてほしい。  ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。  ※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
各自が専門とする種目と関連するスポーツ種目についても学修して欲しい。					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>特定の教科書は使用しない。「スポーツ戦術論入門」（大修館）、「もう一つの戦略教科書『戦争論』」（中公新書）を参考書として使用する。</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
レポートの内容、成績を中心にして評価する。					
<b>【関連科目】</b>					
スポーツ技術論特講、運動観察法演習					

科目名	スポーツ技術論特講		担当者	小海隆樹	
英文名	Sport Technique				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>運動技能を構成する中核的因子である技術を、戦術・体力と関連させながら概観する。そして、運動が「できる」ことは、技術（コツ）を身につけることであり、コツの発生にはいくつかの階層（形成位相）があることや動きを「覚える人」と「教える人」にはそれぞれ「身体知」が必要であることを理解する。パワーポイントや必要に応じて映像資料も提示し、具体的例証を確認しながら理解を深めていく。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. スポーツ技術の変遷			9. 創発身体知（洗練化身体知）と技術		
2. スポーツ技術の概念			10. 創発達成能力と創発分析能力		
3. スポーツ種目と競技力の構造			11. 促発身体知（観察能力）と技術		
4. 身体知と技術			12. 促発身体知（交信能力）と技術		
5. 動きの形成位相と技術①			13. 促発身体知（代行能力）と技術		
6. 動きの形成位相と技術②			14. 促発身体知（処方能力）と技術		
7. 創発身体知（始原身体知）と技術			15. 技術の伝承		
8. 創発身体知（形態化身体知）と技術					
<b>【到達目標】</b>					
<p>スポーツ技術概念や史的変遷からその必要性を理解する。また、技術の底流となる「動感身体知」の存在を確認でき、その具体的例証から、技術の伝承に関する考え方を理解する。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>本講義を理解するためには、講義内容を常に各自の運動経験や専門スポーツ種目に置き換え、具体例を思い浮かべながら受講することが大切である。  ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。  ※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>発生運動学を基にしたこの授業は、大学で学んだ運動学に関する基礎知識が必要である。運動学の用語や知識について常に「自分の言葉」で説明できるよう準備しておかなければならない。</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>教科書は特に指定しない。適宜、資料を配布する。  &lt;参考文献&gt; 「マイネル スポーツ運動学」K.マイネル（大修館書店）  「わざの伝承」金子明友（明和出版） 「身体知の形成 上・下」金子明友（明和出版） 等</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>毎回の授業での理解度（小レポート）70%、最終レポートの達成度30%</p>					
<b>【関連科目】</b>					
<p>スポーツ運動学特演Ⅰ、スポーツ運動学特演Ⅱ、スポーツ運動学特演Ⅲ、スポーツ運動学特演Ⅳ  スポーツ運動発生論特講</p>					

科目名	ライフステージと健康科学論特講		担当者	沢井史穂	
英文名	Health Science at Each Life Stage				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>人の健康に関わる問題はライフステージによって大きく異なる。乳幼児期から老年期に至るまで、一生を通じて人の身体や精神状態は変化していくが、その過程は単なる生物学的な経年変化だけではなく、その人の置かれた生活環境（時代、地域、経済、教育など）によって大きな影響を受ける。本特講では、各年齢層における心身の状態の特徴や、その社会的環境を把握し、その時期における健康上の主な問題や課題、健康寿命の延伸につながる生活習慣などについて、文献を紹介しながら考察を行う。授業は受講生によるプレゼンテーションと討論を中心に進めていく。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. オリエンテーション、意見交換		9. 青少年期の健康づくりに関わる文献抄読			
2. ライフステージに応じた健康と運動の捉え方		10. 女性の健康づくりに関わる文献抄読			
3. 幼小児期の健康づくりに関わる討論		11. 成人期の健康づくりに関わる文献抄読			
4. 青少年期の健康づくりに関わる討論		12. 老年期の健康づくりに関わる文献抄読			
5. 成人期の健康づくりに関わる討論		13. ライフステージに応じた健康づくりプログラムの検討①			
6. 女性の健康づくりに関わる討論		14. ライフステージに応じた健康づくりプログラムの検討②			
7. 老年期の健康づくりに関わる討論		15. 総合討論			
8. 幼小児期の健康づくりに関わる文献抄読					
<b>【到達目標】</b>					
<p>現代の各年齢層の主要な健康問題・課題は何かを、その身体的、精神的、社会的背景を理解したうえで見きわめ、その対応策を考えられること。さらに、健康づくりに運動やスポーツが果たす役割について、科学的根拠を持って考察できること。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>毎回の授業は受講生によるプレゼンテーションや討論を交えて進めていく。提示された資料等を元に、自分の考えや意見を積極的に述べ、議論をすることで、各回のテーマに関して全員が理解や考察を深めていくことを目指すので、意欲的・主体的に参加すること。  ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。  ※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>子どもから高齢者に及ぶさまざまな年齢層の健康問題についての情報を様々なメディアを通じて収集・精査し、自分の興味に照らし合わせて文献を紹介したり、与えられたテーマに対して意見を述べるができる素地を養う。</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>とくには指定しない。随時資料を配布する。</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>授業への取り組み姿勢（ディスカッション能力含む）30%、課題のレポート50%、プレゼンテーション能力20%</p>					
<b>【関連科目】</b>					
<p>スポーツ健康科学特演Ⅰ～Ⅳ</p>					

科目名	スポーツ栄養学特講		担当者	古泉佳代	
英文名	Sports Nutrition				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
食事とスポーツ、身体活動との相互関係について具体的な事例、簡単な実験や体験等を取り上げて解説・討論する。					
<b>【授業計画】</b>					
1. オリエンテーション					
2. エネルギー消費量、推定エネルギー必要量の評価方法①					
3. エネルギー消費量、推定エネルギー必要量の評価方法②					
4. 運動時の疲労と食事（たんぱく質）①					
5. 運動時の疲労と食事（炭水化物）②					
6. 運動時の疲労と食事（脂質）③					
7. 食事摂取のタイミング①					
8. 食事摂取のタイミング②					
9. スポーツドリンク・水分補給①					
10. スポーツドリンク・水分補給②					
11. ミネラル・ビタミンと運動①					
12. ミネラル・ビタミンと運動②					
13. 運動と味覚・食欲①					
14. 運動と味覚・食欲②					
15. 総合討論					
<b>【到達目標】</b>					
科学的根拠に基づいて栄養や食に関する情報を判断できるようになることを目標とする。					
<b>【受講上の留意点】</b>					
学部で学ぶ栄養学、スポーツ栄養学、化学、生物の基礎を理解していること。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。 ※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。					
<b>【授業時間外学修】</b>					
学部で学ぶ栄養学、スポーツ栄養学、化学、生物の基礎を復習する。					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
食品成分表や生理学の教科書を必要に応じて利用する。					
<b>【成績評価方法】</b>					
レポート（100%）					
<b>【関連科目】</b>					
スポーツ健康科学特演Ⅰ、スポーツ健康科学特演Ⅱ、スポーツ健康科学特演Ⅲ、スポーツ健康科学特演Ⅳ					

科目名	スポーツ心理学特講		担当者	佐々木万丈	
英文名	Sport Psychology				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>本講義では、体育、競技スポーツ、健康スポーツ・運動に取り組む、学習者、選手、市民、あるいは指導者等にとって、その取り組みの成果をより高いものにするための心理学的課題を取り上げて、関連する理論と最新の知見をレビューすることによって、スポーツ心理学に対する理解を深めていく。授業では、1時間ごとに話題提供を行い、資料を読み解き、全体のディスカッションを通してスポーツに関わる人々の心理学的課題を考察していく。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. スポーツ心理学の歴史			9. 競技とスポーツ心理学（3）		
2. スポーツ心理学研究法（1）調査法			10. 健康運動とスポーツ心理学（1）		
3. スポーツ心理学研究法（1）分析法			11. 健康運動とスポーツ心理学（2）		
4. 体育とスポーツ心理学（1）			12. 健康運動とスポーツ心理学（3）		
5. 体育とスポーツ心理学（2）			13. 舞踊とスポーツ心理学（1）		
6. 体育とスポーツ心理学（3）			14. 舞踊とスポーツ心理学（2）		
7. 競技とスポーツ心理学（1）			15. 舞踊とスポーツ心理学（3）及び授業のまとめ		
8. 競技とスポーツ心理学（2）					
<b>【到達目標】</b>					
<p>(1) スポーツ心理学の検討課題を、スポーツや運動に取り組むことの様々な視点から理解し、説明できる。  (2) スポーツ心理学の研究方法を、研究事例を通じて理解し、説明できる。  (3) スポーツ心理学におけるデータ分析の手法について、研究事例を通じて理解し、説明できる。  (4) スポーツを心理学的視点から検討することの意義を理解し、説明できる。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>本特講では、学部において学修したスポーツ心理学の基礎的内容をさらに詳細に深く掘り下げて検討する。したがって、受講者はスポーツ心理学並びに心理学の基本的事項を理解しておく必要がある。  ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。  ※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>各時間に次週のトピックについて予告するので、関連する心理学的検討課題の予習を行う必要がある。また、各時間に取上げた検討課題に対する理解をさらに深めるための復習が必須である。</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>各時間に検討課題に関わる研究事例、背景となる理論等についての資料を配布する。教科書は特に指定しないが、以下は参考図書として理解を深めるために利用することを勧める。日本スポーツ心理学会編・最新スポーツ心理学その軌跡と展望（大修館書店）、スポーツ社会心理学研究会（訳）・体育教師のための心理学（大修館書店）、西田保編・スポーツモチベーション（大修館書店）、佐々木万丈著・基礎から学ぶスポーツの心理学（勁草書房）</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>期末に本特講全般を総括するレポート課題を課し評価する（100％）。</p>					
<b>【関連科目】</b>					
<p>体育・スポーツ教育論特講、統計・調査方法演習</p>					

科目名	スポーツマーケティング特講		担当者	芳地 泰幸	
英文名	Sport Marketing				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>本講義では、スポーツを競技としてではなく、商品・サービスとして捉えていくことができるようになる為の基本的知識を習得することを目的とする。具体的には、スポーツをビジネス化するために求められる「スポーツマーケティング (Marketing of sport)」について、その体系を事例を挙げて明らかにし、スポーツ消費者のニーズを満たすスポーツ・プロダクトを効果的に提供するための戦略や関連する諸概念・知識を中心に学ぶ。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. スポーツのビジネス化とその要因		9. 価格の決定と体系			
2. マーケティングの意義とプロセス		10. 流通チャネルと接近可能性			
3. スポーツプロダクトの特徴とサービスマーケティング		11. コミュニケーション戦略			
4. 環境分析と市場機会の発見		12. ブランド戦略			
5. セグメンテーション、ターゲティング		13. インターナル・マーケティング			
6. ポジショニング		14. ソーシャル・マーケティング			
7. マーケティング・ミックス (4P・7P)		15. 総括：スポーツマーケティングの課題と展望			
8. 製品 (プロダクト) の機能と構造					
<b>【到達目標】</b>					
<p>基本的なマーケティング戦略の理論とその仕組みについて体系的に理解することで、スポーツ消費者のニーズを満たすスポーツ・プロダクトを効果的に提供するための実践的な知識を習得する。そして、スポーツビジネスにおける今日的課題の発見と解決策についてマーケティングの視点から提言ができるようになることが本講義の到達目標である。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>積極的な参加と自主的な事前・事後学習を心掛けること。講義内で紹介する理論については自身の所属するスポーツ組織などの身近な事例に当てはめて理解するように努めること。さらに、講義内で紹介する文献 (書籍、論文) については、自主的に取り寄せ、精読すること。また、講義内でマーケティング事例 (Case) に基づくディスカッションも計画しており、関連資料やテキストのリーディングアサインメントやレポート等の課題も課す予定である。  ※対面授業 (面接授業) がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。  ※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>関連資料やテキストのリーディングアサインメント、課題レポートを課す。</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>「改訂3版 グロービスMBAマーケティング」  グロービス経営大学院 (編著)、ダイヤモンド社、2009年  ※その他参考文献や資料は講義時に紹介する (適宜、配布する)。</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>課題レポートとディスカッションを50%、最終レポートの結果を50%として総合的に判断する。</p>					
<b>【関連科目】</b>					
<p>スポーツ科学論特講、スポーツ組織論特講</p>					



科目名	スポーツ政策論特講		担当者	溝口紀子	
英文名	Sport Social Policy and Administration				
標準履修年次	2年	単位	2単位	区分	特講・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
日本のスポーツ政策の基軸である「スポーツ基本法」、さらにUNESCOが採択した「体育およびスポーツに関する国際憲章」を理解するとともに、スポーツ政策の先行研究から社会調査の方法を学ぶ。また現在におけるスポーツ、教育、都市計画、経済、医療・福祉、環境など、様々な視点から文献購読により理解を深め今後のスポーツ政策の在り方を議論する。本講は講義のみならず、学生によるプレゼンテーションを行う。					
<b>【授業計画】</b>					
1. ガイダンス スポーツ政策と公共性					
2. スポーツ政策の歴史					
3. スポーツ政策の形成（行政組織や政策形成過程）					
4. スポーツ基本計画について					
5. 競技スポーツ政策（JOC, NF, JSC）					
6. 学校体育政策					
7. 地域のスポーツ政策					
8. スポーツと大学（VNIVASとスポーツビジネス）					
9. スポーツと指導者資格制度					
10. スポーツ事故の補償と事故防止政策					
11. 諸外国のスポーツ政策（フランス）について					
12. 施設とスポーツ政策（スマート・ベニューとまちづくり）					
13. メディアとスポーツ政策					
14. 学生からのテーマ発表					
15. 学生からのテーマ発表					
<b>【到達目標】</b>					
スポーツが社会的価値のある公共性を有するものであることを理解し、社会調査の方法を理解し、社会問題の解決策、スポーツ政策の企画立案ができる。					
<b>【受講上の留意点】</b>					
原則として授業内に学生からスポーツ政策についてのプレゼンテーションを一人一回行う。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。 ※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。					
<b>【授業時間外学修】</b>					
スポーツ政策に関する記事（日本語だけでなく英語・フランス語）をまとめる。					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
よくわかるスポーツマネジメント（やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ）ミネルヴァ書房					
<b>【成績評価方法】</b>					
プレゼンテーションの内容50%、授業内での発言やレポート50%から判断する。					
<b>【関連科目】</b>					
スポーツ科学論特講					

科目名	スポーツ組織論特講		担当者	芳地 泰幸	
英文名	Sport Organization				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
あらゆる組織体は、その目標の達成、組織内システムの維持および外部環境への適応に努力を重ねている。本講義では、組織論や組織行動論の視覚からマネジメントに必要な「人間」と「組織」に関する基礎的な考え方や理論を学習し、人間をマネジメントするときに発生する問題の構造を理解する。さらに、様々な組織事例の理論的検討を通じてスポーツ組織の新たなマネジメントの在り方について検討する。					
<b>【授業計画】</b>					
1. 組織論とは何か			9. コンフリクトと交渉		
2. 個人の行動の基礎			10. 組織構造の基礎		
3. モチベーション理論の展開			11. 組織文化		
4. 意思決定			12. 人材管理の考え方と方法		
5. 集団行動とグループダイナミクス（集団力学）			13. 組織変革と組織開発		
6. コミュニケーションの機能とプロセス			14. チームづくりとチームビルディング		
7. リーダーシップと信頼の構築			15. 総括：スポーツ組織論の課題と展望		
8. 力（パワー）と政治					
<b>【到達目標】</b>					
経営学の系譜を踏まえ、組織論や組織行動論の視覚からマネジメントに必要な「人間」と「組織」に関する基礎理論を理解し、組織における問題を分析し解決するための実践的な知識と考え方を習得する。そして、様々な組織体における今日の課題の発見と解決策の提言ができるようになることが本講義の到達目標である。					
<b>【受講上の留意点】</b>					
積極的な参加と自主的な事前・事後学習を心掛けること。講義内で紹介する理論については自身の所属するスポーツ組織などの身近な事例に当てはめて理解するように努めること。さらに、講義内で紹介する文献（書籍、論文）については、自主的に取り寄せ、精読すること。また、講義内で組織事例（Case）に基づくディスカッションも計画しており、関連資料やテキストのリーディングアサインメントやレポート等の課題も課す予定である。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。 ※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。					
<b>【授業時間外学修】</b>					
関連資料やテキストのリーディングアサインメント、課題レポートを課す。					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
「新版 組織行動のマネジメント-入門から実践へ-」 スティーブンP. ロビンス（著）、高木晴夫（訳）ダイヤモンド社、2009年 ※その他参考文献や資料は講義時に紹介する（適宜、配布する）。					
<b>【成績評価方法】</b>					
課題レポートとディスカッションを50%、最終レポートの結果を50%として総合的に判断する。					
<b>【関連科目】</b>					
スポーツ科学論特講、スポーツマーケティング特講					

科目名	体育・スポーツ教育論特講		担当者	須甲理生																	
英文名	Sport and Physical Education																				
標準履修年次	2年	単位	2単位	区分	特講・選択																
<b>【授業概要・方法】</b>																					
<p>本講義では、我が国や諸外国の学校体育をめぐる現状と体育科教育学の学問体系について概説し、各論として体育科の目標論、教育課程論、教材づくり論、学習指導論、評価論に焦点を当て講義を展開していく。また、文献講読並びに実際の授業分析を通して、学習成果を高めるための体育授業の学習指導並びにその研究方法論についての理解を深めていく。さらに、授業分析の結果についてディスカッションをしていくことによって、授業設計や省察についての理解を深めていく。なお、本講義では、体育授業のVTRによる具体的な授業事例を視聴しながら講義を進めていく。</p>																					
<b>【授業計画】</b>																					
<table border="0"> <tr> <td>1. 学校体育をめぐる諸問題と現状</td> <td>9. 授業研究①：体育授業の観察、評価、分析の実践。特に、授業の勢いと雰囲気 に焦点を当てる。</td> </tr> <tr> <td>2. 体育の目標論：体育目標の変遷と体育概念の変化</td> <td>10. 授業研究②：体育授業の観察、評価、分析の実践。特に、教師行動に焦点を当てる。</td> </tr> <tr> <td>3. 体育の教育課程論：学習指導要領の内容と性格</td> <td>11. 授業研究③：体育授業の観察、評価、分析の実践。特に、学習者行動に焦点を当てる。</td> </tr> <tr> <td>4. 体育の教材づくり論：教材づくりの基本的視点と方法</td> <td>12. 授業研究④：体育授業の分析結果の解釈とグループディスカッション</td> </tr> <tr> <td>5. 体育の学習指導論：指導スタイルと学習指導モデル</td> <td>13. 授業研究⑤：体育授業の分析結果の解釈とグループディスカッション</td> </tr> <tr> <td>6. 体育の評価論</td> <td>14. 体育授業研究及び体育教師教育研究の動向</td> </tr> <tr> <td>7. 体育の授業分析法①：授業場面期間記録法による授業の勢いの分析と結果の解釈の仕方</td> <td>15. 総括：学習成果を高める体育授業の特徴と体育教師の学習指導</td> </tr> <tr> <td>8. 体育の授業分析法②：相互作用行動観察法による授業中の教師行動の分析と結果の活用方法</td> <td></td> </tr> </table>						1. 学校体育をめぐる諸問題と現状	9. 授業研究①：体育授業の観察、評価、分析の実践。特に、授業の勢いと雰囲気 に焦点を当てる。	2. 体育の目標論：体育目標の変遷と体育概念の変化	10. 授業研究②：体育授業の観察、評価、分析の実践。特に、教師行動に焦点を当てる。	3. 体育の教育課程論：学習指導要領の内容と性格	11. 授業研究③：体育授業の観察、評価、分析の実践。特に、学習者行動に焦点を当てる。	4. 体育の教材づくり論：教材づくりの基本的視点と方法	12. 授業研究④：体育授業の分析結果の解釈とグループディスカッション	5. 体育の学習指導論：指導スタイルと学習指導モデル	13. 授業研究⑤：体育授業の分析結果の解釈とグループディスカッション	6. 体育の評価論	14. 体育授業研究及び体育教師教育研究の動向	7. 体育の授業分析法①：授業場面期間記録法による授業の勢いの分析と結果の解釈の仕方	15. 総括：学習成果を高める体育授業の特徴と体育教師の学習指導	8. 体育の授業分析法②：相互作用行動観察法による授業中の教師行動の分析と結果の活用方法	
1. 学校体育をめぐる諸問題と現状	9. 授業研究①：体育授業の観察、評価、分析の実践。特に、授業の勢いと雰囲気 に焦点を当てる。																				
2. 体育の目標論：体育目標の変遷と体育概念の変化	10. 授業研究②：体育授業の観察、評価、分析の実践。特に、教師行動に焦点を当てる。																				
3. 体育の教育課程論：学習指導要領の内容と性格	11. 授業研究③：体育授業の観察、評価、分析の実践。特に、学習者行動に焦点を当てる。																				
4. 体育の教材づくり論：教材づくりの基本的視点と方法	12. 授業研究④：体育授業の分析結果の解釈とグループディスカッション																				
5. 体育の学習指導論：指導スタイルと学習指導モデル	13. 授業研究⑤：体育授業の分析結果の解釈とグループディスカッション																				
6. 体育の評価論	14. 体育授業研究及び体育教師教育研究の動向																				
7. 体育の授業分析法①：授業場面期間記録法による授業の勢いの分析と結果の解釈の仕方	15. 総括：学習成果を高める体育授業の特徴と体育教師の学習指導																				
8. 体育の授業分析法②：相互作用行動観察法による授業中の教師行動の分析と結果の活用方法																					
<b>【到達目標】</b>																					
<p>体育科教育学における各領域の研究動向を概観しながら、学習成果を高めるための体育授業の基礎的条件や内容的条件についての理解を深める。また、体育授業を分析していくための研究方法論についての理解を深める。</p>																					
<b>【受講上の留意点】</b>																					
<p>自身が受けてきた体育授業や教育実習等で実践してきた体育授業のイメージを想起しながら受講すること。グループワークやディスカッションの際は、積極的な取り組みが求められる。  ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。  ※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。</p>																					
<b>【授業時間外学修】</b>																					
<p>毎回の授業時に配布する論文を読んで予習・復習しておく。</p>																					
<b>【教科書・参考書など】</b>																					
<p>教科書は特に指定せず、適宜資料を配布する。  〈参考書〉  高橋健夫ほか編（2010）「新版体育科教育学入門」大修館書店  高橋健夫編（2003）「体育授業を観察評価する：授業改善のためのオーセンティック・アセスメント」明和出版</p>																					
<b>【成績評価方法】</b>																					
<p>授業時の提出物を40%、最終レポートを60%として評価する。</p>																					
<b>【関連科目】</b>																					
<p>スポーツ科学論特講、スポーツ教育科学特演Ⅰ～Ⅳ</p>																					

科目名	スポーツ運動発生論特講		担当者	石塚 浩	
英文名	Genetic movement theory in sport				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>運動の発生を成立させる根拠や条件に関する理論をもとに、運動を発生させる現実世界での「覚える－教える」という関係をどのように把握すればよいかを検討し、運動モルフォロジーの研究で主要な研究内容となる運動発生の理論について理解を深める。また、運動発生を確認する指導者側の他者観察や、学習者側の自己観察がどのように行われているのかを検討し、「動きのかたち」の発生に関して必要な観察視点を理解し、指導力向上に役立てる。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. 運動モルフォロジーにおける運動観察の意義(1)		9. 運動観察の理論と観察能力の向上(1)			
2. 運動モルフォロジーにおける運動観察の意義(2)		10. 運動観察の理論と観察能力の向上(2)			
3. 運動特性による運動観察の限界と映像化された運動特性からの運動観察の相違点		11. 運動発生における自己運動の検討			
4. 運動の「他者観察」とその方法論(1)		12. 運動発生における主体性や身体性の問題			
5. 運動の「他者観察」とその方法論(2)		13. 運動発生における「動きの感性学」の持つ意義(1)			
6. 運動の自己観察の特性と限界		14. 運動発生における「動きの感性学」の持つ意義(2)			
7. 「潜勢自己運動の自己観察」と「感覚アナログン」の関係(1)		15. 指導場面における「運動発生」に関わる諸能力の検討とまとめ			
8. 「潜勢自己運動の自己観察」と「感覚アナログン」の関係(2)					
<b>【到達目標】</b>					
<p>運動発生に関わる諸概念を理解するとともに、それに関わるスポーツ指導者として必要な能力を理解する。また、運動発生は、自然科学におけるサイバネティクス理論的な入力とそれに伴う出力といったS-R理論的でないことを理解し、複雑な階層構造を持ったなかで、受苦的（パトスの）な展開のなかで生み出されることを理解する。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>授業への出席は当然であり、厳密な理論に依拠した人間学的な領野の授業内容であるので、事前の予習、事後の復習は必須である。また、実際の指導現場との密接な関係点を見いだしていく考量的な姿勢が必要である。  ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。  ※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>下記の【教科書・参考書など】の熟読（該当箇所は授業内で指示をする）と配布プリントによる復習が必須である。</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>「マイネル・スポーツ運動学」：クルト・マイネル著、金子明友訳（大修館書店）、「教師のための運動学」：金子明友著・監修（大修館書店）、「動きの感性学」：金子明友著（大修館書店）、「ゲシュタルトクライス」：V. v. ヴァイツゼッカー（みすず書房）、スポーツ運動学：金子明友著（明和出版）</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>授業への出席は必須であり、授業内容を踏まえた論旨が明確なレポート作成を義務づける。評価は、授業でのコロキウム方式によるディスカッション、レポート内容で行う。</p>					
<b>【関連科目】</b>					
<p>スポーツコーチング論特講、スポーツ戦術論特講、スポーツ技術論特講、運動観察法演習</p>					

科目名	舞踊教育法特講		担当者	宮本乙女																	
英文名	Dance Education and Teaching Method of Dance																				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択																
<b>【授業概要・方法】</b>																					
<p>社会文化として人々と深くつながりを持つダンスの教育的価値や学校教育・学校体育の中の位置づけを押さえる。また、特に対象とする集団の発達段階や心身の特性に応じた、学習内容の選択・学習指導の展開・学習指導のポイント等について、具体的な事例をもとに議論していく。さらに、ダンス教育をめぐる検証、研究がどのように進められてきたかを概観し、現在の研究課題を明らかにする。</p>																					
<b>【授業計画】</b>																					
<table border="0"> <tr> <td>1. 学校体育におけるダンス</td> <td>9. 単元計画の考え方と学習の評価・評定</td> </tr> <tr> <td>2. ダンス教育の史的概観</td> <td>10. 体育か芸術か</td> </tr> <tr> <td>3. ダンス学習の目標・内容 学習指導要領を読む</td> <td>11. ダンス学習とジェンダー</td> </tr> <tr> <td>4. 学習内容の選択 学習の手がかりはどこから</td> <td>12. ダンス教育の検証 授業研究の進め方</td> </tr> <tr> <td>5. 学習指導方法 幼児～低学年・中学年</td> <td>13. ダンス教育と研究①（ラウンドテーブル）</td> </tr> <tr> <td>6. 学習指導方法 中学校～高等学校</td> <td>14. ダンス教育と研究②（ラウンドテーブル）</td> </tr> <tr> <td>7. 学習指導方法 特別支援 大学指導者養成</td> <td>15. ダンス教育と研究③（ラウンドテーブル）</td> </tr> <tr> <td>8. ダンスのグループ学習と指導</td> <td></td> </tr> </table>						1. 学校体育におけるダンス	9. 単元計画の考え方と学習の評価・評定	2. ダンス教育の史的概観	10. 体育か芸術か	3. ダンス学習の目標・内容 学習指導要領を読む	11. ダンス学習とジェンダー	4. 学習内容の選択 学習の手がかりはどこから	12. ダンス教育の検証 授業研究の進め方	5. 学習指導方法 幼児～低学年・中学年	13. ダンス教育と研究①（ラウンドテーブル）	6. 学習指導方法 中学校～高等学校	14. ダンス教育と研究②（ラウンドテーブル）	7. 学習指導方法 特別支援 大学指導者養成	15. ダンス教育と研究③（ラウンドテーブル）	8. ダンスのグループ学習と指導	
1. 学校体育におけるダンス	9. 単元計画の考え方と学習の評価・評定																				
2. ダンス教育の史的概観	10. 体育か芸術か																				
3. ダンス学習の目標・内容 学習指導要領を読む	11. ダンス学習とジェンダー																				
4. 学習内容の選択 学習の手がかりはどこから	12. ダンス教育の検証 授業研究の進め方																				
5. 学習指導方法 幼児～低学年・中学年	13. ダンス教育と研究①（ラウンドテーブル）																				
6. 学習指導方法 中学校～高等学校	14. ダンス教育と研究②（ラウンドテーブル）																				
7. 学習指導方法 特別支援 大学指導者養成	15. ダンス教育と研究③（ラウンドテーブル）																				
8. ダンスのグループ学習と指導																					
<b>【到達目標】</b>																					
<p>社会文化として人々と深くつながりを持つダンスの教育的価値や学校教育・学校体育の中の位置づけを理解する。またダンス教育に関する学術研究の動向と課題を把握し、各自の関心に引きつけて論じられるようにする。</p>																					
<b>【受講上の留意点】</b>																					
<p>本授業は、講義と受講生によるプレゼンテーションに基づく討議により進めていくので、授業への主体的、積極的な取り組みが求められる。  ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。  ※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。</p>																					
<b>【授業時間外学修】</b>																					
<p>授業前：課題として出されたテーマに基づいた文献などをあらかじめ検索し通読して理解しておく。  授業後：講義で紹介された文献や資料を読解し、各自の研究テーマに関連づけて解説できるようにする。</p>																					
<b>【教科書・参考書など】</b>																					
<p>適宜、資料を配付する。参考書として「中学校 学習指導要領解説 保健体育編」「明日からトライ！ダンスの授業」「みんなでトライ！表現運動の授業」「ダンスとジェンダー」「ダンスの教育学 第1巻」「体育授業を観察評価する」他</p>																					
<b>【成績評価方法】</b>																					
<p>授業におけるプレゼンテーションやその準備を50%、討論での発言内容・活動の状況を50%として総合的に評価する。</p>																					
<b>【関連科目】</b>																					
舞踊表現論特講																					

科目名	幼児スポーツ論特講		担当者	笹倉清則	
英文名	Sports for Children				
標準履修年次	2年	単位	2単位	区分	特講・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
人間は、泣くことそして呼吸をすることだけを身につけて生まれ、ほとんどすべての運動は生後に習得している。立つから始まり、歩く、走ると次第に運動は発達していき、その後すべてのスポーツにつながっていく。この授業では、誕生から就学前期までの幼児が、初歩的段階から基本的段階を経て、スポーツに関連する段階へと発展していく経過を理解し、それを理解した上でそれぞれの時期に必要な環境や遊び（運動課題）を提供していくかを学習する。また、運動の指導者に必要な運動観察の方法等についても学習する。					
<b>【授業計画】</b>					
1. ガイダンス	9. 学習転移について				
2. 子どもの運動学習の現状	10. 子どもの発達と運動 乳児期				
3. 子どもの運動学習の場における指導者の役割	11. 子どもの発達と運動 幼児期				
4. 運動を見抜くとはなにか	12. 子どもの発達と運動 就学前期				
5. 運動観察－1 他者観察	13. 諸外国にみられる子どもと運動				
6. 運動観察－2 自己観察と運動共感	14. 文献にみられる幼児とスポーツについて				
7. 子どもの学習位相－1	15. 子どもの運動発生と環境そして体育系大学の使命について				
8. 子どもの学習位相－2					
<b>【到達目標】</b>					
まず受講者全員が「運動」という言葉の共通認識を持つこと。その上で、これまでの各自の運動を取り巻く環境を振り返り、運動発達とそれを指導した指導者の係わり方を理解する。次に運動指導に必要な「見抜き」について学習し、そこから運動観察の重要性とメカニズムを理解する。 指導する側の重要性和学習する側（子ども）の発育発達と運動発達の関連について理解する。その中で日本の子どもの体力低下の要因を理解し、体育大学としての役割を理解する。最後にスポーツを生活の一部と位置づけている諸外国の状況を理解する。					
<b>【受講上の留意点】</b>					
講義中心だが、常に自分の専門で行ってきた運動や環境、そして係わってきた指導者を振り返りながら講義を理解する。また、今後の自分の進む方向にあわせて、子どもの運動発達や体力向上にどのように係わるかを体育大学という立場から捉えることが重要である。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。 ※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。					
<b>【授業時間外学修】</b>					
前半部分では、自分の指導実績や各自のこれまでの指導者を中心としての指導経験や体験をまとめる。後半部分では自分の幼児期の発生から修学以前までの「遊び」や「運動」の経験等をまとめたレポートの作成をし、それを基に後半の授業に発表する。					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
「子どもの教育 児童文化入門」岩波書店					
<b>【成績評価方法】</b>					
毎回の授業での問いかけに関する考え方や理解度40%、2回提出するレポート30%、最終まとめでの理解度30%					
<b>【関連科目】</b>					

科目名	舞踊表現論特講		担当者	八木ありさ	
英文名	Theory of Dance Movement				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
ダンス・ムーブメント（舞踊表現）という運動形式がもつ、芸術、教育、主張や交流の道具としての特徴を探り、理解してゆくことを目的とする。そのために、ダンスのもたらすコミュニケーションの構造を学び、力動イメージとしてのダンス・ムーブメントに対する認識を深める。					
<b>【授業計画】</b>					
1. ダンスの定義に向けて-舞踊学をかたちづくる諸領域		9. ダンスと教育(2)			
2. コミュニケーションの構造から見たダンスという現象		10. ダンスと健康(1)			
3. 「創る」をめぐる-創作という概念とオリジナリティへの視線		11. ダンスと健康(2)			
4. 「踊る」をめぐる-ダンサーの資質とトレーニングへの視線		12. ダンスと社会的規範			
5. 「観る」をめぐる-オーディエンスや批評家への視線		13. 再びダンスの核としての身体へ：リズムの本質			
6. ダンスと歴史(1)		14. イメージと身体			
7. ダンスと歴史(2)		15. ダンス・ムーブメント			
8. ダンスと教育(1)					
<b>【到達目標】</b>					
(1) ダンスを成立させる諸要素とそれらの関係を理解し、ダンス・ムーブメントの特徴を説明できる。					
(2) ダンスやそれを取り巻く現象を捉えた学術研究の動向と課題を把握し、各自の関心に引きつけて論じられる。					
<b>【受講上の留意点】</b>					
授業者から提供される情報と授業時間外学修の成果に基づく参加者同士のディスカッションにより授業を進行する。授業内で指定する文献・資料を熟読し、その内容に対しての考えを持った上で参加すること。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。 ※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。					
<b>【授業時間外学修】</b>					
毎時の終わりに、次回までの授業時間外学修課題を指定する。 (初回までの準備：能うかぎり「ダンス」の定義を収集し、授業で共有できる形式にしておくこと。)					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
授業内で適宜、資料を配布するほか、課題文献を指定する。					
<b>【成績評価方法】</b>					
授業におけるプレゼンテーションやその準備と討議等の取り組みを60%、レポート課題の成果を40%として総合的に評価する。					
<b>【関連科目】</b>					
舞踊教育法特講					

科目名	舞踊演出法特講		担当者	松澤慶信	
英文名	Stage Directing				
標準履修年次	2年	単位	2単位	区分	特講・選択
<b>【授業概要・方法】</b> 「ロマン的なるもの」がダンスやバレエの本質であることを確認する。					
<b>【授業計画】</b>					
1. 感情とは何か。感情の所在、基本感情とは何か。			9. バレエにおけるロマン的なるものとロマンティック・バレエ		
2. 絶対値としての感情と「気分」の概念を確認する。			10. ロマンティック・バレエのテキスト分析		
3. 情態性という概念			11. ロマンティック・バレエの戦略		
4. ダンスにおける再現すること、物語ることは何か。			12. 情景としてのバレエの歴史		
5. ダンスにおいて感情を表出することとは何か。			13. 『La Sylphide』と『Les Sylphides』		
6. 再現でも物語ることでも感情を表出することでもなく、ダンスは何をどのように自らを開陳するのか。			14. フォーキンのしたこと		
7. 時代概念としてのロマン主義と範疇概念としてのロマン主義、あるいはロマン主義とロマン的なるもの			15. 現代におけるロマン的なるもの		
8. 意味論的地平と存在論的地平が交差する地平上でのロマン的なるもの					
<b>【到達目標】</b> 英語文献をもとに、内容を読むことと、論理的思考を鍛える。					
<b>【受講上の留意点】</b> 積極的に授業のための準備にのぞむこと。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。 ※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。					
<b>【授業時間外学修】</b> 講義中に紹介した文献の読解					
<b>【教科書・参考書など】</b> 最初の授業時に受講者と相談してテキストを決める。参考書等は必要に応じて指示する。					
<b>【成績評価方法】</b> 授業ごとの受講者の取り組み方を、対話を通じて確認し、評価する。					
<b>【関連科目】</b> 比較舞踊学特講					



科目名	比較舞踊学特講		担当者	松澤慶信	
英文名	Comparative Theory of Dance				
標準履修年次	2年	単位	2単位	区分	特講・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
英語文献を使って、内容のみでなく、文献を読むこと自体を、そして論理的に考えることを鍛える。					
<b>【授業計画】</b>					
1. なぜ舞踊と音楽の関係を取り上げるのか。					
2. 関係とは何か。「実体」と「関係」という関係をまず確認する。					
3. 19世紀までの舞踊と音楽をみる。					
4. ロマンティック・バレエ以降のバレエ音楽を確認する。					
5. 三流作曲家のバレエ音楽とバレエ					
6. プティパの三大バレエとチャイコフスキーの音楽の分析					
7. フォーキンの『レ・シルフィード』とショパン					
8. ダンカンによる既存音楽の使用の衝撃					
9. マシーンのシンフォニック・バレエ					
10. 抽象バレエとは何か。					
11. バランシンの戦略					
12. バランシン作品の分析					
13. 表現主義舞踊あるいはモダンダンスと音楽					
14. カニングハムのメタダンスと音楽					
15. 舞踊と音楽の関係の諸相					
<b>【到達目標】</b>					
舞踊と音楽の関係を探ることで、舞踊の本質とは何かを突き詰めたい。					
<b>【受講上の留意点】</b>					
積極的に授業のための準備にのぞむこと。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。 ※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。					
<b>【授業時間外学修】</b>					
講義中に紹介した文献の読解					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
受講者と相談して基本テキストを決める。参考書等は授業中に指示する。					
<b>【成績評価方法】</b>					
授業ごとの受講者の取り組み方を、対話を通じて確認し、評価する。					
<b>【関連科目】</b>					
舞踊演出法特講					

科目名	マルチメディア・パフォーマンス特講		担当者	高野美和子	
英文名	Multimedia Performance				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
マルチメディア・パフォーマンスが成立してきた背景や現状、構造の特徴などについて、実際の作品映像や文献を通じて理解し、今後の可能性について考察、検討することを目的とする。また、PCによる基本的な音響、映像の加工、編集ソフトの使用方法を理解し、実際にそれらを用いた作品制作も行う。					
<b>【授業計画】</b>					
1. ダンス作品の中のマルチメディア			9. 画像、映像、音編集の方法と技術④		
2. マルチメディア・パフォーマンスの歴史①			10. 画像、映像、音編集の方法と技術⑤		
3. マルチメディア・パフォーマンスの歴史②			11. 作品制作①		
4. マルチメディア・パフォーマンスの歴史③			12. 作品制作②		
5. マルチメディア・パフォーマンスの現在			13. 作品制作③		
6. 画像、映像、音編集の方法と技術①			14. 作品制作④		
7. 画像、映像、音編集の方法と技術②			15. 作品発表 鑑賞 総括		
8. 画像、映像、音編集の方法と技術③					
<b>【到達目標】</b>					
マルチメディア・パフォーマンスが成立してきた背景と現在、その可能性について、様々な資料・文献講読、実際の作品制作を通じて、理解し考察する。					
<b>【受講上の留意点】</b>					
本講義は教員側からの講義だけでなく、PCを使った編集技術の習得や作品制作など学生自身が積極的に参加する授業形態をとるため、毎時間の授業に主体的に取り組む姿勢が求められる。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、別途課題を出して対応する。 ※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。					
<b>【授業時間外学修】</b>					
毎回の授業後、学習した要点をまとめ、関連事項について資料収集等をする。					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
No fixed points (2003) Yale University Press 20世紀ダンス史 (2013) 慶應義塾大学出版会 『舞台芸術』02特集:メディア・テクノロジー (2002) 京都造形芸術大学舞台芸術研究センター					
<b>【成績評価方法】</b>					
講義内容の理解度を60%、授業中に提出されるレポートを20%、発表作品を20%として評価する。					
<b>【関連科目】</b>					
マルチメディア方法演習					

科目名	健康教育とヘルスプロモーション特講		担当者	助友裕子																	
英文名	Health Promotion and Education																				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択																
<b>【授業概要・方法】</b>																					
<p>健康教育は、家庭、学校、職場、地域などあらゆる生活場面において実施されている。人々が自らの健康とその決定要因を制御することができるようにするために、個人への教育、ひいては教育環境を整備したり、あらゆる生活場面に健康づくりの機会が設けられるような政策にまで及ぶヘルスプロモーション戦略が不可欠である。本特講では、健康教育とヘルスプロモーション戦略の基礎をふまえて、国内外の取組みから、健康教育とヘルスプロモーション活動の評価枠組みについて解説し、受講者各人の関心領域をふまえたディスカッションを行う。</p>																					
<b>【授業計画】</b>																					
<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. 女性の健康教育とエンパワメント</td> </tr> <tr> <td>2. WHOのヘルスプロモーション戦略</td> <td>10. ソーシャルキャピタル</td> </tr> <tr> <td>3. 環境と健康</td> <td>11. 健康の社会的決定要因</td> </tr> <tr> <td>4. ヘルスリテラシー</td> <td>12. 保健医療制度と安全な社会づくり</td> </tr> <tr> <td>5. ヘルスプロモーションスクール</td> <td>13. ヘルシーシティ</td> </tr> <tr> <td>6. 労働と健康</td> <td>14. 疾病対策と健康教育</td> </tr> <tr> <td>7. ヘルスコミュニケーション</td> <td>15. 健康教育・ヘルスプロモーション研究のデザイン</td> </tr> <tr> <td>8. 生涯を通じる健康</td> <td></td> </tr> </table>						1. オリエンテーション	9. 女性の健康教育とエンパワメント	2. WHOのヘルスプロモーション戦略	10. ソーシャルキャピタル	3. 環境と健康	11. 健康の社会的決定要因	4. ヘルスリテラシー	12. 保健医療制度と安全な社会づくり	5. ヘルスプロモーションスクール	13. ヘルシーシティ	6. 労働と健康	14. 疾病対策と健康教育	7. ヘルスコミュニケーション	15. 健康教育・ヘルスプロモーション研究のデザイン	8. 生涯を通じる健康	
1. オリエンテーション	9. 女性の健康教育とエンパワメント																				
2. WHOのヘルスプロモーション戦略	10. ソーシャルキャピタル																				
3. 環境と健康	11. 健康の社会的決定要因																				
4. ヘルスリテラシー	12. 保健医療制度と安全な社会づくり																				
5. ヘルスプロモーションスクール	13. ヘルシーシティ																				
6. 労働と健康	14. 疾病対策と健康教育																				
7. ヘルスコミュニケーション	15. 健康教育・ヘルスプロモーション研究のデザイン																				
8. 生涯を通じる健康																					
<b>【到達目標】</b>																					
<p>本特講の受講者は、自らの研究領域におけるヘルスプロモーション活動の実際を想起したり科学的に説明したりすることができるようにする。また、科学的根拠に基づいた健康情報がいかにして作られているのかを、説明することができるようにする。</p>																					
<b>【受講上の留意点】</b>																					
<p>授業は、受講者による討論を中心に進める。そのため、受講者は、事前に提示された資料等をもとに自らの意見を整理した上で授業に臨み、積極的に参加することが求められる。  ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。  ※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。</p>																					
<b>【授業時間外学修】</b>																					
<p>WHO、厚生労働省や文部科学省等のヘルスプロモーション施策に関する時事情報を提供するので、定期的にそれらに目を通すこと。</p>																					
<b>【教科書・参考書など】</b>																					
<p>適宜提示する。</p>																					
<b>【成績評価方法】</b>																					
<p>授業への取組み姿勢50%、レポート50%で総合的に評価する。</p>																					
<b>【関連科目】</b>																					
<p>ライフステージと健康科学論特講</p>																					

科目名	体育・スポーツ史特講		担当者	都 筑 真	
英文名	History of Sport and Physical Education				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>「スポーツは社会を映す鏡である」と言われるように、スポーツは各時代の社会の影響を色濃く受けながら変化している。また、スポーツを主たる教材とする学校体育の指針となる学習指導要領も、各時代のスポーツをめぐる状況が反映されて変化している。本講義では、明治期から現代に至るまでの国内外のスポーツ史を概観しながら、各時代における体育の学習指導要領の目標や内容を理解していく。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. 体育・スポーツ史学の研究方法			9. 戦後におけるスポーツと武道の展開		
2. スポーツとナショナリズム			10. 戦前における学校体操教授要目		
3. スポーツの国際的組織化			11. 「新体育」や「生活体育」を謳う時期の学習指導要領		
4. スポーツとメディア・スポンサー			12. 基礎的運動能力体力重視の時期の学習指導要領		
5. 国際総合スポーツ大会の諸相			13. 「楽しい体育」を謳う時期の学習指導要領		
6. 開発のためのスポーツ			14. 体育の内容を明確化した時期の学習指導要領		
7. 明治期におけるスポーツと武術			15. 社会状況の変化に伴う学習指導要領の変遷		
8. 大正期と昭和戦前期におけるスポーツの普及と武道の創出					
<b>【到達目標】</b>					
<p>近現代のスポーツ史や体育の学習指導要領に関する知識を習得するとともに、社会状況の変化がスポーツや体育の学習指導要領に及ぼす影響についても理解を深めることが本講義の到達目標である。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>講義では毎回、講義内容の理解を深めるために、小レポートを課す。  講義に臨むにあたっては、講義前後の積極的かつ自主的な学習が求められる。  ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。  ※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>講義で紹介する著書や論文などの資料を精読するなど積極的かつ自主的な事前・事後学習を心がけること。</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>特定の教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。  &lt;参考書&gt;  高橋健夫ほか編（2010）『新版体育科教育学入門』大修館書店  坂上康博ほか編（2018）『スポーツの世界史』一色出版</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>講義ごとに課す小レポート(40%)、期末課題(60%)で評価する。</p>					
<b>【関連科目】</b>					
<p>スポーツ科学論特講、体育・スポーツ教育論特講、スポーツ教育科学特演Ⅰ～Ⅳ</p>					

科目名	スポーツ医科学特演 I		担当者	夏井裕明	
英文名	Seminar in Sport Medicine I				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b> スポーツ医学研究の方法を学習する。					
<b>【授業計画】</b>					
1. オリエンテーション			9. 先行研究内容の検討(5)		
2. スポーツ医学研究の方法論			10. 先行研究内容の検討(6)		
3. 研究内容の検討(1)			11. 先行研究内容の検討(7)		
4. 研究内容の検討(2)			12. 先行研究内容の検討(8)		
5. 先行研究内容の検討(1)			13. 先行研究内容の検討(9)		
6. 先行研究内容の検討(2)			14. 研究計画の検討(1)		
7. 先行研究内容の検討(3)			15. 研究計画の検討(2)		
8. 先行研究内容の検討(4)					
<b>【到達目標】</b> スポーツ医学研究を立案することができるようになる。					
<b>【受講上の留意点】</b> スポーツ医学特講、スポーツ生理学特講、体力とスキルのトレーニング科学特講、ライフステージと健康科学論特講、スポーツ栄養学特講、測定方法演習を履修することが望ましい。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。					
<b>【授業時間外学修】</b> 研究テーマに沿った教科書・参考書・日本語文献を検索し、熟読する。					
<b>【教科書・参考書など】</b> 特に定めない。					
<b>【成績評価方法】</b> 研究への取り組み方で評価する。					
<b>【関連科目】</b> スポーツ医学特講、スポーツ生理学特講、体力とスキルのトレーニング科学特講、ライフステージと健康科学論特講、スポーツ栄養学特講、測定方法演習					

科目名	スポーツ医科学特演 I		担当者	星川佳広	
英文名	Seminar in Sport Medicine I				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>体力トレーニングやコンディショニング、運動生理学等に関連するスポーツ医科学分野の文献抄読と議論を行う。科学論文とは何かを理解し、先行研究をまとめ、研究テーマを設定する</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. イントロダクション		9. 文献紹介・発表④			
2. 興味あるテーマの発表①		10. 文献紹介・発表⑤			
3. 興味あるテーマの発表②		11. 先行研究のまとめ、研究テーマの検討①			
4. 文献調査法・科学論文とは①		12. 先行研究のまとめ、研究テーマの検討②			
5. 文献調査法・科学論文とは②		13. 先行研究のまとめ、研究テーマの検討③			
6. 文献紹介・発表①		14. 研究テーマの確定①			
7. 文献紹介・発表②		15. 研究テーマの確定②			
8. 文献紹介・発表③					
<b>【到達目標】</b>					
<p>科学論文を検索し要約することができる。自分の興味とは別に客観的、批判的に先行研究を読む習慣を身につけ、オリジナリティの高い研究テーマを設定する</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>多数の文献を検索し、読み込む時間が必要になる  ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>文献を読み込む</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>必要に応じて資料を配布する</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>提出課題、レポートの完成度および授業への取り組み方から評価する</p>					
<b>【関連科目】</b>					
<p>スポーツ医学特講、スポーツ生理学特講、スポーツバイオメカニクス特講、体力とスキルのトレーニング科学特講、測定方法演習</p>					

科目名	スポーツ医科学特演 I		担当者	湯田 淳	
英文名	Seminar in Sport Medicine I				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>スポーツバイオメカニクスでは様々な測定機器を用いてスポーツ動作を計測し、分析が行われる。本特演では、動作分析に関連した測定項目算出までの一連の流れを把握し、実際の測定を通してスポーツバイオメカニクスにおけるデータ収集法を身につける。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. スポーツバイオメカニクスにおける研究論文		9. 動作分析におけるデータ処理（2次元・3次元座標算出）			
2. 動作分析の概要		10. 動作分析におけるデータ処理（キネマティクス1）			
3. 動作分析におけるデータ収集（2次元分析）		11. 動作分析におけるデータ処理（キネマティクス2）			
4. 動作分析におけるデータ収集（3次元分析）		12. 動作分析におけるデータ処理（キネマティクス3）			
5. 動作分析におけるデータ収集（地面反力計測）		13. 動作分析におけるデータ処理（キネティクス1）			
6. 動作分析におけるデータ処理（デジタイズ1）		14. 動作分析におけるデータ処理（キネティクス2）			
7. 動作分析におけるデータ処理（デジタイズ2）		15. 総合討論			
8. 動作分析におけるデータ処理（デジタイズ3）					
<b>【到達目標】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツバイオメカニクスで使用する様々な計測機器（ビデオカメラやフォースプレートなど）を扱うことができる。</li> <li>・目的とするデータを算出するための実験設定を選択し、正確にデータを収集することができる。</li> <li>・キネマティクス分析（身体重心や関節角度など）およびキネティクス分析（地面反力や関節トルクなど）を進めることができる。</li> </ul>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>授業は実習形式で進められ、配布された資料に沿って各種測定機器を操作しながら授業が展開される。受講者には、機器操作上の留意点をメモしながら使用方法を理解する努力が求められる。また、データ処理では、動作分析に特化した分析用ソフトウェアを使用し、各種データが算出される。ソフトウェアを駆使するためには十分なコンピューターの理解が要求される。</p> <p>※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
各種計測機器を操作し、使用についての理解を深める。					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
教科書は特に指定しない。適宜、参考資料を配付する。					
<b>【成績評価方法】</b>					
期末レポートで評価する。					
<b>【関連科目】</b>					
スポーツバイオメカニクス特講					

科目名	スポーツ医科学特演Ⅱ		担当者	夏井裕明	
英文名	Seminar in Sport Medicine Ⅱ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b> スポーツ医学研究の方法を学習する。					
<b>【授業計画】</b>					
1. 研究の実施(1)		9. 研究の実施(9)			
2. 研究の実施(2)		10. 研究の実施(10)			
3. 研究の実施(3)		11. 研究の実施(11)			
4. 研究の実施(4)		12. 研究の実施(12)			
5. 研究の実施(5)		13. 研究の実施(13)			
6. 研究の実施(6)		14. 研究の実施(14)			
7. 研究の実施(7)		15. 研究の実施(15)			
8. 研究の実施(8)					
<b>【到達目標】</b> スポーツ医学研究を実行することができるようになる。					
<b>【受講上の留意点】</b> スポーツ医学特講、スポーツ生理学特講、体力とスキルのトレーニング科学特講、ライフステージと健康科学論特講、スポーツ栄養学特講、測定方法演習を履修することが望ましい。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。					
<b>【授業時間外学修】</b> 研究テーマに沿った日本語文献・英語文献を検索し、理解しておく。					
<b>【教科書・参考書など】</b> 特に定めない。					
<b>【成績評価方法】</b> 研究への取り組み方で評価する。					
<b>【関連科目】</b> スポーツ医学特講、スポーツ生理学特講、体力とスキルのトレーニング科学特講、ライフステージと健康科学論特講、スポーツ栄養学特講、測定方法演習					



科目名	スポーツ医科学特演Ⅱ		担当者	星川佳広	
英文名	Seminar in Sport Medicine Ⅱ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
研究テーマについてその目的や位置づけを明確にする。測定機器の原理、操作に習熟し、予備実験や事前測定を行い、適切なプロトコル設定や予備データの検討等を経て、具体的な実験計画を作成する。					
<b>【授業計画】</b>					
1. 研究目的の明確化①		9. 予備実験・事前測定②			
2. 研究目的の明確化②		10. 予備実験・事前測定③			
3. 実験・測定装置の習熟①		11. 予備実験・事前測定結果の検討①			
4. 実験・測定装置の習熟②		12. 予備実験・事前測定結果の検討②			
5. 実験・測定装置の習熟③		13. 予備実験・事前測定結果の検討③			
6. 予備実験・事前測定計画①		14. 実験・測定計画①			
7. 予備実験・事前測定計画②		15. 実験・測定計画②			
8. 予備実験・事前測定①					
<b>【到達目標】</b>					
研究目的を明確にする。実験、測定機器に習熟し、予備実験、事前測定を通して研究テーマに沿った実験・測定計画を立てることができる。予備実験結果をプレゼンテーションすることができる。					
<b>【受講上の留意点】</b>					
実験・測定装置への習熟および予備実験には時間を要する。トライアンドエラーの繰り返しと粘り強い姿勢が必要で、それが後々効いてくる。予備実験結果を学会発表するレベルまで仕上げることを意識しておくこと ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。					
<b>【授業時間外学修】</b>					
実験・測定装置操作法の習熟，学会発表の準備					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
必要に応じて資料を配布する					
<b>【成績評価方法】</b>					
提出課題、レポートの完成度および授業への取り組み方から評価する					
<b>【関連科目】</b>					
スポーツ医学特講、スポーツ生理学特講、スポーツバイオメカニクス特講、体力とスキルのトレーニング科学特講、測定方法演習					

科目名	スポーツ医科学特演Ⅱ		担当者	湯田 淳	
英文名	Seminar in Sport Medicine Ⅱ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>スポーツバイオメカニクス分野における様々な体力および技術の向上に関連した文献を読み、内容をまとめて発表することによって、スポーツ科学における研究の実態を把握する。また、私見を交えながら文献の内容を検討することによって、研究の限界や発展などについて考察する能力を養い、各自の研究課題の設定に繋げる。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. 文献研究の方法			9. 文献の要約および発表7		
2. 文献収集法			10. 文献の要約および発表8		
3. 文献の要約および発表1			11. 文献の要約および発表9		
4. 文献の要約および発表2			12. 文献の要約および発表10		
5. 文献の要約および発表3			13. 文献の要約および発表11		
6. 文献の要約および発表4			14. 文献の要約および発表12		
7. 文献の要約および発表5			15. 総合討論		
8. 文献の要約および発表6					
<b>【到達目標】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の研究課題に関連した文献を収集することができる。</li> <li>・科学論文の体裁を理解し、図表によって示されたデータを解釈しながら文献を読み進めることができる。</li> <li>・要点を絞って文献をまとめ、内容を説明することができる。</li> </ul>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>科学論文の作成においては、関連する論文を調査し、すでに明らかとなっている点やまだ明らかとなっていない点などを十分に検討する必要がある。本特演では、国内および国外における各自の研究課題に関連した論文をまとめ、発表することによって文献研究の能力を養う。このため、受講者には、発表へ向けての資料づくりに多くの時間を費やすことが要求される。</p> <p>※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>関連する科学論文を収集し、発表用資料として効果的にまとめるため、バイオメカニクスの分析方法の理解を深める。</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>教科書は特に指定しない。適宜、参考資料を配付する。</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>課題（文献発表）を60%、期末レポートを40%の割合として評価する。</p>					
<b>【関連科目】</b>					
<p>スポーツバイオメカニクス特講</p>					

科目名	スポーツ医科学特演Ⅲ		担当者	夏井裕明	
英文名	Seminar in Sport Medicine Ⅲ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b> スポーツ医学研究の方法を学習する。					
<b>【授業計画】</b>					
1. オリエンテーション			9. 研究の実施(7)		
2. 研究実施状況の検討			10. 研究の実施(8)		
3. 研究の実施(1)			11. 研究の実施(9)		
4. 研究の実施(2)			12. 研究の実施(10)		
5. 研究の実施(3)			13. 研究結果の考察		
6. 研究の実施(4)			14. 研究結果の発表準備		
7. 研究の実施(5)			15. 研究結果の発表		
8. 研究の実施(6)					
<b>【到達目標】</b> スポーツ医学研究を実行することができるようになる。					
<b>【受講上の留意点】</b> スポーツ医学特講、スポーツ生理学特講、体力とスキルのトレーニング科学特講、ライフステージと健康科学論特講、スポーツ栄養学特講、測定方法演習を履修することが望ましい。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。					
<b>【授業時間外学修】</b> 研究テーマに沿った英語文献を検索し、考察しておく。					
<b>【教科書・参考書など】</b> 特に定めない。					
<b>【成績評価方法】</b> 研究への取り組み方で評価する。					
<b>【関連科目】</b> スポーツ医学特講、スポーツ生理学特講、体力とスキルのトレーニング科学特講、ライフステージと健康科学論特講、スポーツ栄養学特講、測定方法演習					

科目名	スポーツ医科学特演Ⅲ		担当者	星川佳広	
英文名	Seminar in Sport Medicine Ⅲ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b> 実験や測定を行いデータを取得する。データを多角的に分析、考察ができるように結果を適切に可視化（グラフ化）する。					
<b>【授業計画】</b>					
1. 実験・測定①		9. 実験・測定⑨			
2. 実験・測定②		10. データ整理、グラフ作成、統計①			
3. 実験・測定③		11. データ整理、グラフ作成、統計②			
4. 実験・測定④		12. データ整理、グラフ作成、統計③			
5. 実験・測定⑤		13. データ整理、グラフ作成、統計④			
6. 実験・測定⑥		14. 方法、結果の書き方①			
7. 実験・測定⑦		15. 方法、結果の書き方②			
8. 実験・測定⑧					
<b>【到達目標】</b> 実験・測定を行いデータを収集する。コンピュータを使い分析する					
<b>【受講上の留意点】</b> 実験・測定を成功させるためには、徹底した事前準備が必要である ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。					
<b>【授業時間外学修】</b> きめ細かい事前準備					
<b>【教科書・参考書など】</b> 必要に応じて資料を配布する					
<b>【成績評価方法】</b> 研究への取り組み方から評価する					
<b>【関連科目】</b> スポーツ医学特講、スポーツ生理学特講、スポーツバイオメカニクス特講、体力とスキルのトレーニング科学特講、測定方法演習					

科目名	スポーツ医科学特演Ⅲ		担当者	湯田 淳	
英文名	Seminar in Sport Medicine Ⅲ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>スポーツバイオメカニクスでは様々な測定機器を用いてスポーツ動作を計測し、多くの測定項目を算出することができる。個々の研究課題に合致した測定項目を選択し、課題達成へ向けた十分な考察を進めるためには、算出方法に関する十分な理解が必要となる。本特演では、動作分析に関連した測定項目算出における理論的背景を理解し、スポーツバイオメカニクスにおけるデータ解釈の留意点を把握する。また、測定を進めるための実践的能力を身につける。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. スポーツバイオメカニクスにおける研究対象 1		9. データ算出の理論的背景（キネマティクス 1）			
2. スポーツバイオメカニクスにおける研究対象 2		10. データ算出の理論的背景（キネマティクス 2）			
3. 画像データ収集法の理論的背景（2次元分析）		11. データ算出の理論的背景（キネマティクス 3）			
4. 画像データ収集法の理論的背景（3次元分析）		12. データ算出の理論的背景（キネマティクス 4）			
5. 地面反力計測法の理論的背景		13. データ算出の理論的背景（キネティクス 1）			
6. 画像解析における座標算出法 1		14. データ算出の理論的背景（キネティクス 2）			
7. 画像解析における座標算出法 2		15. 総合討論			
8. 画像解析における座標算出法 3					
<b>【到達目標】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツバイオメカニクスにおける計測機器（ビデオカメラやフォースプレートなど）の使用上の留意点を把握し、説明することができる。</li> <li>・目的とするデータをより正確に算出するための実験設定を選択し、実験を進めることができる。</li> <li>・キネマティクス分析（身体重心や関節角度など）およびキネティクス分析（地面反力や関節トルクなど）における測定項目の算出方法を理解し、十分なデータの解釈を進めることができる。</li> </ul>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>本特演では、動作分析に関する実験を効果的に進める能力を養うため、実習を通して測定機器の使用上の留意点を他者に説明する能力が求められる。このため、受講者は、スポーツ医科学特演Ⅰで学んだ機器操作方法を十分に把握することが必要となる。また、必要に応じて目的とするデータを算出するための能力を養うため、数値計算ソフトウェア等を活用したデータ処理法の十分な理解が求められる。</p> <p>※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
各種測定で収集したバイオメカニクスのデータを処理し、目指すべき知見を引き出すための手法について検討する。					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
教科書は特に指定しない。適宜、参考資料を配付する。					
<b>【成績評価方法】</b>					
期末レポートで評価する。					
<b>【関連科目】</b>					
スポーツバイオメカニクス特講					

科目名	スポーツ医科学特演Ⅳ		担当者	夏井裕明	
英文名	Seminar in Sport Medicine Ⅳ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b> スポーツ医学研究の方法を学習する。					
<b>【授業計画】</b>					
1. 研究結果の考察(1)		9. 研究結果に対する総合討論(1)			
2. 研究結果の考察(2)		10. 研究結果に対する総合討論(2)			
3. 研究結果の考察(3)		11. 研究結果に対する総合討論(3)			
4. 研究結果の考察(4)		12. 研究結果に対する総合討論(4)			
5. 研究結果の考察(5)		13. 研究結果に対する総合討論(5)			
6. 研究結果の考察(6)		14. 研究結果に対する総合討論(6)			
7. 研究結果の発表準備		15. 研究結果の総合的発表			
8. 研究結果の発表					
<b>【到達目標】</b> スポーツ医学研究の結果をまとめることができるようになる。					
<b>【受講上の留意点】</b> スポーツ医学特講、スポーツ生理学特講、体力とスキルのトレーニング科学特講、ライフステージと健康科学論特講、スポーツ栄養学特講、測定方法演習を履修することが望ましい。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。					
<b>【授業時間外学修】</b> 研究テーマに沿って収集した参考文献を駆使して、考察に資するよう熟読・理解しておく。					
<b>【教科書・参考書など】</b> 特に定めない。					
<b>【成績評価方法】</b> 研究への取り組み方で評価する。					
<b>【関連科目】</b> スポーツ医学特講、スポーツ生理学特講、体力とスキルのトレーニング科学特講、ライフステージと健康科学論特講、スポーツ栄養学特講、測定方法演習					

科目名	スポーツ医科学特演Ⅳ		担当者	星川佳広	
英文名	Seminar in Sport Medicine Ⅳ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>科学論文の書き方について学び、各自の研究結果を論文としてまとめる。また、口頭発表や学術誌への投稿など研究成果の公表法を学ぶ。必要に応じて再実験、追加測定を行う</p>					
<b>【授業計画】</b>					
<p>1. データの考察・再実験、追加測定①</p> <p>2. データの考察・再実験、追加測定②</p> <p>3. 文献整理</p> <p>4. 緒言の書き方①</p> <p>5. 緒言の書き方②</p> <p>6. 緒言の書き方③</p> <p>7. 考察の書き方①</p> <p>8. 考察の書き方②</p> <p>9. 考察の書き方③</p> <p>10. 要約の書き方①</p> <p>11. 要約の書き方②</p> <p>12. 口頭発表法①</p> <p>13. 口頭発表法②</p> <p>14. 論文投稿①</p> <p>15. 論文投稿②</p>					
<b>【到達目標】</b>					
<p>科学論文の構成を理解し、論理的かつ明確な論文を作成し、完成度を高める。スライドを用いた口頭発表とともに学術誌への投稿までを準備する。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>自身が行ったことを客観的（他人が理解できるように）に整理、伝達する力が求められる。他人からの意見に丁寧に答える姿勢が必要になる。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>よりよい説明には繰り返しの推敲が必要で、常時、頭と体をフルに動員して考えることになる。学術誌への投稿を準備する</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>必要に応じて資料を配布する</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>論文、口頭発表の完成度より評価する</p>					
<b>【関連科目】</b>					
<p>スポーツ医学特講、スポーツ生理学特講、スポーツバイオメカニクス特講、体力とスキルのトレーニング科学特講、測定方法演習</p>					

科目名	スポーツ医科学特演IV		担当者	湯田 淳	
英文名	Seminar in Sport Medicine IV				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
スポーツバイオメカニクス分野における体力および技術の向上に関連した科学論文の書き方について学び、各自の研究結果を論文としてまとめる。また、学会発表や学術雑誌への投稿などといった研究成果の公表の仕方を身につける。					
<b>【授業計画】</b>					
1. 科学論文の構成			9. 科学論文の書き方（結論）		
2. 科学論文の書き方（図作成法）			10. 科学論文の書き方（参考文献、謝辞）		
3. 科学論文の書き方（表作成法）			11. 発表の仕方（スライド作成法1）		
4. 科学論文の書き方（緒言）			12. 発表の仕方（スライド作成法2）		
5. 科学論文の書き方（文献研究）			13. 投稿論文のまとめ方1		
6. 科学論文の書き方（方法）			14. 投稿論文のまとめ方2		
7. 科学論文の書き方（結果）			15. 総合討論		
8. 科学論文の書き方（考察）					
<b>【到達目標】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 科学論文の構成を理解する。</li> <li>・ 科学論文における図表の読み取り方を把握し、各自のデータを基に効果的な図表を作成できる。</li> <li>・ 科学論文の書き方（緒言、文献研究、方法、結果、考察、結論）を理解し、明確な文章を作成することができる。</li> <li>・ スライドを使用したプレゼンテーションの仕方を理解し、各自のデータを基に発表を進めることができる。</li> <li>・ 学術雑誌への投稿の仕方を理解し、各自のデータを基に投稿を進めることができる。</li> </ul>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>科学論文の作成においては、所定の記述方法に従って明確に文章や図表を作成する必要がある。本特演では、先行研究のまとめおよび発表と、各自が記述した論文の見直し（添削）を進めることによって、優れた科学論文を作成する能力を養う。また、スライドを用いた発表の仕方や投稿論文としてのまとめ方を身につける。このため、受講者には、これらの資料づくりに多くの時間を費やすことが要求される。</p> <p>※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
過去の科学論文や発表用スライドを確認し、よりよい資料作成のための課題について検討する。					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
教科書は特に指定しない。適宜、参考資料を配付する。					
<b>【成績評価方法】</b>					
課題（科学論文の書き方など）を60%、期末レポートを40%の割合として評価する。					
<b>【関連科目】</b>					
スポーツバイオメカニクス特講					



科目名	スポーツ運動学特演 I		担当者	石塚 浩	
英文名	Seminar in Sport Movement I				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>「運動技能」と「競技力」の共通部分と差異を浮き彫りにし、その構造について明らかにする。さらに、代表的なこれらの構成要因となる「技術」、「体力」、「戦術」の相互関係とともに、実践場面で用いられる様々なトレーニングの問題性について理解を深め、指導体系を再度検討し直すことによって、実践場面との関連を深めていくことをねらいとする。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. 競技力の構造とその構成要因との関係性(1)		9. 競技力の歴史的な変遷（戦術的な側面）			
2. 競技力の構造とその構成要因との関係性(2)		10. 競技力の歴史的な変遷（専門的な体力の側面）			
3. 運動技能の構造と競技力の構造の関係性(1)		11. 競技力向上のための方策（スポーツ基本法を下敷きにして）			
4. 運動技能の構造と競技力の構造の関係性(2)		12. 競技力向上のための方策（JOCゴールドプランを下敷きにして）			
5. 運動技術の構造		13. 競技力向上のための方策（各種競技団体による競技者育成プログラムを下敷きにして）			
6. 戦術の構造		14. 競技力向上のための方策（タレント発掘・選抜・育成を下敷きにして）			
7. 専門的な体力トレーニングの構造		15. 授業全体のまとめとディスカッション			
8. 競技力の歴史的な変遷（技術的な側面）					
<b>【到達目標】</b>					
<p>競技力、運動技能という用語の持つ階層構造を理解するとともに、その向上方策として行われている各種施策について検討する。また、自己の経験や、その活動を通して行われてきている方法論について新たな提案をすることができるようにする。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>授業への出席は当然であり、様々な方向から検討を加え、新たな方向性を打ち立てるような発想を創り出す考量的態度が重要である。また、自己のスポーツ活動の経験から、様々な施策の意味とその効果を検討できるようにする。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>下記の【教科書・参考書など】の熟読（該当箇所は授業内で指示をする）と配布プリントによる復習が必須である。</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>「スポーツ基本法」：文部科学省発行、「JOCゴールドプラン」：日本オリンピック委員会発行 「タレント発掘・選抜・育成」：石塚、加藤、小海訳・監修（日本女子体育大学トレーニングセンター紀要）</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>授業への出席は必須であり、授業内容を踏まえた論旨が明確なレポート作成を義務づける。評価は、授業でのコロキウム方式によるディスカッション、レポート内容で行う。</p>					
<b>【関連科目】</b>					
<p>スポーツ運動発生論特講、スポーツコーチング論特講、スポーツ戦術論特講、スポーツ技術論特講、運動観察法演習</p>					

科目名	スポーツ運動学特演Ⅰ		担当者	小海隆樹	
英文名	Seminar in Sport MovementⅠ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>発生論的運動学の専門用語について解説をする。そこから、人間の運動としての「動きが発生する」という意味について改めて確認をし、動きの指導者には発生論的運動学の知見が必要であることを確認する。ゼミナール形式で具体的例証を確認しながら理解を深めていく。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. 発生運動学とは			9. 動感身体と物質身体		
2. 学問としての発生運動学			10. 動感運動の即興性		
3. 指導者のタイプ分け			11. 動感運動の地平構造		
4. 競技力の意味構造(1)			12. 動感運動の間動感性		
5. 競技力の意味構造(2)			13. 創発身体知の発生		
6. パトスの運動世界			14. 促発身体知の発生		
7. 流れつつある運動			15. 身体知の伝承		
8. 動感身体知の存在					
<b>【到達目標】</b>					
<p>発生論的運動学のいくつかの専門用語について理解する。一般に難解といわれるそれらの用語でも、実際に動きを「覚える」「教える」場面にあてはめれば、その理解は容易であることを確認する。また、具体的例証を通して、それらの用語を自分自身の言葉として使えるようにしていく。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>本演習を理解するためには、授業内容を常に各自の運動経験や専門スポーツ種目に置き換え、具体例を思い浮かべながら受講することが大切である。  ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>発生運動学で用いられる専門語は、その考え方の基を現象学におくため、厳密な理解が要求される。それぞれの用語の概念をできるだけ身近な例として説明できるよう普段から準備しておく必要がある。</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>教科書は特に指定しない。適宜、資料を配布する。  &lt;参考文献&gt; 「マイネル スポーツ運動学」K.マイネル（大修館書店）  「わざの伝承」「身体知の形成 上・下」「身体知の構造」「スポーツ運動学」金子明友（明和出版）</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>毎回の授業での理解度（小レポート）70%、最終レポートの達成度30%</p>					
<b>【関連科目】</b>					
<p>スポーツ技術論特講、スポーツ運動学特演Ⅱ、スポーツ運動学特演Ⅲ、スポーツ運動学特演Ⅳ  スポーツ運動発生論特講</p>					

科目名	スポーツ運動学特演Ⅰ		担当者	吉田孝久																	
英文名	Seminar in Sport MovementⅠ																				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択																
<b>【授業概要・方法】</b>																					
<p>競技スポーツの基本的な目的は選手の競技力向上であり、目標とする試合においては最高達成を得ることである。そのため、コーチング論で扱う内容は多岐にわたることになるが、本演習では、選手の競技力を構成する中でも核となる運動の習熟を中心に引き上げる。競技力として求められる動きの習熟は、心理的側面や身体的側面を伴うことは勿論、選手及びそのものを取り巻く環境によっても変容することを理解する。また、競技スポーツの発展過程について、歴史的観点からもアプローチすることによってコーチング論の現状を認識することにも取り組みたい。</p>																					
<b>【授業計画】</b>																					
<table border="0"> <tr> <td>1. コーチング論の歴史的認識について</td> <td>9. 測定競技における運動習熟について</td> </tr> <tr> <td>2. 競技力とは</td> <td>10. 判定競技における運動習熟について</td> </tr> <tr> <td>3. 競技力における動きの位置づけ</td> <td>11. 評定競技における運動習熟について</td> </tr> <tr> <td>4. 運動習熟の階層性について(1)</td> <td>12. 状況によって変容する運動習熟の度合い(1)</td> </tr> <tr> <td>5. 運動習熟の階層性について(2)</td> <td>13. 状況によって変容する運動習熟の度合い(2)</td> </tr> <tr> <td>6. 運動習熟の階層性について(3)</td> <td>14. 運動習熟過程における問題点について(1)</td> </tr> <tr> <td>7. 運動の自動化について</td> <td>15. 運動習熟過程における問題点について(2)</td> </tr> <tr> <td>8. 運動の自動化が崩れる状況について</td> <td></td> </tr> </table>						1. コーチング論の歴史的認識について	9. 測定競技における運動習熟について	2. 競技力とは	10. 判定競技における運動習熟について	3. 競技力における動きの位置づけ	11. 評定競技における運動習熟について	4. 運動習熟の階層性について(1)	12. 状況によって変容する運動習熟の度合い(1)	5. 運動習熟の階層性について(2)	13. 状況によって変容する運動習熟の度合い(2)	6. 運動習熟の階層性について(3)	14. 運動習熟過程における問題点について(1)	7. 運動の自動化について	15. 運動習熟過程における問題点について(2)	8. 運動の自動化が崩れる状況について	
1. コーチング論の歴史的認識について	9. 測定競技における運動習熟について																				
2. 競技力とは	10. 判定競技における運動習熟について																				
3. 競技力における動きの位置づけ	11. 評定競技における運動習熟について																				
4. 運動習熟の階層性について(1)	12. 状況によって変容する運動習熟の度合い(1)																				
5. 運動習熟の階層性について(2)	13. 状況によって変容する運動習熟の度合い(2)																				
6. 運動習熟の階層性について(3)	14. 運動習熟過程における問題点について(1)																				
7. 運動の自動化について	15. 運動習熟過程における問題点について(2)																				
8. 運動の自動化が崩れる状況について																					
<b>【到達目標】</b>																					
<p>選手の競技力を構成する中でも核となる運動の習熟についてあらゆる角度から検討を加え、それによって運動習熟過程について認識を深める。</p>																					
<b>【受講上の留意点】</b>																					
<p>授業内での問題提起、それをもとにした討論を行う。宿題となった課題について、発表および問題点の検討を行うので準備して授業に臨むこと。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>																					
<b>【授業時間外学修】</b>																					
<p>授業での該当部分について情報収集を行うとともに、教科書・参考書を精読して理解を深めること。</p>																					
<b>【教科書・参考書など】</b>																					
<p>スポーツ運動学（金子明友著）、スポーツ運動学（マイネル著、金子訳）、運動学講義（金子ほか著）、競技力向上のトレーニング戦略（ボンバ著、尾縣・青山訳）</p>																					
<b>【成績評価方法】</b>																					
<p>プレゼンテーション及びレポート課題による総合評価</p>																					
<b>【関連科目】</b>																					
<p>スポーツコーチング論特講、スポーツ運動学特演Ⅱ、スポーツ運動学特演Ⅲ、スポーツ運動学特演Ⅳ</p>																					

科目名	スポーツ運動学特演Ⅱ		担当者	石塚 浩	
英文名	Seminar in Sport Movement Ⅱ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
動きのゲシュタルトをとらえる視点としてあげられている「空間・時間構造」、「運動調和」、「運動リズム」、「運動流動」、「運動弾性」、「運動伝導」、「運動の正確さ」、「運動先取り」について、実践面で用いられている視点との摺り合わせを行うことにより、運動観察の仕方について「運動共感」などととも理解を深めていく。さらに、動きのゲシュタルトの全体性についても明らかにする。					
<b>【授業計画】</b>					
1. 運動の空間・時間構造（循環性運動と非循環性運動）		9. 運動先取り（運動投企との関連性）			
2. 運動の空間・時間構造（組み合わせ運動）		10. 運動先取り（フェイントの構造）			
3. 運動調和（メロディーと運動観察）		11. 運動共感（運動リズムの伝染性）			
4. 運動リズム（リズムとタクトの問題と、リズムによる指導）		12. 運動共感（キネステーゼを基礎とした通信路）			
5. 運動流動（運動全体の「まとまり」と、運動流動の関係）		13. 運動ゲシュタルトの全体性(1)			
6. 運動弾性（「弾むような動き」の特性と運動発達）		14. 運動ゲシュタルトの全体性(2)			
7. 運動伝導（運動順次性と運動伝導の諸様相）		15. 授業全体のまとめとディスカッション			
8. 運動の正確さ（目標に対する正確さと運動経過の正確さ）					
<b>【到達目標】</b>					
動きのゲシュタルトをとらえる視点としての8つの項目を理解するとともに、実践場面との摺り合わせを行うことにより、運動観察の仕方について「運動共感」などととも理解をする。さらに、動きのゲシュタルトが持つ全体性についても理解する。					
<b>【受講上の留意点】</b>					
授業への出席は当然であり、様々な方向から検討を加え、新たな方向性を打ち立てるような発想を創り出す考量的態度が重要である。また、自己のスポーツ活動の経験から、運動質という専門用語の持つ意味とその意義を実践的に理解する。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。					
<b>【授業時間外学修】</b>					
下記の【教科書・参考書など】の熟読（該当箇所は授業内で指示をする）と配布プリントによる復習が必須である。					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
「マイネル・スポーツ運動学」：クルト・マイネル著、金子明友著（大修館書店）、「教師のための運動学」：金子明友著・監修（大修館書店）、「動きの感性学」：金子明友著（大修館書店）、「ゲシュタルトクライス」：V. v. ヴァイツゼッカー（みすず書房）					
<b>【成績評価方法】</b>					
授業への出席は必須であり、授業内容を踏まえた論旨が明確なレポート作成を義務づける。評価は、授業でのコロキウム方式によるディスカッション、レポート内容で行う。					
<b>【関連科目】</b>					
スポーツ運動発生論特講、スポーツコーチング論特講、スポーツ戦術論特講、スポーツ技術論特講、運動観察法演習					

科目名	スポーツ運動学特演Ⅱ		担当者	小海隆樹	
英文名	Seminar in Sport Movement Ⅱ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>特演Ⅰでの理解をもとに、発生論的運動学に関する研究論文等を読み、「動きの発生」に関する論文の作成手順等について検討を行う。そこから、「例証分析」としての研究手法の妥当性を確認する。ゼミナール形式で具体的例証を確認しながら理解を深めていく。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. 文献の選択と授業計画		9. 研究論文①に関するまとめ			
2. 文献①の検討－1		10. 研究論文②の検討－1			
3. 文献①の検討－2		11. 研究論文②の検討－2			
4. 文献②の検討－1		12. 研究論文②の検討－3			
5. 文献②の検討－2		13. 研究論文②に関するまとめ			
6. 研究論文①の検討－1		14. 例証分析的研究の妥当性			
7. 研究論文①の検討－2		15. 例証分析的研究の有効性			
8. 研究論文①の検討－3					
<b>【到達目標】</b>					
<p>発生論的運動学に関する文献から、いくつかの例証分析を検討・理解する。また、研究論文からは、「動きの発生」に関する論文の作成手順等について検討・理解する。そこから、「例証分析」としての研究の仕方を確認する。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>本演習を理解するためには、授業内容を常に各自の運動経験や専門スポーツ種目に置き換え、具体例を思い浮かべながら受講することが大切である。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>授業で取り扱う文献は限られているため、それぞれが興味のある発生運動学に関する文献を数多く読むことが必要である。</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>教科書は特に指定しない。適宜、資料を配布する。      &lt;参考文献&gt; 「マイネル スポーツ運動学」K.マイネル（大修館書店）      「わざの伝承」「身体知の形成 上・下」「身体知の構造」「スポーツ運動学」金子明友（明和出版）</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>毎回の授業での理解度（小レポート）70%、最終レポートの達成度30%</p>					
<b>【関連科目】</b>					
<p>スポーツ技術論特講、スポーツ運動学特演Ⅰ、スポーツ運動学特演Ⅲ、スポーツ運動学特演Ⅳ      スポーツ運動発生論特講</p>					

科目名	スポーツ運動学特演Ⅱ		担当者	吉田孝久	
英文名	Seminar in Sport Movement Ⅱ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>長期的トレーニング過程から、また1年間のトレーニング過程から競技力の形成過程について要点の把握を試みる。系統的、組織的、計画的なトレーニング過程から競技力向上を取り上げ、問題点を探る。文献のみならず、自分自身のトレーニング経験をもとに実践例から問題点にアプローチを試みる。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
<p>1. マトヴェイエフの文献からトレーニング過程を概観する(1)    9. トレーニング実践で陥りやすい問題点について</p> <p>2. マトヴェイエフの文献からトレーニング過程を概観する(2)    10. トレーニングのチェック方法について</p> <p>3. ボンパの文献からトレーニング過程を概観する(1)            11. ジュニア期のトレーニング計画とその実施について(1)</p> <p>4. ボンパの文献からトレーニング過程を概観する(2)            12. ジュニア期のトレーニング計画とその実施について(2)</p> <p>5. スポーツフォームの形成過程について(1)                    13. 実践例としてのトレーニング計画立案について</p> <p>6. スポーツフォームの形成過程について(2)                    14. 実践例としてのトレーニング実践について</p> <p>7. トレーニング計画立案の基本的な考え方について            15. 実践例としてトレーニングの評価について</p> <p>8. トレーニング計画立案とトレーニング管理について</p>					
<b>【到達目標】</b>					
<p>競技力向上のためのトレーニング過程について理解を深める。同時に、指導対象の競技レベルが異なっても対応できるだけの応用力を身につける。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>身近な選手だけでなく、多くの選手のトレーニング実践についての情報収集を心がける。フィールドワークとして、文献資料だけでなく面談による情報収集も課題となる。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>授業での該当部分について情報収集を行うとともに、教科書・参考書を精読して理解を深めること。</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>スポーツ競技学（マトヴェイエフ著、魚住訳）、競技力向上のトレーニング戦略（ボンパ著、尾縣・青山訳）、ロシア体育・スポーツトレーニングの理論と方法（マトヴェイエフ著、魚住・佐藤訳）</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>プレゼンテーション及びレポート課題による総合評価</p>					
<b>【関連科目】</b>					
<p>スポーツコーチング論特講、スポーツ運動学特演Ⅰ、スポーツ運動学特演Ⅲ、スポーツ運動学特演Ⅳ</p>					

科目名	スポーツ運動学特演Ⅲ		担当者	石塚 浩	
英文名	Seminar in Sport Movement Ⅲ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>スポーツ科学で用いられる各種分析方法を理解した上で、スポーツ運動学を中心に用いられている分析方法を明らかにするとともに、そこで解明されるべき問題性についても理解を深める。また、運動技能や競技力の評価、さらにこれらと関連するタレント発掘に関する評価といった側面も含めて、指導実践の場と関連を深めていくことをねらいとする。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. バイオメカニクスの分析法(1)「ディナモグラフィ」による分析法の有効性とその限界		9. 実存分析法(3)実存分析からの運動修正の方法やプログラム作成について			
2. バイオメカニクスの分析法(2)「キネマトグラフィ」による分析法の有効性とその限界		10. タレント発掘(1)タレント予測を基礎とした各種の発掘のためのテスト			
3. 運動の機能分析(1)空間・時間構造と力動構造の関係からの機能構造分析		11. タレント発掘(2)タレント発掘のためのテスト項目の構造			
4. 運動の機能分析(2)運動の機能構造分析において用いる分析法の選定について		12. タレント発掘(3)タレント発掘テストからのテスト値の分析方法とその利用について			
5. モルフォロギ的分析法(1)「感覚印象分析」を中心として、運動形態の持つ全体性をベースとした分析法の特性		13. 各種分析法の特性と利用方法(1)			
6. モルフォロギ的分析法(2)「感覚印象分析」を中心として、運動形態の持つ全体性をベースとした分析法の特性		14. 各種分析法の特性と利用方法(2)			
7. 実存分析法(1)学習者の外的生活史や内的生活史による分析		15. 授業全体のまとめとディスカッション			
8. 実存分析法(2)学習者の外的生活史や内的生活史による分析					
<b>【到達目標】</b>					
<p>スポーツ科学で用いられる各種分析方法を理解し、スポーツ運動学で特に用いられる分析方法の特殊性を理論的な側面から理解する。また、取り上げる問題性によって分析方法が異なり、その分析方法の選定に関わる視点について理解をする。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>授業への出席は当然であり、自己の持つ問題性について様々な方向から検討を加え、その解明にあたっての方法論の選定と具体的な手段を打ち立てるような発想が重要である。また、自己のスポーツ活動の経験から、運動分析という用語の持つ意味とその意義を実践的に理解する。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>下記の【教科書・参考書など】の熟読（該当箇所は授業内で指示をする）と配布プリントによる復習が必須である。</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>「マイネル・スポーツ運動学」：クルト・マイネル著、金子明友著（大修館書店）、「教師のための運動学」、金子明友著・監修（大修館書店）、「動きの感性学」：金子明友著（大修館書店）、「ゲシュタルトクライス」：V.v. ヴァイツゼッカー（みすず書房）、「スポーツ運動学」：金子明友著（明和出版）</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>授業への出席は必須であり、授業内容を踏まえた論旨が明確なレポート作成を義務づける。評価は、授業でのコロキウム方式によるディスカッション、レポート内容で行う。</p>					
<b>【関連科目】</b>					
<p>スポーツ運動発生論特講、スポーツコーチング論特講、スポーツ戦術論特講、スポーツ技術論特講、運動観察法演習</p>					

科目名	スポーツ運動学特演Ⅲ		担当者	小海隆樹	
英文名	Seminar in Sport Movement Ⅲ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>「動きの指導者」に必要とされる促発身体知について解説をする。なかでも、その中核的能力とされる「観察」と「交信」について、具体的例証に基づいて解説を行う。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. 動感身体知の発生		9. 始原身体知の観察分析			
2. 創発身体知の発生		10. 洗練統覚化の観察分析			
3. 促発身体知の発生		11. 形態統覚化の観察分析			
4. 動感素材の志向分析		12. 動感交信分析			
5. 動感観察分析の方法		13. 動感言語と動感借問			
6. 動感観察分析のテキスト構成化		14. 動感代行分析			
7. 動感形成位相の観察分析		15. 動感素材分析の必要性			
8. 創発身体知の観察分析					
<b>【到達目標】</b>					
<p>動きの指導者としての中核的な能力とされる「動感観察」と「動感交信」の内容と方法について、具体的例証をもとに理解を深める。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>本演習を理解するためには、授業内容を常に各自の運動経験や専門スポーツ種目に置き換え、具体例を思い浮かべながら受講することが大切である。  ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>スポーツや日常生活の動きかたの観察において、常に発生論的視点から考えられるようになることが必要である。授業で得た考え方を基に、観察・交信を具体的にを行うことが求められる。</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>教科書は特に指定しない。適宜、資料を配布する。  &lt;参考文献&gt; 「マイネル スポーツ運動学」K.マイネル（大修館書店）  「わざの伝承」「身体知の形成 上・下」「身体知の構造」「スポーツ運動学」金子明友（明和出版）</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>毎回の授業での理解度（小レポート）70%、最終レポートの達成度30%</p>					
<b>【関連科目】</b>					
<p>スポーツ技術論特講、スポーツ運動学特演Ⅰ、スポーツ運動学特演Ⅱ、スポーツ運動学特演Ⅳ  スポーツ運動発生論特講</p>					



科目名	スポーツ運動学特演Ⅲ		担当者	吉田孝久	
英文名	Seminar in Sport Movement Ⅲ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>競技スポーツにおける課題は対戦相手に勝つことである。その勝敗の決め手となるのは選手の運動である。日頃のトレーニングではこの勝敗を決定づける動きを合目的的に改善することが中心となる。本演習では、選手の競技力を決定づける動きの形成過程について、あらゆる角度から検討し、トレーニングにおける問題点を抽出することを試みる。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. スポーツにおける早期専門化の意味について		9. 運動習慣の改造(4)			
2. すでに身につけている動きと新しく身につける動きの関係について		10. 運動習慣の改造(5)			
3. 運動修正の階層性(1)		11. 修正の言語指導(1)			
4. 運動修正の階層性(2)		12. 修正の言語指導(2)			
5. 運動修正の階層性(3)		13. 修正指導における問題点(1)			
6. 運動習慣の改造(1)		14. 修正指導における問題点(2)			
7. 運動習慣の改造(2)		15. 修正指導における問題点(3)			
8. 運動習慣の改造(3)					
<b>【到達目標】</b>					
<p>習熟レベルの異なる多くの選手を対象に動きの改善過程から、運動修正活動の内容について資料収集を行い、それをもとに修正の階層性の分類を試みる。また、コーチによる言語や身振りといった情報を選手がどのように受け止め、修正に活かそうとするかについて分析を試みる。この分析過程から、修正指導における問題点の抽出とその対応策について検討を加える。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>フィールドワークとして、コーチと選手の運動修正活動から情報収集を行う。  ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>授業での該当部分について情報収集を行うとともに、教科書・参考書を精読して理解を深めること。</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>スポーツ運動学（金子明友著）、スポーツ運動学（マイネル著、金子訳）、身体知の形成（上）（下）（金子明友著）</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>プレゼンテーション及びレポート課題による総合評価</p>					
<b>【関連科目】</b>					
<p>スポーツコーチング論特講、スポーツ運動学特演Ⅰ、スポーツ運動学特演Ⅱ、スポーツ運動学特演Ⅳ</p>					

科目名	スポーツ運動学特演Ⅳ		担当者	石塚 浩	
英文名	Seminar in Sport Movement IV				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>運動発生や運動修正にあたっては、一般的にそこで用いられた手段や言葉がけ、さらには量や頻度といったものが前景にたてられることが多い。しかし、発生や修正が「できた」というなかでは、逐次的な関係で成立することではない。そこで、運動指導で「覚える－教える」という関係系に着目し、このなかで繰り返される「コツの伝承」や「共振関係の成立」などにふれながら、動きの伝承という図式技術の形成について理解を深める。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. 「できる」と「覚える」の関係系(1)			9. 図式技術の獲得とその伝承(3)		
2. 「できる」と「覚える」の関係系(2)			10. 学習者と指導者の「あいだ」(1)		
3. 「できる」と「覚える」の関係系(3)			11. 学習者と指導者の「あいだ」(2)		
4. 「覚える－教える」の関係系(1)			12. 学習者と指導者の「あいだ」(3)		
5. 「覚える－教える」の関係系(2)			13. コロキウム方式によるディスカッション(1)		
6. 「覚える－教える」の関係系(3)			14. コロキウム方式によるディスカッション(2)		
7. 図式技術の獲得とその伝承(1)			15. 授業全体のまとめ		
8. 図式技術の獲得とその伝承(2)					
<b>【到達目標】</b>					
<p>学習者のなかで展開される粗協調発生の構図と運動記憶の相互依存性を理解するとともに、パトス的な世界と運動共感の問題性と、そのなかで展開される運動観察との関連性を理解する。さらに、「できる」ようになる際に獲得されるキネステーズと、その公共性の持つ意味と価値について、実践的に理解する。これらのことから、「上意下達方式」による運動指導と、共振関係を基礎とした運動指導の相違、さらにそこで展開される意味と価値の相互受け渡しによる双方向通信路の成立の意義について理解する。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>授業への出席は当然であり、様々な方向から検討を加え、新たな方向性を打ち立てるような発想を創り出す考量的態度が重要である。また、自己のスポーツ活動の経験から、運動指導という専門性の持つ意味とその意義を実践的に理解する。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>下記の【教科書・参考書など】の熟読（該当箇所は授業内で指示をする）と配布プリントによる復習が必須である。</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>「マイネル・スポーツ運動学」：クルト・マイネル著、金子明友著（大修館書店）、「教師のための運動学」：金子明友著・監修（大修館書店）、「動きの感性学」：金子明友著（大修館書店）、「ゲシュタルトクライス」：V.v. ヴァイツェッカー（みすず書房）</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>授業への出席は必須であり、授業内容を踏まえた論旨が明確なレポート作成を義務づける。評価は、授業でのコロキウム方式によるディスカッション、レポート内容で行う。</p>					
<b>【関連科目】</b>					
<p>スポーツ運動発生論特講、スポーツコーチング論特講、スポーツ戦術論特講、スポーツ技術論特講、運動観察法演習</p>					

科目名	スポーツ運動学特演Ⅳ		担当者	小海隆樹	
英文名	Seminar in Sport Movement IV				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
特演Ⅰ～Ⅲで得た知識をもとに、それぞれの興味のある「動きの発生」に関する具体的例証を分析・検討して発表する。					
<b>【授業計画】</b>					
1. 動きの発生と動感身体知			9. 「促発身体知」に関する具体的例証(1)		
2. 具体的な例証分析の方法			10. 「促発身体知」に関する具体的例証(2)		
3. 「形成位相」に関する具体的例証(1)			11. 「促発身体知」に関する具体的例証(3)		
4. 「形成位相」に関する具体的例証(2)			12. 「パトスの運動世界」に関する具体的例証		
5. 「形成位相」に関する具体的例証(3)			13. 「動感運動の即興性」に関する具体的例証		
6. 「創発身体知」に関する具体的例証(1)			14. 「動感運動の間動感性」に関する具体的例証		
7. 「創発身体知」に関する具体的例証(2)			15. 「動感運動の出会い」に関する具体的例証		
8. 「創発身体知」に関する具体的例証(3)					
<b>【到達目標】</b>					
「動きの発生」に関する具体的例証を分析・検討して発表することにより、「動感世界」についての理解を深め、動きの習得や伝承のためには、これらの考え方が必要であることを理解する。					
<b>【受講上の留意点】</b>					
本演習を理解するためには、授業内容を常に各自の運動経験や専門スポーツ種目に置き換え、具体例を思い浮かべながら受講することが大切である。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。					
<b>【授業時間外学修】</b>					
発生運動学の理論的根拠は多くの動きかたの発生に関わる例証分析から導き出される。スポーツ場面だけでなく日常生活におけるさまざまな動きかたに対する発生論的な観察が、貴重な例証分析であることを見逃さない態度が必要である。					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
教科書は特に指定しない。適宜、資料を配布する。 ＜参考文献＞ 「マイネル スポーツ運動学」K.マイネル（大修館書店） 「わざの伝承」「身体知の形成 上・下」「身体知の構造」「スポーツ運動学」金子明友（明和出版）					
<b>【成績評価方法】</b>					
毎回の授業での理解度（小レポート）50%、例証分析の達成度50%					
<b>【関連科目】</b>					
スポーツ技術論特講、スポーツ運動学特演Ⅰ、スポーツ運動学特演Ⅱ、スポーツ運動学特演Ⅲ スポーツ運動発生論特講					

科目名	スポーツ運動学特演Ⅳ		担当者	吉田孝久	
英文名	Seminar in Sport Movement IV				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
本演習では、コーチングにおける運動の修正に際して行われるコーチと選手の活動に焦点を当て、コーチングの基本的な過程について多角的に検討を加えることを狙いとした。また、フィールドワークから得られた情報をもとに分析を試みる。					
<b>【授業計画】</b>					
1. 運動観察による動きの分析について(1)		9. 目標像の示し方と動きをまねることについて(1)			
2. 運動観察による動きの分析について(2)		10. 目標像の示し方と動きをまねることについて(2)			
3. 運動観察による動きの問題点の抽出について(1)		11. 目標像の示し方と動きをまねることについて(3)			
4. 運動観察による動きの問題点の抽出について(2)		12. 目標像の示し方と動きをまねることについて(4)			
5. 動きの改善のための選手とコーチとの対話(1)		13. 運動修正の有効性についてのチェック(1)			
6. 動きの改善のための選手とコーチとの対話(2)		14. 運動修正の有効性についてのチェック(2)			
7. 動きの改善のための選手とコーチとの対話(3)		15. 運動修正の有効性についてのチェック(3)			
8. 動きの改善のための選手とコーチとの対話(4)					
<b>【到達目標】</b>					
観察活動を通じて、習熟レベルの異なる選手の運動学習能力にかかわる要素群を抽出することを試みる。また、選手の学習能力養成過程における影響因子について抽出を試みる。同時にコーチと選手との会話や身振りによる交信などの意味や効果について、感覚的に受け止められるようになることを目指す。					
<b>【受講上の留意点】</b>					
フィールドワークにおいて、コーチング活動の場면을収録する際、VTRによる録画だけでなく、観察内容を記述することを忘れずに行う。同じような場面でも、コーチの発する言葉や身振りの意味・価値の違いを見逃さないようにする。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。					
<b>【授業時間外学修】</b>					
授業での該当部分について情報収集を行うとともに、教科書・参考書を精読して理解を深めること。					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
スポーツ運動学（金子明友著）、スポーツ運動学（マイネル著、金子訳）、身体知の形成（上）（下）（金子明友著）					
<b>【成績評価方法】</b>					
プレゼンテーション及びレポート課題による総合評価					
<b>【関連科目】</b>					
スポーツコーチング論特講、スポーツ運動学特演Ⅰ、スポーツ運動学特演Ⅱ、スポーツ運動学特演Ⅲ					

科目名	スポーツ健康科学特演 I		担当者	佐々木 万丈	
英文名	Seminar in Sport and Health Sciences I				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>本特演は、体育・スポーツ心理学領域における科学的知見を提出するための研究の行い方と論文の書き方について理解を深め、その実践力を身に付けることを目的とする。特演 I では、体育授業やスポーツ、健康運動活動に取り組む人々の様々な心理学的検討課題を扱った研究論文や関連図書を読み込むことができるようにするための基礎的事項（研究方法、統計法など）の理解を深める。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. 体育・スポーツ心理学の研究：概論			9. 統計法(5)：重回帰分析		
2. 心理学における研究方法			10. 統計法(6)：探索的因子分析		
3. 心理学におけるデータ収集法			11. 統計法(7)：共分散構造分析（検証的因子分析）		
4. 心理学におけるデータ分析法			12. 統計法(8)：共分散構造分析（パス解析）		
5. 統計法(1)：記述統計			13. 心理学論文の構成		
6. 統計法(2)：t 検定			14. 心理学論文の書き方(1)		
7. 統計法(3)：カイ二乗検定			15. 心理学論文の書き方(2)		
8. 統計法(4)：相関分析					
<b>【到達目標】</b>					
<p>(1) スポーツ心理学やそれに関連する研究領域の学術論文・専門図書を読み理解するために必要な知識あるいはスキルとして、心理学の研究手法、データの収集と分析方法、および統計法に関する基礎的事項を理解し説明することができる。</p> <p>(2) 統計ソフトSPSSの基本的な実施方法について理解し、またサンプルデータを用いた演習によって実際の計算手続きができるようにし、さらに分析結果を正しく解釈することができる。</p> <p>(3) 心理学論文の構成について理解すると共に、心理学論文にふさわしい文章表現での作文ができる。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>本特演は、1時間目から4時間目、および13時間目から15時間目までは講義形式で行い、5時間目から12時間目までは実際のデータを用いた演習形式で行われる。特に、統計ソフトの使用法を実地に演習する5時間目から12時間目の内容に関しては、十分な理解とスキルの定着を図るために自習課題を課すので地道に取り組むことが求められる。</p> <p>※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>練習用データを用い、教科書を参照しながら、心理学研究において使用される基本的統計分析法を実地に繰り返し練習する。さらに、分析結果を考察としてまとめ整理する。</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>教科書として以下の書籍を使用する。 小田利勝・著「ウルトラ・ビギナーのためのSPSSによる統計解析入門」（プレアデス出版）</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>毎時間の課題を50%、期末の本特演全般を総括するレポート課題を50%とし、両者を総合して評価する。</p>					
<b>【関連科目】</b>					
<p>スポーツ心理学特講、スポーツ健康科学特演 I、スポーツ健康科学特演 II、スポーツ健康科学特演 III</p>					

科目名	スポーツ健康科学特演 I		担当者	沢井史穂	
英文名	Seminar in Sport and Health Sciences I				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
健康スポーツ・体力科学の分野における受講生の興味に応じたテーマについて資料や文献を読み、研究課題を明確化する。					
<b>【授業計画】</b>					
1. ガイダンス			9. 研究テーマに関わる先行研究の検討①		
2. 各自の関心テーマについて発表し、討論する。			10. 研究テーマに関わる先行研究の検討②		
3. 文献の収集法、読解法を知る。			11. 研究テーマに関わる先行研究の検討③		
4. 文献紹介と討論①			12. 研究テーマに関わる先行研究の検討④		
5. 文献紹介と討論②			13. 研究テーマに関わる先行研究の検討⑤		
6. 文献紹介と討論③			14. 研究テーマの検討		
7. 文献紹介と討論④			15. 研究テーマの絞り込み		
8. 文献紹介と討論⑤					
<b>【到達目標】</b>					
資料や論文などの先行研究の検索、読解、要約、内容紹介ができる。 文献紹介を通じて問題点や課題を抽出し、他者との質疑応答ができる。					
<b>【受講上の留意点】</b>					
客観的視点で物事を捉え、考察し、積極的に意見交換する姿勢を持って臨むことが必要である。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。					
<b>【授業時間外学修】</b>					
研究テーマに関連する資料や文献を検索・収集し、授業で紹介する文献を決めて読む。必要に応じて、関連する他の資料や文献も読むことが必要である。					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
特に指定しない。必要に応じて資料を配布・紹介する。					
<b>【成績評価方法】</b>					
授業への取り組み姿勢（50％）と提出した抄録（50％）で評価する。					
<b>【関連科目】</b>					
ライフステージと健康科学論特講、スポーツ健康科学特演 II					

科目名	スポーツ健康科学特演 I		担当者	助友裕子	
英文名	Seminar in Sport and Health Sciences I				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>本特演では、健康教育・ヘルスプロモーション分野の先行研究の論文抄読を行い、当該分野の研究動向を把握するとともに、受講者の研究課題を焦点化していく。当該分野において扱われる研究の対象集団、研究デザイン、調査方法などの概説を経て、批判的思考を育成する。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. オリエンテーション			9. 論文抄読と討論②		
2. 関心テーマの整理①：キーワードの抽出			10. 論文抄読と討論③		
3. 関心テーマの整理②：内容分析			11. 論文抄読と討論④		
4. 関心テーマの整理③：討論			12. 論文抄読と討論⑤		
5. 文献検索法			13. 現場設定型アプローチと参加型アクションリサーチ		
6. 調査法①：定量調査			14. 研究者の行動規範		
7. 調査法②：定性調査			15. 総合討論		
8. 論文抄読と討論①					
<b>【到達目標】</b>					
<p>(1) 抄読論文の研究デザインについて説明することができるようにする。  (2) 研究対象集団の特性に応じた研究デザインを提案することができるようにする。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>本特演では、受講者の関心テーマに研究としてのストーリーを付与するために必要な作業を行う。その手段としてヘルスプロモーション分野の先行研究を取り上げながら毎回の演習を行うため、受講者は積極的に討論に参加することが求められる。  ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>ヘルスプロモーション分野の学術論文を読み、要旨をまとめるとともに、自らの研究テーマについても目的を明確にしておく。また、学内外の研究集会等に積極的に参加し、当該分野の最新の知見について情報収集すること。</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>授業時間内に適宜紹介したり配布したりする。</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>授業への取り組み姿勢（50%）と研究計画についてのプレゼンテーション（50%）で評価する。</p>					
<b>【関連科目】</b>					
<p>健康教育とヘルスプロモーション特講、スポーツ健康科学特演Ⅱ、スポーツ健康科学特演Ⅲ、スポーツ健康科学特演Ⅳ</p>					

科目名	スポーツ健康科学特演Ⅰ		担当者	古泉佳代	
英文名	Seminar in Sport and Health Sciences I				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b> 栄養学やスポーツ栄養学分野を中心に文献の精読を通して研究テーマを決定する。					
<b>【授業計画】</b>					
1. ガイダンス			9. 関心のあるテーマについて先行研究の内容紹介と 討論（英文）②		
2. 和文雑誌による文献収集			10. 関心のあるテーマについて先行研究の内容紹介と 討論（英文）③		
3. 関心のあるテーマについて先行研究の内容紹介と討論①			11. 関心のあるテーマについて先行研究の内容紹介と 討論（英文）④		
4. 関心のあるテーマについて先行研究の内容紹介と討論②			12. 関心のあるテーマについて先行研究の内容紹介と 討論（英文）⑤		
5. 関心のあるテーマについて先行研究の内容紹介と討論③			13. 研究テーマ案の再考①		
6. 関心のあるテーマについて先行研究の内容紹介と討論④			14. 研究テーマ案の再考②		
7. 英文雑誌による文献収集			15. 研究テーマの決定		
8. 関心のあるテーマについて先行研究の内容紹介と 討論（英文）①					
<b>【到達目標】</b> ・先行研究を正確に読み取ることができる。 ・過去の研究での未解決問題や問題点について理解できる。 ・オリジナリティが高い研究テーマを決定できる。					
<b>【受講上の留意点】</b> 本科目は受講生による発表を中心に行う。積極的に意見を述べられるように準備することが必要である。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。					
<b>【授業時間外学修】</b> 科学論文を検索し、熟読する。					
<b>【教科書・参考書など】</b> 必要に応じて配布する。					
<b>【成績評価方法】</b> 授業への取り組み（課題提出、意見、発表内容等）で評価する。					
<b>【関連科目】</b> スポーツ健康科学特演Ⅱ、スポーツ健康科学特演Ⅲ、スポーツ健康科学特演Ⅳ、スポーツ栄養学特講					



科目名	スポーツ健康科学特演 I		担当者	永野 康 治																	
英文名	Seminar in Sport and Health Sciences IV																				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択																
<b>【授業概要・方法】</b>																					
<p>本特演では、アスレティックリハビリテーション分野における関心テーマの検索・整理を行った上で、先行研究の論文抄読・レビューを行い、関連する最新知見および研究動向を把握していく。その中で研究手法、研究デザイン、分析方法に関する知識を得ることを目的とする。</p>																					
<b>【授業計画】</b>																					
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. ガイダンス</td> <td style="width: 50%;">9. 文献抄読とディスカッション⑥</td> </tr> <tr> <td>2. 関心テーマの整理</td> <td>10. 文献の総合レビュー①</td> </tr> <tr> <td>3. 文献検索法、整理法</td> <td>11. 文献の総合レビュー②</td> </tr> <tr> <td>4. 文献抄読とディスカッション①</td> <td>12. 文献の総合レビュー③</td> </tr> <tr> <td>5. 文献抄読とディスカッション②</td> <td>13. 研究手法、研究デザインの整理</td> </tr> <tr> <td>6. 文献抄読とディスカッション③</td> <td>14. 分析方法の整理</td> </tr> <tr> <td>7. 文献抄読とディスカッション④</td> <td>15. 総合討論</td> </tr> <tr> <td>8. 文献抄読とディスカッション⑤</td> <td></td> </tr> </table>						1. ガイダンス	9. 文献抄読とディスカッション⑥	2. 関心テーマの整理	10. 文献の総合レビュー①	3. 文献検索法、整理法	11. 文献の総合レビュー②	4. 文献抄読とディスカッション①	12. 文献の総合レビュー③	5. 文献抄読とディスカッション②	13. 研究手法、研究デザインの整理	6. 文献抄読とディスカッション③	14. 分析方法の整理	7. 文献抄読とディスカッション④	15. 総合討論	8. 文献抄読とディスカッション⑤	
1. ガイダンス	9. 文献抄読とディスカッション⑥																				
2. 関心テーマの整理	10. 文献の総合レビュー①																				
3. 文献検索法、整理法	11. 文献の総合レビュー②																				
4. 文献抄読とディスカッション①	12. 文献の総合レビュー③																				
5. 文献抄読とディスカッション②	13. 研究手法、研究デザインの整理																				
6. 文献抄読とディスカッション③	14. 分析方法の整理																				
7. 文献抄読とディスカッション④	15. 総合討論																				
8. 文献抄読とディスカッション⑤																					
<b>【到達目標】</b>																					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・先行研究を精読し、まとめ、発表することができる。</li> <li>・先行研究をまとめレビューすることができる。</li> <li>・先行研究の研究手法、研究デザイン、分析方法についてディスカッションすることができる。</li> </ul>																					
<b>【受講上の留意点】</b>																					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の発表のみならず、他の受講者の発表内容についても積極的に討論する姿勢で臨むこと。</li> </ul> <p>※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>																					
<b>【授業時間外学修】</b>																					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・先行研究のまとめ、レビューの作成など授業の進行に応じて、自身の発表資料を作成する。</li> </ul>																					
<b>【教科書・参考書など】</b>																					
特に指定しない。																					
<b>【成績評価方法】</b>																					
<p>授業へ取り組み姿勢(発言機会やその内容)50%</p> <p>発表資料50%</p>																					
<b>【関連科目】</b>																					
スポーツ外傷リハビリテーション特講、スポーツ健康科学特演Ⅱ、スポーツ健康科学特演Ⅲ、スポーツ健康科学特演Ⅳ																					

科目名	スポーツ健康科学特演Ⅱ		担当者	佐々木万丈	
英文名	Seminar in Sport and Health Sciences Ⅱ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>本特演は、体育・スポーツ心理学領域における科学的知見を提出するための研究の行い方と論文の書き方について理解を深め、その実践力を身に付けることを目的とする。特演Ⅱでは、特演Ⅰで学んだ体育・スポーツに関わる心理学的研究を理解するための知識とスキルを用い、体育心理学やスポーツ心理学の研究論文をレビューし、自らの研究テーマに関連する情報を検索・整理し、検討すべき課題を明確にしていく。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. 体育・スポーツ心理学の研究課題：概論			9. 研究レビュー(6)：自主課題発表⑥		
2. 体育・スポーツ心理学関連論文の検索法			10. 研究レビュー(7)：自主課題発表⑦		
3. 体育・スポーツ心理学関連論文の整理法			11. レビューのまとめ(1)：研究動向の整理・発表		
4. 研究レビュー(1)：自主課題発表①			12. レビューのまとめ(2)：研究課題の明確化		
5. 研究レビュー(2)：自主課題発表②			13. レビューのまとめ(3)：研究課題の意義		
6. 研究レビュー(3)：自主課題発表③			14. レビューのまとめ(4)：課題説明のアウトライン		
7. 研究レビュー(4)：自主課題発表④			15. レビューのまとめ(5)：文章構成の具体的方法・表現		
8. 研究レビュー(5)：自主課題発表⑤					
<b>【到達目標】</b>					
<p>(1) スポーツ心理学やそれに関連する研究領域の学術論文・専門図書の検索法、収集した情報の整理法を理解し、その方法を用いて自らの研究課題の意義やオリジナリティを明確にするための先行研究レビューができる。</p> <p>(2) レビューした研究の抄録を作成、蓄積し、自らの研究課題を明確にすると共に、それに関わる研究動向を明らかにすることができる。</p> <p>(3) 自らがその研究課題を設定するに至った経緯をまとめ、具体的に文章としてまとめることができる。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>本特演は、1時間目から3時間目までは講義形式で行い、4時間目から10時間目までは修士論文の作成に直接関わる先行研究のレビューを行う。毎週、研究課題に関わる論文を読み、それを簡潔にまとめ発表し、内容を議論するという作業を繰り返すため継続的に取り組むことが重要である。また、11時間目から15時間目では、研究課題の意義とオリジナリティを明確にする作文が課題となるため、資料の整理は綿密に行う必要がある。</p> <p>※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
スポーツ心理学の研究知見を各自の研究テーマに沿って収集・整理する。					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>教科書は特に指定しない。適宜、必要に応じて資料を配付する。</p> <p>なお、参考書としては、外山滋比古・著「思考の整理学」（ちくま文庫）、星野匡・著「発想法入門＜第3版＞」（日本経済新聞社）などを使用する。</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
毎時間の課題を50%、期末の本特演全般を総括するレポート課題を50%とし、両者を総合して評価する。					
<b>【関連科目】</b>					
スポーツ心理学特講、スポーツ健康科学特演Ⅰ、スポーツ健康科学特演Ⅱ、スポーツ健康科学特演Ⅲ					

科目名	スポーツ健康科学特演Ⅱ		担当者	沢井史穂	
英文名	Seminar in Sport and Health Sciences Ⅱ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
各自の研究テーマに応じた研究計画を作成するための各種測定技術の理解と実践を行う。その上で、測定で得られたデータの整理と解釈を行う。					
<b>【授業計画】</b>					
1. ガイダンス			9. 計測技術の理論と実践③		
2. 研究テーマに応じた研究計画の作成法			10. データの整理と解釈③		
3. 研究目的に応じた研究方法の選択法			11. 計測技術の理論と実践④		
4. 基本的計測技術の解説			12. データの整理と解釈④		
5. 計測技術の理論と実践①			13. 研究テーマに応じた方法論の検討		
6. データの整理と解釈①			14. 研究計画案の検討		
7. 計測技術の理論と実践②			15. 研究計画案の作成		
8. データの整理と解釈②					
<b>【到達目標】</b>					
研究計画の作成法を理解する。 基本的計測技術を習得する。 適切なデータの整理と解釈ができるようになる。 研究計画案を作成する。					
<b>【受講上の留意点】</b>					
主体的・意欲的に取り組み、研究に必要なスキルの向上をはかるよう努めること。エクセル、パワーポイントの操作に慣れていることが望ましい。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。					
<b>【授業時間外学修】</b>					
計測技術の習得を図るための練習を行ったり、データ分析法の予習・復習、方法論についての解説書や研究論文を参照すること。					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
特に指定しない。必要に応じて資料を配布・紹介する。					
<b>【成績評価方法】</b>					
授業への取り組み方（50%）と提出レポート（50%）で評価する。					
<b>【関連科目】</b>					
スポーツ健康科学特演Ⅰ					

科目名	スポーツ健康科学特演Ⅱ		担当者	助友裕子	
英文名	Seminar in Sport and Health Sciences Ⅱ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>本特演では、受講者の研究課題について、具体的な研究計画を立案し、実査を開始する。研究計画の立案については、研究協力の依頼手順等についての概説を経て、調査対象となるコミュニティとの信頼関係の構築方法を実践的に学ぶ。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. オリエンテーション			9. 調査設計②		
2. 文献考証①：領域設定型アプローチ			10. 調査設計③		
3. 文献考証②：対象集団型アプローチ			11. 調査設計④		
4. 文献考証③：現場設定型アプローチ			12. 実査とデータ集計①		
5. 文献考証④：量的研究			13. 実査とデータ集計②		
6. 文献考証⑤：質的研究			14. 実査とデータ集計③		
7. 文献考証⑥：混合研究法			15. データの解釈		
8. 調査設計①					
<b>【到達目標】</b>					
<p>(1) 研究目的に合わせた調査設計を行うことができるようにする。  (2) 調査票を作成し研究対象集団に協力依頼を行うことができるようにする。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>調査設計をし実査を開始するためには、丁寧な文献考証を行う必要がある。そのため、受講者は、本特演のみならず、日頃から関心テーマの遂行に有用な先行研究についてできるだけ多くの文献を読み進めておくことが求められる。また、実査の開始にあたっては、前もって調査対象集団の様子を把握するよう努め、対象者と信頼関係を構築しておくことも必要である。  ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>文献考証を行うための先行研究論文に多く触れ、提議書を作成しておくこと。また、学内外の研究集会等に積極的に参加し、当該分野の最新の知見について情報収集すること。</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>授業時間内に適宜紹介したり配布したりする。</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>授業への取り組み姿勢（50%）と提議書（50%）で評価する。</p>					
<b>【関連科目】</b>					
<p>健康教育とヘルスプロモーション特講、スポーツ健康科学特演Ⅰ、スポーツ健康科学特演Ⅲ、スポーツ健康科学特演Ⅳ</p>					

科目名	スポーツ健康科学特演Ⅱ		担当者	古泉佳代	
英文名	Seminar in Sport and Health Sciences Ⅱ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b> 研究テーマについて、予備実験や予備調査によるデータ検討を経て、具体的な実験計画を作成し実験を行う。					
<b>【授業計画】</b>					
1. ガイダンス			9. 予備実験Ⅱの結果をまとめ、実験計画の再検討を行う		
2. 研究の目的と仮説を検討する①			10. 実験計画を作成する③		
3. 研究の目的と仮説を検討する②			11. 実験を行う①		
4. 実験計画を作成する①			12. 実験を行う②		
5. 予備実験Ⅰを行う			13. 実験を行う③		
6. 予備実験Ⅰの結果をまとめ、実験計画の再検討を行う			14. 実験を行う④		
7. 実験計画を作成する②			15. 実験結果を解析する		
8. 予備実験Ⅱを行う					
<b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>予備実験を通して、研究テーマにそった研究計画を推敲することができる。</li> <li>実験を行い、結果を解析することができる。</li> </ul>					
<b>【受講上の留意点】</b> 本科目は受講生による実験を中心に行うため、実験技術や計測知識が必要である。これらを自主的に習得する受講生の積極性が必要である。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。					
<b>【授業時間外学修】</b> 科学論文を検索し、熟読する。					
<b>【教科書・参考書など】</b> 必要に応じて資料を配布する。					
<b>【成績評価方法】</b> 実験レポートで評価する。					
<b>【関連科目】</b> スポーツ健康科学特演Ⅰ、スポーツ健康科学特演Ⅲ、スポーツ健康科学特演Ⅳ、スポーツ栄養学特講					

科目名	スポーツ健康科学特演Ⅱ		担当者	永野康治																	
英文名	Seminar in Sport and Health Sciences IV																				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択																
<b>【授業概要・方法】</b>																					
<p>本特演では、特演Ⅰを踏まえ受講者の研究課題に基づき研究計画を立案し、調査・計測を実際に行うことを目的とする。調査・研究にあたっては、アスレティックリハビリテーション分野の種々の調査法、計測方法の習得を目指す。</p>																					
<b>【授業計画】</b>																					
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. ガイダンス</td> <td style="width: 50%;">9. フィジカルパフォーマンスの計測②</td> </tr> <tr> <td>2. 研究計画の立案①(パワーアナリシス含む)</td> <td>10. 加速度データの計測①</td> </tr> <tr> <td>3. 研究計画の立案②(研究の妥当性検討含む)</td> <td>11. 加速度データの計測②</td> </tr> <tr> <td>4. 関節可動域・柔軟性の計測①</td> <td>12. 競技歴の調査①</td> </tr> <tr> <td>5. 関節可動域・柔軟性の計測②</td> <td>13. 競技歴の調査②</td> </tr> <tr> <td>6. 筋力、筋パワーの計測①</td> <td>14. 外傷・障害の調査①</td> </tr> <tr> <td>7. 筋力、筋パワーの計測②</td> <td>15. 外傷・障害の調査②</td> </tr> <tr> <td>8. フィジカルパフォーマンスの計測①</td> <td></td> </tr> </table>						1. ガイダンス	9. フィジカルパフォーマンスの計測②	2. 研究計画の立案①(パワーアナリシス含む)	10. 加速度データの計測①	3. 研究計画の立案②(研究の妥当性検討含む)	11. 加速度データの計測②	4. 関節可動域・柔軟性の計測①	12. 競技歴の調査①	5. 関節可動域・柔軟性の計測②	13. 競技歴の調査②	6. 筋力、筋パワーの計測①	14. 外傷・障害の調査①	7. 筋力、筋パワーの計測②	15. 外傷・障害の調査②	8. フィジカルパフォーマンスの計測①	
1. ガイダンス	9. フィジカルパフォーマンスの計測②																				
2. 研究計画の立案①(パワーアナリシス含む)	10. 加速度データの計測①																				
3. 研究計画の立案②(研究の妥当性検討含む)	11. 加速度データの計測②																				
4. 関節可動域・柔軟性の計測①	12. 競技歴の調査①																				
5. 関節可動域・柔軟性の計測②	13. 競技歴の調査②																				
6. 筋力、筋パワーの計測①	14. 外傷・障害の調査①																				
7. 筋力、筋パワーの計測②	15. 外傷・障害の調査②																				
8. フィジカルパフォーマンスの計測①																					
<b>【到達目標】</b>																					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究課題に則った研究計画を立案できる。</li> <li>・アスレティックリハビリテーション分野の調査・計測を実施できる。</li> </ul>																					
<b>【受講上の留意点】</b>																					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の研究計画の立案のみならず、他の測定・調査の演習についても積極的に習得する姿勢で臨むこと。</li> </ul> <p>※対面授業（面接受業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>																					
<b>【授業時間外学修】</b>																					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究計画の立案，測定・調査の準備，データ整理を行う。</li> </ul>																					
<b>【教科書・参考書など】</b>																					
特に指定しない。																					
<b>【成績評価方法】</b>																					
<p>授業へ取り組み姿勢(演習への参加，積極性)50%</p> <p>提出課題(研究計画書，測定・調査結果)50%</p>																					
<b>【関連科目】</b>																					
スポーツ外傷リハビリテーション特講，スポーツ健康科学特演Ⅰ，スポーツ健康科学特演Ⅲ，スポーツ健康科学特演Ⅳ																					

科目名	スポーツ健康科学特演Ⅲ		担当者	佐々木万丈	
英文名	Seminar in Sport and Health Sciences Ⅲ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>本特演は、体育・スポーツ心理学領域における科学的知見を提出するための研究の行い方と論文の書き方について理解を深め、その実践力を身に付けることを目的とする。特演Ⅲでは、特演Ⅱで議論した研究課題に関わる問題の所在に基づき、調査あるいは実験の計画を立て、特演Ⅰで学んだ調査実施法とデータ分析法に基づいて実地にデータを収集し分析を行うことが目的である。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. 調査・実験の計画立案(1)			9. 調査・実験の実施(3)		
2. 調査・実験の計画立案(2)			10. 収集データの整理および分析(1)		
3. 調査・実験の計画立案(3)			11. 収集データの整理および分析(2)		
4. 調査・実験の準備(1)			12. 収集データの整理および分析(3)		
5. 調査・実験の準備(2)			13. 分析結果についての考察(1)		
6. 調査・実験の準備(3)			14. 分析結果についての考察(2)		
7. 調査・実験の実施(1)			15. 分析結果についての考察(3)		
8. 調査・実験の実施(2)					
<b>【到達目標】</b>					
<p>(1) 自らの研究課題に基づく研究目的、研究方法を明確にし、調査・実験の具体的手立てを計画立案することができる。 また、それを実施するのに必要な資料や環境の準備・整備等を適正に行うことができる。 (2) 予め決定された計画にそって、調査・実験を実施することができる。 (3) 収集されたデータを分析計画に基づいて整理し、必要な統計解析を自ら実施することができる。 (4) 統計解析によって得られた分析結果を詳しく考察し、自らの研究課題と研究目的に照らしてどのような知見が得られているかを抽出することができる。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>本特演は、受講者自らが全ての時間において自らに課題を課し、その課題解決作業を毎週実施して、その進捗状況や作業上生じた新たな課題を確認・議論しながら進められる。受講者には、自らの課題解決に向けた作業継続の強い意識と、研究計画に基づく作業手続きを着実に進める実践力が求められる。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>心理学研究における調査ないしは実験の基本的留意事項をふまえながら、調査・実験を計画・実施し、収集したデータの分析と考察を行なう。</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>教科書は特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。 なお、参考書としては、村上宣寛・著「心理尺度のつくり方」（北大路書房）、後藤他・編著「心理学マニュアル要因計画法」（北大路書房）などを使用する。</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>毎時間の課題遂行状況を50%、期末の本特演全般を総括するレポート課題を50%とし、両者を総合して評価する。</p>					
<b>【関連科目】</b>					
<p>スポーツ心理学特講、スポーツ健康科学特演Ⅰ、スポーツ健康科学特演Ⅱ、スポーツ健康科学特演Ⅲ</p>					

科目名	スポーツ健康科学特演Ⅲ		担当者	沢井史穂	
英文名	Seminar in Sport and Health Sciences Ⅲ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b> 研究計画に基づき、データの収集・分析を行う。					
<b>【授業計画】</b>					
1. ガイダンス			9. 研究の遂行		
2. 研究計画の確認			10. 研究の遂行		
3. 研究スケジュールの提出			11. 研究の遂行		
4. 研究の遂行			12. 研究の遂行		
5. 研究の遂行			13. 研究の遂行		
6. 研究の遂行			14. 方法の記述法		
7. 研究の遂行			15. 結果の処理法		
8. 経過報告					
<b>【到達目標】</b> 研究計画に沿って研究を遂行できる。 迅速かつ正確にデータを収集できる。					
<b>【受講上の留意点】</b> 自らたてた研究計画に沿って、追求心をもって意欲的に取り組むことが重要である。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。					
<b>【授業時間外学修】</b> データ収集、分析を積極的に進め、研究計画の見直しや検討事項の整理に努める。					
<b>【教科書・参考書など】</b> 必要に応じて資料を配布する。					
<b>【成績評価方法】</b> 授業への取り組み方で評価する。					
<b>【関連科目】</b> ライフステージと健康科学論特講、 スポーツ健康科学特演Ⅳ					



科目名	スポーツ健康科学特演Ⅲ		担当者	助友裕子	
英文名	Seminar in Sport and Health Sciences Ⅲ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>収集データの分析方法についての概説を経て、研究目的に応じた分析手順を実践的に学ぶ。また、分析結果の示し方および解釈について討論を行い、それをふまえたプレゼンテーションを実施し、結果の解釈を論理立てて説明するための方法論を学ぶ。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. オリエンテーション		9. 解析結果の考察③			
2. 集計データの統計的検討①		10. 解析結果の考察④			
3. 集計データの統計的検討②		11. 解析結果の考察⑤			
4. 集計データの統計的検討③		12. プレゼンテーションと討議①			
5. 集計データの統計的検討④		13. プレゼンテーションと討議②			
6. 集計データの統計的検討⑤		14. プレゼンテーションと討議③			
7. 解析結果の考察①		15. 総合討論			
8. 解析結果の考察②					
<b>【到達目標】</b>					
<p>(1) 研究目的に応じた分析手順を立案することができるようにする。  (2) 分析結果の解釈について論理立てて説明することができるようにする。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>本特演では、実査を経て集計されたデータを用いて行うため、受講者は調査データを集計した上で授業に臨むことが前提となる。  ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>集計データの解析や解析結果のまとめを意欲的に行い、討論すべき事項を整理しておく。また、学内外の研究集会等に積極的に参加し、当該分野の最新の知見について情報収集すること。</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>授業時間内に適宜紹介したり配布したりする。</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>研究への取組み姿勢（100%）で評価する。</p>					
<b>【関連科目】</b>					
<p>健康教育とヘルスプロモーション特講、スポーツ健康科学特演Ⅰ、スポーツ健康科学特演Ⅱ、スポーツ健康科学特演Ⅳ、統計・調査方法演習</p>					

科目名	スポーツ健康科学特演Ⅲ		担当者	古泉佳代	
英文名	Seminar in Sport and Health Sciences Ⅲ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>口頭発表やポスター発表などを行うという形式で授業を進める。  実験及び調査データの分析方法を理解し、データ処理能力を育成する。さらに処理後のデータをわかりやすく図表にまとめる手法を学び、口頭発表やポスター発表での実践力を養う。結果から得られる事象を根拠をもとに様々な角度から考察しディスカッションを行う。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. 科学論文、口頭発表の構成			9. データ整理⑥ポスター発表における効果的な図表の作成		
2. データ整理①様々な統計手法			10. ポスター発表によるプレゼンテーション①		
3. データ整理②データ分析			11. ポスター発表によるプレゼンテーション②		
4. データ整理③データ分析			12. 研究結果及び解釈の討論①		
5. データ整理④図表の作成			13. 研究結果及び解釈の討論②		
6. データ整理⑤口頭発表における効果的な図表の作成			14. 研究結果及び解釈の討論③		
7. 口頭発表によるプレゼンテーション①			15. 総合討論		
8. 口頭発表によるプレゼンテーション②					
<b>【到達目標】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりやすい口頭発表ができる。</li> <li>・わかりやすいポスター発表ができる。</li> <li>・根拠をもとに考察できる。</li> </ul>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>本科目では自分自身のデータに適切な処理を加えていくため、受講生はデータを用意しておく必要がある。  ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
科学論文を検索し、熟読する。					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
必要に応じて資料を配布する。					
<b>【成績評価方法】</b>					
口頭発表（50％）とポスター発表（50％）で評価する。					
<b>【関連科目】</b>					
スポーツ健康科学特演Ⅰ、スポーツ健康科学特演Ⅱ、スポーツ健康科学特演Ⅳ、スポーツ栄養学特講					

科目名	スポーツ健康科学特演Ⅲ		担当者	永野 康 治	
英文名	Seminar in Sport and Health Sciences IV				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>本特演では、特演Ⅰ・Ⅱを踏まえ研究目的に応じた分析方法、手順を学ぶことを目的とする。さらに分析された結果の示し方および解釈についてディスカッションを行い、修士論文作成のためのデータおよび考察の概要を固めることを目指す。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. ガイダンス			9. 統計結果の解釈②		
2. 集計データの整理・分析方法の検討			10. 統計結果の解釈③		
3. 集計データの統計学的検討 ①記述統計			11. 統計結果の解釈④		
4. 集計データの統計学的検討 ②平均値の差の検定			12. プレゼンテーションとディスカッション①		
5. 集計データの統計学的検討 ③比率の差の検定			13. プレゼンテーションとディスカッション②		
6. 集計データの統計学的検討 ④相関分析・回帰分析			14. プレゼンテーションとディスカッション③		
7. 集計データの統計学的検討 ⑤ロジスティック回帰分析			15. 総合討論		
8. 統計結果の解釈①					
<b>【到達目標】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・集計データに応じた統計学的分析を行うことができる。</li> <li>・統計結果からその解釈を行うことができる。</li> <li>・集計データの結果について、プレゼンテーションにまとめディスカッションすることができる。</li> </ul>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に測定されたデータを用いるため、データを取得した状態で受講すること。</li> </ul> <p>※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・集計データの分析、解析を実際に進める。</li> </ul>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
特に指定しない。					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>提出課題(分析データの提出)50%</p> <p>プレゼンテーションの内容50%</p>					
<b>【関連科目】</b>					
スポーツ外傷リハビリテーション特講、スポーツ健康科学特演Ⅰ、スポーツ健康科学特演Ⅱ、スポーツ健康科学特演Ⅳ					

科目名	スポーツ健康科学特演Ⅳ		担当者	佐々木万丈	
英文名	Seminar in Sport and Health Sciences Ⅳ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>本特演は、体育・スポーツ心理学領域における科学的知見を提出するための研究の行い方と論文の書き方について理解を深め、その実践力を身に付けることを目的とする。特演Ⅳでは、特演Ⅲまでの学習、調査、分析、および討議から得られた知見をさらに整理・再検討し、自らの研究の成果を論文として構成できるように、心理学の一般的な章立てに則った文章作成法を実地の例題による作文を通じて学んでいく。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. 心理学論文作成上の一般的留意事項を理解する (1)：構成（章立て）		9. 「結果」の書き方について理解する (1)：分析結果のまとめ方			
2. 心理学論文作成上の一般的留意事項を理解する (2)：文章、用語		10. 「結果」の書き方について理解する (2)：図表の作成方法			
3. 心理学論文作成上の一般的留意事項を理解する (3)：図表		11. 「考察」の書き方を理解する (1)：標本集団の属性についてのまとめ方			
4. 「研究方法」の書き方について理解する		12. 「考察」の書き方を理解する (2)：主題に関する考察のまとめ方			
5. 「問題の所在」の書き方について理解する (1)：動機と周辺的問題のまとめ方		13. 「考察」の書き方を理解する (3)総括的考察にまとめ方			
6. 「問題の所在」の書き方について理解する (2)：中心的問題（先行研究）のまとめ方		14. 「まとめ」の書き方を理解する ：論文全体のまとめと今後の課題のまとめ方			
7. 「問題の所在」の書き方について理解する (3)：中心的問題（研究課題）のまとめ方		15. 「目次」・「文献」・「資料」の書き方を理解する			
8. 「研究目的」・「論文の構成・流れ」の書き方について理解する					
<b>【到達目標】</b>					
<p>(1)学位に関わる体育・スポーツ心理学領域の研究論文として体裁の整った論文を作成することができる。  (2)自ら設定した研究課題に基づき、計画的に進められた研究の過程とそれにより得られた調査・分析の結果を適切に章立てしまとめ、研究課題がどのように解決され、またどのような検討課題が残ったのかを明確に示すことができる。  (3)主観を記述することなく、客観的かつ簡潔に、そして正確な日本語の文法に沿った記述ができる。  (4)体育・スポーツ心理学領域に関わる研究成果を学術論文として発表する場合の論文作成法について理解できている。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>本特演は、特演Ⅰから特演Ⅲにおいて学習した体育・スポーツ心理学領域の研究論文を作成するための知識とスキルに基づく研究作業の総仕上げとして、修士論文を完成させるための文章作成法を学ぶことが目的である。受講者は、授業計画に沿って例題に基づく作文と修正作業を通じて、修士論文の作成スキルを身につけなければならない。  ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
論文作成上の基本的留意事項をふまえながら修士論文の作成に取り組む。					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>教科書は特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。  なお、参考書としては、松井豊・著「心理学論文の書き方」（河出書房新社）、田中敏・著「実践 心理データ解析 [改訂版]」（新曜社）などを使用する。</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
毎時間の課題遂行状況を50%、期末の本特演全般を総括するレポート課題を50%とし、両者を総合して評価する。					
<b>【関連科目】</b>					
スポーツ心理学特講、スポーツ健康科学特演Ⅰ、スポーツ健康科学特演Ⅱ、スポーツ健康科学特演Ⅲ					

科目名	スポーツ健康科学特演Ⅳ		担当者	沢井史穂	
英文名	Seminar in Sport and Health Sciences IV				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b> 科学論文の書き方、プレゼンテーションの仕方について学ぶ。					
<b>【授業計画】</b>					
1. 研究論文の全体構成、書き方の手順			9. 文章の推敲		
2. 緒言（研究の背景と目的）の記述法			10. 文献リストの作成法		
3. 緒言の発表・検討			11. 抄録の作成法		
4. データの処理			12. スライドの作成法		
5. データの処理			13. 口頭発表の仕方		
6. 図表の書き方			14. ポスター発表の仕方		
7. 結果の書き方			15. 総合討論		
8. 考察の書き方					
<b>【到達目標】</b> 研究論文の書き方を理解し、論理的文章が書けるようになる。 適切なデータ分析と結果の解釈、図表の選択ができる。 研究成果のプレゼンテーションスキルを身につける。 研究発表の場での確かな質疑応答ができる。					
<b>【受講上の留意点】</b> 研究論文完成に向けて、意欲的、主体的に取り組むこと。語彙力、文章力、発表力を高める努力をしてほしい。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。					
<b>【授業時間外学修】</b> 論文の記述法、図表の作成法、データ分析法、口頭発表の仕方について、予習・復習を行う。できれば、学会や研究会に参加して、他の研究者の発表の仕方を視聴することが望ましい。					
<b>【教科書・参考書など】</b> 必要に応じて資料を配布する。					
<b>【成績評価方法】</b> 授業への取り組み方（70%）と発表の仕方（30%）で評価する。					
<b>【関連科目】</b> スポーツ健康科学特演Ⅲ					

科目名	スポーツ健康科学特演Ⅳ		担当者	助友裕子	
英文名	Seminar in Sport and Health Sciences IV				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>研究課題の遂行プロセスおよび結果と結論の記述方法について学び、成果公表に必要な技術を習得する。また、研究協力者に対する結果のフィードバックや研究によって得られた知見を社会へ発信する方法についても知る。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. オリエンテーション		9. 結果の作成方法②			
2. 緒言の作成方法①：背景		10. 考察の作成方法①			
3. 緒言の作成方法②：先行研究		11. 考察の作成方法②			
4. 緒言の作成方法③：目的		12. 文献リストならびに謝辞の作成方法			
5. 研究ストーリーの確認		13. 結論ならびに要約の作成方法			
6. 方法の作成方法①		14. 研究協力者への報告文書の作成方法			
7. 方法の作成方法②		15. 研究成果が社会へ発信される方法			
8. 結果の作成方法①					
<b>【到達目標】</b>					
<p>(1) 学術論文を作成する手順を理解することができるようにする。  (2) 研究成果を社会に発信する際の配慮事項について説明することができるようにする。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>本特演は、受講者の研究課題の執筆に必要な技術を学び、研究の成果公表に向けた論文の執筆を行っていく。そのため、本特演に対する受講者の主体的な取り組み姿勢が求められる。また、研究は対象者からのデータ収集というプロセスを経ていることから、研究協力者に対して丁寧に結果をフィードバックすることが大切である。さらに、得られた知見が社会の中でどのように発信されることが理想的なのか、日頃から考える姿勢を身に付け本特演に取り組まれない。  ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
論文の執筆を進めること。また、学内外の研究集会等に積極的に参加し、当該分野の最新の知見について情報収集すること。					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
適宜紹介したり配布したりする。					
<b>【成績評価方法】</b>					
研究への取り組み姿勢（100%）で評価する。					
<b>【関連科目】</b>					
健康教育とヘルスプロモーション特講、スポーツ健康科学特演Ⅰ、スポーツ健康科学特演Ⅱ、スポーツ健康科学特演Ⅲ					

科目名	スポーツ健康科学特演Ⅳ		担当者	古泉佳代	
英文名	Seminar in Sport and Health Sciences Ⅳ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>栄養学やスポーツ栄養学分野における科学論文の書き方について学び、各自の研究成果を論文としてまとめる。また、学術雑誌への投稿等といった研究成果の公表の仕方を身につける。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. 科学論文の構成			9. 科学論文の書き方⑥考察		
2. データ整理①論文での表の作成			10. 科学論文の書き方⑦考察		
3. データ整理②論文での図の作成			11. 科学論文の書き方⑧結論		
4. 科学論文の書き方①緒言			12. 科学論文の書き方⑨参考文献、謝辞		
5. 科学論文の書き方②文献研究			13. 科学論文の書き方⑩抄録、英文抄録		
6. 科学論文の書き方③方法			14. 投稿論文へのまとめ方		
7. 科学論文の書き方④結果			15. 総合討論		
8. 科学論文の書き方⑤結果					
<b>【到達目標】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 科学論文の構成を理解する。</li> <li>・ 論文の書き方を理解し、明確な文章を作成することができる。</li> <li>・ 投稿論文へのまとめ方を理解し、各自のデータを基に投稿を進めることができる。</li> </ul>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>本科目では受講生による実践、発表、討論を中心に行う。受講生は演習の題材として、研究背景、方法、結果、考察、参考文献をまとめておく必要がある。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
科学論文を検索し、熟読する。					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
必要に応じて資料を配布する。					
<b>【成績評価方法】</b>					
授業への取り組み（50％）と期末レポート（50％）で評価する。					
<b>【関連科目】</b>					
スポーツ健康科学特演Ⅰ、スポーツ健康科学特演Ⅱ、スポーツ健康科学特演Ⅲ、スポーツ栄養学特講					

科目名	スポーツ健康科学特演Ⅳ		担当者	永野康治																	
英文名	Seminar in Sport and Health Sciences Ⅳ																				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択																
<b>【授業概要・方法】</b>																					
<p>本特演では、特演Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを踏まえ研究成果を論文としてまとめ、公表するための手順を学ぶことを目的とする。論文をまとめるに当たっては研究の背景、手法、統計学的結果を踏まえ科学的な考察を深めていく。さらに論文を学術論文として投稿し、公表することを目指す。</p>																					
<b>【授業計画】</b>																					
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. ガイダンス</td> <td style="width: 50%;">9. 結果の記載法②図表</td> </tr> <tr> <td>2. 論文の構成・章立て</td> <td>10. 考察の記載法①</td> </tr> <tr> <td>3. 緒言の記載法①背景</td> <td>11. 考察の記載法②</td> </tr> <tr> <td>4. 緒言の記載法②先行研究</td> <td>12. 考察の記載法③</td> </tr> <tr> <td>5. 緒言の記載法③目的・仮説</td> <td>13. 結論および要旨の記載法</td> </tr> <tr> <td>6. 方法の記載法①対象者・計測方法</td> <td>14. 文献リストおよび謝辞の記載法</td> </tr> <tr> <td>7. 方法の記載法②統計学的手法</td> <td>15. 論文投稿の方法</td> </tr> <tr> <td>8. 結果の記載法①分析結果のまとめ</td> <td></td> </tr> </table>						1. ガイダンス	9. 結果の記載法②図表	2. 論文の構成・章立て	10. 考察の記載法①	3. 緒言の記載法①背景	11. 考察の記載法②	4. 緒言の記載法②先行研究	12. 考察の記載法③	5. 緒言の記載法③目的・仮説	13. 結論および要旨の記載法	6. 方法の記載法①対象者・計測方法	14. 文献リストおよび謝辞の記載法	7. 方法の記載法②統計学的手法	15. 論文投稿の方法	8. 結果の記載法①分析結果のまとめ	
1. ガイダンス	9. 結果の記載法②図表																				
2. 論文の構成・章立て	10. 考察の記載法①																				
3. 緒言の記載法①背景	11. 考察の記載法②																				
4. 緒言の記載法②先行研究	12. 考察の記載法③																				
5. 緒言の記載法③目的・仮説	13. 結論および要旨の記載法																				
6. 方法の記載法①対象者・計測方法	14. 文献リストおよび謝辞の記載法																				
7. 方法の記載法②統計学的手法	15. 論文投稿の方法																				
8. 結果の記載法①分析結果のまとめ																					
<b>【到達目標】</b>																					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 論文を記載する手順を説明することができる。</li> <li>・ 科学的な論文を作成することができる。</li> <li>・ 学術論文を投稿することができる。</li> </ul>																					
<b>【受講上の留意点】</b>																					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義の内容に応じて論文の記載を進めた上で受講すること。</li> </ul> <p>※対面授業（面接受業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>																					
<b>【授業時間外学修】</b>																					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自らの論文の記載を進める。</li> </ul>																					
<b>【教科書・参考書など】</b>																					
特に指定しない。																					
<b>【成績評価方法】</b>																					
<p>提出課題(毎回の該当部分の記載内容)50%</p> <p>期末課題(論文)50%</p>																					
<b>【関連科目】</b>																					
スポーツ外傷リハビリテーション特講、スポーツ健康科学特演Ⅰ、スポーツ健康科学特演Ⅱ、スポーツ健康科学特演Ⅲ																					



科目名	スポーツマネジメント科学特演 I		担当者	溝口紀子																	
英文名	Seminar in Sports Management I																				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択																
<b>【授業概要・方法】</b>																					
<p>スポーツマネジメントは、「する、みる、支える」に関するマネジメントを領域していますが、スポーツマネジメント科学特演 I では、とりわけスポーツを「支える」マネジメント、スポーツサービスを効果的・効率的な組織運営について授業を展開します。受講生のスポーツ経営領域を対象に、主に経営学的なアプローチを用いてスポーツ経営現象の解明のための方法論を学び、研究成果を実践的な経営課題の解決につなげる企画力、提案力を身につけることを目的とします。</p>																					
<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 学生によるスポーツマネジメントプロポーザル</td> </tr> <tr> <td>2. 社会科学の手法とは</td> <td>10. 学生によるスポーツマネジメントプロポーザル</td> </tr> <tr> <td>3. テキストの講読と討議</td> <td>11. 学生によるスポーツマネジメントプロポーザル</td> </tr> <tr> <td>4. テキストの講読と討議</td> <td>12. 学生によるスポーツマネジメントプロポーザル</td> </tr> <tr> <td>5. テキストの講読と討議</td> <td>13. 学生によるスポーツマネジメントプロポーザル</td> </tr> <tr> <td>6. テキストの講読と討議</td> <td>14. 学生によるスポーツマネジメントプロポーザル</td> </tr> <tr> <td>7. テキストの講読と討議</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. テキストの講読と討議</td> <td></td> </tr> </table>						1. ガイダンス	9. 学生によるスポーツマネジメントプロポーザル	2. 社会科学の手法とは	10. 学生によるスポーツマネジメントプロポーザル	3. テキストの講読と討議	11. 学生によるスポーツマネジメントプロポーザル	4. テキストの講読と討議	12. 学生によるスポーツマネジメントプロポーザル	5. テキストの講読と討議	13. 学生によるスポーツマネジメントプロポーザル	6. テキストの講読と討議	14. 学生によるスポーツマネジメントプロポーザル	7. テキストの講読と討議	15. まとめ	8. テキストの講読と討議	
1. ガイダンス	9. 学生によるスポーツマネジメントプロポーザル																				
2. 社会科学の手法とは	10. 学生によるスポーツマネジメントプロポーザル																				
3. テキストの講読と討議	11. 学生によるスポーツマネジメントプロポーザル																				
4. テキストの講読と討議	12. 学生によるスポーツマネジメントプロポーザル																				
5. テキストの講読と討議	13. 学生によるスポーツマネジメントプロポーザル																				
6. テキストの講読と討議	14. 学生によるスポーツマネジメントプロポーザル																				
7. テキストの講読と討議	15. まとめ																				
8. テキストの講読と討議																					
<b>【到達目標】</b>																					
<p>経営戦略や事業戦略、スポーツ産業とディーセントワーク、組織と人的資源マネジメントなどに焦点を当て、定量的（質問紙調査など）・定性的（ケーススタディなど）分析手法を修得します。</p>																					
<b>【受講上の留意点】</b>																					
<p>特になし ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>																					
<b>【授業時間外学修】</b>																					
<p>スポーツマネジメントに関する情報、資料を渉猟する。</p>																					
<b>【教科書・参考書など】</b>																					
<p>『よくわかるスポーツマネジメント』柳沢 和雄 ら編著、ミネルヴァ書房</p>																					
<b>【成績評価方法】</b>																					
<p>授業の発表内容を評価する。</p>																					
<b>【関連科目】</b>																					
<p>スポーツ科学論特講</p>																					

科目名	スポーツマネジメント科学特演 I		担当者	芳地 泰幸	
英文名	Seminar in Sports Management I				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>古典から最新論文まで、マネジメントや経営学に関する主要・必読文献（書籍・論文）を幅広く読み込み、その批判的検討を通じて、各自の研究テーマを明確にしていく。研究テーマの設定には学術的意義だけでなく社会的意義も問われる。そのため、現代の組織が直面している諸課題をマネジメントや経営学の分析視覚から整理・分析する。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
<p>1. ガイダンス            学問への理解（経営学、組織行動学とは）、研究とは？</p> <p>2. 自身の関心のある研究テーマについての発表・討論</p> <p>3. 文献講読、討論①</p> <p>4. 文献講読、討論②</p> <p>5. 文献講読、討論③</p> <p>6. 文献講読、討論④</p> <p>7. 文献講読、討論⑤</p> <p>8. 社会的課題の検討①</p> <p>9. 社会的課題の検討②</p> <p>10. 先行研究の批判的検討①</p> <p>11. 先行研究の批判的検討②</p> <p>12. 先行研究の批判的検討③</p> <p>13. 先行研究の批判的検討④</p> <p>14. 先行研究の批判的検討⑤</p> <p>15. 研究テーマの明確化</p>					
<b>【到達目標】</b>					
<p>①マネジメントや経営学の学問体系および変遷を理解する。            ②文献（書籍・論文）の検索、収集、読解、要約、内容紹介ができる。            ③先行研究を批判的に読むことができる（Critical Reading）。            ④社会的意義、学術的意義のある研究テーマを立案することができる。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>アカデミックな探究心（知的・学問的探究心）を強く求める。            与えられた課題のみをこなすのではなく、積極的かつ主体的に取り組むことを求める。            客観的な視点で物事を捉え、考察し、積極的にディスカッションすることを求める。            ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>文献講読や先行研究の批判的検討などは事前準備および事後学習が必要不可欠であり、それらの学習は全て時間外になる。            なお、学会や研究会に積極的に参加することが望ましい。</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>適宜、指示・紹介する            ※必要な文献は必ず自身で収集（購入）し、精読すること。</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>各授業での発言・態度・プレゼンテーション、事前・事後学習の成果等を総合して評価する。</p>					
<b>【関連科目】</b>					
<p>スポーツマーケティング特講、スポーツ組織論特講、スポーツマネジメント科学特演Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ</p>					

科目名	スポーツマネジメント科学特演Ⅱ		担当者	溝口紀子	
英文名	Seminar in Sports Management Ⅱ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>本授業ではスポーツマネジメント、グローバルスポーツマネジメントに関するスポーツマネジメントリーディングを中心に展開します。スポーツマネジメント研究をおこなうのに必要な基礎学力の養成を目的として、履修者が興味のある分野を選択し、指示されるリーディングリストにしたがって基礎文献を各自で読み、レポートを提出します。さらに演習形式で英語やフランス語の基礎文献を講読していきます。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. ガイダンス			9. 米国におけるスポーツ政策文献		
2. フランスにおけるスポーツ政策文献			10. 米国におけるスポーツ政策文献		
3. フランスにおけるスポーツ政策文献			11. 学生によるプロポーザル		
4. フランスにおけるスポーツ政策文献			12. 学生によるプロポーザル		
5. フランスにおけるスポーツ政策文献			13. 学生によるプロポーザル		
6. 欧州におけるスポーツ政策文献			14. 学生によるプロポーザル		
7. 欧州におけるスポーツ政策文献			15. まとめ		
8. 欧州におけるスポーツ政策文献					
<b>【到達目標】</b>					
フランス語のスポーツマネジメントに関する資料を講読できるようにする。					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>特になし  ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
スポーツマネジメントに関する情報、資料を渉猟する。					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
英語やフランス語のスポーツマネジメント、スポーツ社会学に関する資料を授業毎に配布します。					
<b>【成績評価方法】</b>					
プロポーザルの内容を評価します。					
<b>【関連科目】</b>					

科目名	スポーツマネジメント科学特演Ⅱ		担当者	芳地泰幸	
英文名	Seminar in Sports Management Ⅱ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>スポーツマネジメント科学特演Ⅰを踏まえ、研究を展開していくために必要不可欠な態度・素養を養うとともに、研究テーマを解明していくための研究計画書（プロポーザル）を作成することを目的とする。具体的には、科学論文とは何か、具備すべき要件・条件等を明らかにしたうえで、代表的な研究手法（アプローチ）や調査手法、データの種類の解析、研究倫理などについて理解する。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. 科学とは、科学論文とはなにか ・ 具備すべき要件や手続き、構成要素		9. データの種類と解析			
2. 社会科学とは（理論と論理）		10. 定量的データの分析（統計解析の基礎①）			
3. 研究手法①（理論研究）		11. 定量的データの分析（統計解析の基礎②）			
4. 研究手法②（実証研究）		12. 定量的データの分析（統計解析の基礎③）			
5. 研究手法③（実験研究）		13. 定性的データの分析（ナラティブ・記述データ解析）			
6. 研究手法④（事例研究）		14. 研究倫理			
7. 代表的な調査手法Ⅰ（定量的調査）		15. 研究計画書（プロポーザル）の作成			
8. 代表的な調査手法Ⅱ（定性的調査）					
<b>【到達目標】</b>					
<p>①科学論文とは何かを説明できる。  ②代表的な研究手法、調査手法について説明できる。  ③データの種類の解析方法について説明できる。  ④研究倫理について説明できる。  ⑤自身の研究テーマに適切なりサーチ・デザインを構築し、研究計画書を作成することができる。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>アカデミックな探究心（知的・学問的探究心）を求める。  与えられた課題のみをこなすのではなく、積極的かつ主体的に取り組むことを求める。  客観的な視点で物事を捉え、考察し、積極的にディスカッションすることを求める。  ※対面授業（面接受業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>各授業において事前学習・事後学習の時間外学習課題を課す。必ず、期日を守って主体的、積極的に取り組むこと。  なお、学会や研究会に積極的に参加し、発表することが望ましい。</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>適宜、指示・紹介する  ※必要な文献は必ず自身で収集（購入）し、精読すること。</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>各授業での発言・態度・プレゼンテーション、事前・事後学習の成果、研究計画書（プロポーザル）等を総合して評価する。</p>					
<b>【関連科目】</b>					
<p>スポーツマネジメント科学特演Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ</p>					

科目名	スポーツマネジメント科学特演Ⅲ		担当者	溝口紀子	
英文名	Seminar in Sports Management Ⅲ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>スポーツに関連する社会現象を、社会科学の手法から探究する研究を指導する。とりわけリサーチプロポーザルの作成を中心に授業を展開する。①独自性ある「問い」が立てられるようになること、②適切な方法論や分析方法を設定できるようになること、③データや根拠を十分に集められるようになることを目的とします。フィールドワーク、一次資料の収集方法、質問紙調査および統計的分析などの調査方法についても指導します。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. ガイダンス			9. リサーチプロポーザルの作成		
2. リサーチプロポーザルの作成			10. リサーチプロポーザル評価		
3. リサーチプロポーザルの作成			11. リサーチプロポーザル評価		
4. リサーチプロポーザルの作成			12. リサーチプロポーザル評価		
5. リサーチプロポーザルの作成			13. リサーチプロポーザル評価		
6. リサーチプロポーザルの作成			14. リサーチプロポーザル評価		
7. リサーチプロポーザルの作成			15. まとめ		
8. リサーチプロポーザルの作成					
<b>【到達目標】</b>					
<p>リサーチプロポーザルの作成ができるように、以下3つの到達目標を設定します。  ①独自性ある「問い」が立てられるようになること、②方法論や分析枠組みを適切に設定できるようになること、③データや根拠を十分に集められるようになること。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>特になし  ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>社会科学の手法に関する図書を熟読する</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>英語やフランス語のスポーツマネジメント、スポーツ社会学に関する資料を授業毎に配布します。</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>リサーチプロポーザルを提出し、内容を評価します。</p>					
<b>【関連科目】</b>					

科目名	スポーツマネジメント科学特演Ⅲ		担当者	芳地泰幸	
英文名	Seminar in Sports Management Ⅲ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
スポーツマネジメント科学特演Ⅰ・Ⅱを踏まえ、研究計画に基づき、研究を遂行する。					
<b>【授業計画】</b>					
1. 研究計画の確認			9. 調査の実施等、研究遂行に関わる指導		
2. 研究スケジュールおよび、進捗状況の確認			10. 調査の実施等、研究遂行に関わる指導		
3. 調査の実施等、研究遂行に関わる指導			11. 調査の実施等、研究遂行に関わる指導		
4. 調査の実施等、研究遂行に関わる指導			12. 調査の実施等、研究遂行に関わる指導		
5. 調査の実施等、研究遂行に関わる指導			13. 調査の実施等、研究遂行に関わる指導		
6. 調査の実施等、研究遂行に関わる指導			14. 調査の実施等、研究遂行に関わる指導		
7. 調査の実施等、研究遂行に関わる指導			15. 進捗状況の報告		
8. 経過報告					
<b>【到達目標】</b>					
研究計画に沿って研究を遂行できる。					
<b>【受講上の留意点】</b>					
研究計画に沿って、意欲的かつ誠実に取り組むことを求める。 研究に関わる資料やデータについては適切に保管・管理すること。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。					
<b>【授業時間外学修】</b>					
研究の遂行に関わる種々の準備を積極的かつ主体的に進めること。 なお、予備調査の結果や中間報告の内容について、学会や研究会で発表することが望ましい。					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
必要に応じて適宜、指示する。					
<b>【成績評価方法】</b>					
取り組み姿勢、研究の進捗状況等に応じて総合的に評価する。					
<b>【関連科目】</b>					
スポーツマネジメント科学特演Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ					

科目名	スポーツマネジメント科学特演Ⅳ		担当者	溝口紀子																	
英文名	Seminar in Sports Management Ⅳ																				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択																
<b>【授業概要・方法】</b> 社会科学の手法を身につけ、スポーツ社会学、スポーツ政策研究の成果を関連学会で発表し、学会誌に論文を投稿する。																					
<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 論文審査会の準備</td> </tr> <tr> <td>2. 学会発表の準備</td> <td>10. 論文審査会の準備</td> </tr> <tr> <td>3. 学会発表の準備</td> <td>11. 論文審査会の準備</td> </tr> <tr> <td>4. 学会発表の準備</td> <td>12. 論文審査会の準備</td> </tr> <tr> <td>5. 学会発表の準備</td> <td>13. 論文審査会の準備</td> </tr> <tr> <td>6. 学会発表の準備</td> <td>14. 論文審査会</td> </tr> <tr> <td>7. 学会発表の準備</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 論文審査会の準備</td> <td></td> </tr> </table>						1. ガイダンス	9. 論文審査会の準備	2. 学会発表の準備	10. 論文審査会の準備	3. 学会発表の準備	11. 論文審査会の準備	4. 学会発表の準備	12. 論文審査会の準備	5. 学会発表の準備	13. 論文審査会の準備	6. 学会発表の準備	14. 論文審査会	7. 学会発表の準備	15. まとめ	8. 論文審査会の準備	
1. ガイダンス	9. 論文審査会の準備																				
2. 学会発表の準備	10. 論文審査会の準備																				
3. 学会発表の準備	11. 論文審査会の準備																				
4. 学会発表の準備	12. 論文審査会の準備																				
5. 学会発表の準備	13. 論文審査会の準備																				
6. 学会発表の準備	14. 論文審査会																				
7. 学会発表の準備	15. まとめ																				
8. 論文審査会の準備																					
<b>【到達目標】</b> 論文審査会に向けて準備を行う。修士論文の完成を目指し、学会発表および学会誌に投稿できるよう論文の精度を高める。																					
<b>【受講上の留意点】</b> 履修前に研究計画、論文構想を提出すること。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。																					
<b>【授業時間外学修】</b> スポーツマネジメントに関する情報、資料を渉猟する。																					
<b>【教科書・参考書など】</b> 特になし																					
<b>【成績評価方法】</b> 授業内の発表内容、提出課題にて評価する。																					
<b>【関連科目】</b>																					

科目名	スポーツマネジメント科学特演Ⅳ		担当者	芳地泰幸	
英文名	Seminar in Sports Management Ⅳ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
スポーツマネジメント科学特演Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを踏まえ、科学論文の書き方、プレゼンテーションの仕方について学び、研究論文を完成させる。					
<b>【授業計画】</b>					
1. 研究論文の全体構成の検討（章立て）		9. 考察の書き方			
2. 研究論文の書き方、手順		10. 結論及び終章の書き方			
3. 序章（研究背景）の書き方		11. 文献リスト、付録、謝辞の書き方			
4. 文献考証、概念整理の書き方①		12. 抄録の作成法			
5. 文献考証、概念整理の書き方②		13. 口頭発表の仕方、スライド作成の方法			
6. 研究目的、方法の書き方		14. ポスター発表の仕方、ポスター作成の方法			
7. 研究結果の記述法		15. 総合討論			
8. 図表の書き方					
<b>【到達目標】</b>					
①研究論文の書き方・構成方法を理解し、論理的文章が書けるようになる。 ②適切なデータ分析と結果の解釈、図表の作成ができる。 ③研究成果を効果的にプレゼンテーションすることができる。 ④研究発表の場での確かな質疑応答ができる。					
<b>【受講上の留意点】</b>					
研究論文の完成に向けて、忍耐強く、意欲的に取り組むこと。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。					
<b>【授業時間外学修】</b>					
論文の記述法、図表の作成法、データ分析法について、予習復習をおこなうこと。 特に、研究成果のプレゼンテーションに向けては入念な準備とリハーサルを授業時間外で実施すること。 なお、研究成果について学会や研究会で発表すること、論文として学術雑誌に投稿することが望ましい。					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
必要に応じて適宜、指示する。					
<b>【成績評価方法】</b>					
取組み姿勢、研究論文の内容、プレゼンテーションから総合的に評価する。					
<b>【関連科目】</b>					
スポーツマネジメント科学特演Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ					



科目名	スポーツ教育科学特演 I		担当者	須 甲 理 生	
英文名	Seminar in Sport Pedagogy I				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b> 体育科教育学における国際的・国内的な研究成果は、①カリキュラム論、②教授・学習指導論、③体育教師教育論、④研究方法論の4つの領域に整理される。本科目は、これらの各領域における研究成果と今後の研究課題を検討していく。					
<b>【授業概要・方法】</b>					
1. 体育科教育学の性格と領域 2. 体育科教育学における研究動向と課題①：カリキュラム研究① 3. 体育科教育学における研究動向と課題②：カリキュラム研究② 4. 体育科教育学における研究動向と課題③：カリキュラム研究③ 5. 体育科教育学における研究動向と課題④：カリキュラム研究④ 6. 体育科教育学における研究動向と課題⑤：教授・学習指導研究① 7. 体育科教育学における研究動向と課題⑥：教授・学習指導研究② 8. 体育科教育学における研究動向と課題⑦：教授・学習指導研究③ 9. 体育科教育学における研究動向と課題⑧：教授・学習指導研究④ 10. 体育科教育学における研究動向と課題⑨：体育教師教育研究① 11. 体育科教育学における研究動向と課題⑩：体育教師教育研究② 12. 体育科教育学における研究動向と課題⑪：体育教師教育研究③ 13. 体育科教育学における研究動向と課題⑫：体育教師教育研究④ 14. 体育科教育学における研究方法① 15. 体育科教育学における研究方法②					
<b>【到達目標】</b> (1) 体育科教育学における研究動向と課題について理解できる。 (2) 体育科教育学における研究方法について理解できる。					
<b>【受講上の留意点】</b> 本科目は、教員による一斉指導の講義ではなく、実践、発表、討論を中心に進めていく。したがって、受講生は、主体的に自身の考えを述べることができるように予習をして、本科目に取り組む必要がある。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。					
<b>【授業時間外学修】</b> 授業時間に指示された論文等について精読すると共に、毎時間の復習を行い、次回の授業で質問や意見を述べるための準備を行う。					
<b>【教科書・参考書など】</b> 必要に応じて、適宜資料を配布する。					
<b>【成績評価方法】</b> 授業への取り組み姿勢、授業内容の理解度、レポート課題等を総合的に評価する。					
<b>【関連科目】</b> 体育・スポーツ教育論特講、スポーツ教育科学特演Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ					

科目名	スポーツ教育科学特演 I		担当者	都 筑 真																	
英文名	Seminar in Sport Pedagogy I																				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択																
<b>【授業概要・方法】</b>																					
<p>体育・スポーツ史の研究成果は、①制度史、②実践史、③人物・思想史、④問題史等の分野に大別される。本演習では、これらの分野における研究成果と今後の研究課題を検討していくとともに、体育・スポーツ史における研究方法についても理解を深めていく。</p>																					
<b>【授業概要・方法】</b>																					
<table border="0"> <tr> <td>1. 体育・スポーツ史の性格と分野</td> <td>9. 体育・スポーツ史における研究成果と課題⑧ ：人物・思想史研究②</td> </tr> <tr> <td>2. 体育・スポーツ史における研究成果と課題① ：制度史研究①</td> <td>10. 体育・スポーツ史における研究成果と課題⑨ ：人物・思想史研究③</td> </tr> <tr> <td>3. 体育・スポーツ史における研究成果と課題② ：制度史研究②</td> <td>11. 体育・スポーツ史における研究成果と課題⑩ ：問題史研究①</td> </tr> <tr> <td>4. 体育・スポーツ史における研究成果と課題③ ：制度史研究③</td> <td>12. 体育・スポーツ史における研究成果と課題⑪ ：問題史研究②</td> </tr> <tr> <td>5. 体育・スポーツ史における研究成果と課題④ ：実践史研究①</td> <td>13. 体育・スポーツ史における研究成果と課題⑫ ：問題史研究③</td> </tr> <tr> <td>6. 体育・スポーツ史における研究成果と課題⑤ ：実践史研究②</td> <td>14. 体育・スポーツ史における研究方法①</td> </tr> <tr> <td>7. 体育・スポーツ史における研究成果と課題⑥ ：実践史研究③</td> <td>15. 体育・スポーツ史における研究方法②</td> </tr> <tr> <td>8. 体育・スポーツ史における研究成果と課題⑦ ：人物・思想史研究①</td> <td></td> </tr> </table>						1. 体育・スポーツ史の性格と分野	9. 体育・スポーツ史における研究成果と課題⑧ ：人物・思想史研究②	2. 体育・スポーツ史における研究成果と課題① ：制度史研究①	10. 体育・スポーツ史における研究成果と課題⑨ ：人物・思想史研究③	3. 体育・スポーツ史における研究成果と課題② ：制度史研究②	11. 体育・スポーツ史における研究成果と課題⑩ ：問題史研究①	4. 体育・スポーツ史における研究成果と課題③ ：制度史研究③	12. 体育・スポーツ史における研究成果と課題⑪ ：問題史研究②	5. 体育・スポーツ史における研究成果と課題④ ：実践史研究①	13. 体育・スポーツ史における研究成果と課題⑫ ：問題史研究③	6. 体育・スポーツ史における研究成果と課題⑤ ：実践史研究②	14. 体育・スポーツ史における研究方法①	7. 体育・スポーツ史における研究成果と課題⑥ ：実践史研究③	15. 体育・スポーツ史における研究方法②	8. 体育・スポーツ史における研究成果と課題⑦ ：人物・思想史研究①	
1. 体育・スポーツ史の性格と分野	9. 体育・スポーツ史における研究成果と課題⑧ ：人物・思想史研究②																				
2. 体育・スポーツ史における研究成果と課題① ：制度史研究①	10. 体育・スポーツ史における研究成果と課題⑨ ：人物・思想史研究③																				
3. 体育・スポーツ史における研究成果と課題② ：制度史研究②	11. 体育・スポーツ史における研究成果と課題⑩ ：問題史研究①																				
4. 体育・スポーツ史における研究成果と課題③ ：制度史研究③	12. 体育・スポーツ史における研究成果と課題⑪ ：問題史研究②																				
5. 体育・スポーツ史における研究成果と課題④ ：実践史研究①	13. 体育・スポーツ史における研究成果と課題⑫ ：問題史研究③																				
6. 体育・スポーツ史における研究成果と課題⑤ ：実践史研究②	14. 体育・スポーツ史における研究方法①																				
7. 体育・スポーツ史における研究成果と課題⑥ ：実践史研究③	15. 体育・スポーツ史における研究方法②																				
8. 体育・スポーツ史における研究成果と課題⑦ ：人物・思想史研究①																					
<b>【到達目標】</b>																					
<p>(1) 体育・スポーツ史における研究成果と課題について理解できる。  (2) 体育・スポーツ史における研究方法について理解できる。</p>																					
<b>【受講上の留意点】</b>																					
<p>本演習は、教員による一斉指導の講義ではなく、資料の精読、発表、討論を中心に進めていく。したがって、受講生は、主体的に自身の考えを述べるできるように予習をして、本演習に取り組む必要がある。  ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>																					
<b>【授業時間外学修】</b>																					
<p>授業時間に指示された論文等について精読すると共に、毎時間の復習を行い、次回の授業で質問や意見を述べるための準備を行う。</p>																					
<b>【教科書・参考書など】</b>																					
<p>必要に応じて適宜資料を配布する。</p>																					
<b>【成績評価方法】</b>																					
<p>授業への取り組み姿勢、授業内容の理解度、レポート課題等を総合的に評価する。</p>																					
<b>【関連科目】</b>																					
<p>体育・スポーツ史特講、体育・スポーツ教育論特講、スポーツ教育科学特演Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ</p>																					

科目名	スポーツ教育科学特演Ⅱ		担当者	須甲理生	
英文名	Seminar in Sport Pedagogy Ⅱ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b> 本科目は、スポーツ教育科学特演Ⅰにおける講義内容の理解を踏まえ、受講生自身の興味・関心に基づく具体的な研究テーマ、研究方法、研究計画を検討していく。					
<b>【授業計画】</b>					
1. ガイダンス					
2. 研究テーマの検討①					
3. 研究テーマの検討②					
4. 研究テーマの検討③					
5. 研究テーマに迫るための研究方法の検討①					
6. 研究テーマに迫るための研究方法の検討②					
7. 研究テーマに迫るための研究方法の検討③					
8. 研究テーマに迫るための研究方法の検討④					
9. 研究テーマに迫るための研究方法の検討⑤					
10. 研究計画の立案①					
11. 研究計画の立案②					
12. 研究計画の発表とディスカッション①					
13. 研究計画の発表とディスカッション②					
14. 研究計画の発表とディスカッション③					
15. 総合討論					
<b>【到達目標】</b> (1) 体育科教育学におけるオリジナリティのある研究テーマを設定できる。 (2) 研究テーマに相応しい研究方法と授業研究等の詳細な研究計画を立案できる。					
<b>【受講上の留意点】</b> 本科目は、受講生による実践、発表、討論を中心に行う。したがって、受講生自身の主体的な学びの姿勢を持って授業に臨むこと。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。					
<b>【授業時間外学修】</b> 研究テーマに関わった先行研究を精読する。また、発表用の資料を作成する。					
<b>【教科書・参考書など】</b> 必要に応じて、適宜資料を配布する。					
<b>【成績評価方法】</b> 授業への取り組み姿勢、授業内容の理解度、レポート課題等を総合的に評価する。					
<b>【関連科目】</b> 体育・スポーツ教育論特講、スポーツ教育科学特演Ⅰ，Ⅲ，Ⅳ					

科目名	スポーツ教育科学特演Ⅱ		担当者	都 筑 真	
英文名	Seminar in Sport Pedagogy Ⅱ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
本演習では、スポーツ教育科学特演Ⅰにおいて理解したことを踏まえ、受講生自身の興味・関心に基づく具体的な研究テーマ、研究課題、研究方法、研究計画を検討していく。					
<b>【授業計画】</b>					
1. ガイダンス		9. 研究テーマに沿った研究方法の検討③			
2. 研究テーマの検討①		10. 研究計画の立案①			
3. 研究テーマの検討②		11. 研究計画の立案②			
4. 研究テーマの検討③		12. 研究計画の発表とディスカッション①			
5. 研究テーマに沿った研究課題の検討①		13. 研究計画の発表とディスカッション②			
6. 研究テーマに沿った研究課題の検討②		14. 研究計画の発表とディスカッション③			
7. 研究テーマに沿った研究方法の検討①		15. 総合討論			
8. 研究テーマに沿った研究方法の検討②					
<b>【到達目標】</b>					
(1) 体育・スポーツ史におけるオリジナリティのある研究テーマを設定できる。 (2) 研究テーマに相応しい研究課題や研究方法等の詳細な研究計画を立案できる。					
<b>【受講上の留意点】</b>					
本演習は、受講生による資料の精読、発表、討論を中心に行う。したがって、受講生自身が主体的に学ぶ姿勢をもって授業に臨むこと。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。					
<b>【授業時間外学修】</b>					
研究テーマに関わる先行研究を精読するとともに、発表用の資料を作成する。					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
必要に応じて適宜資料を配布する。					
<b>【成績評価方法】</b>					
授業に取り組む姿勢、授業内容の理解度、レポート課題等を総合的に評価する。					
<b>【関連科目】</b>					
体育・スポーツ史特講、体育・スポーツ教育論特講、スポーツ教育科学特演Ⅰ，Ⅲ，Ⅳ					

科目名	スポーツ教育科学特演Ⅲ		担当者	須甲理生	
英文名	Seminar in Sport Pedagogy Ⅲ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
研究計画に応じたデータ収集を行い、データを分析していく。また、データ分析後に研究結果を文章としてまとめ、発表・討論していく。					
<b>【授業計画】</b>					
1. ガイダンス		9. データの収集と分析⑧：定性的分析⑤			
2. データの収集と分析①：定量的分析①		10. データ分析の信頼性・妥当性について①			
3. データの収集と分析②：定量的分析②		11. 研究結果の記述①			
4. データの収集と分析③：定量的分析③		12. 研究結果の記述②			
5. データの収集と分析④：定性的分析①		13. 研究結果の発表と討論①			
6. データの収集と分析⑤：定性的分析②		14. 研究結果の発表と討論②			
7. データの収集と分析⑥：定性的分析③		15. 総合討論			
8. データの収集と分析⑦：定性的分析④					
<b>【到達目標】</b>					
(1) 適切な方法でデータを収集することができる。					
(2) 収集されたデータについて適切な手続きに基づいて分析できる。					
(3) データに基づいた研究結果をわかりやすく文章化できる。					
<b>【受講上の留意点】</b>					
体育科教育学における研究のデータ収集は、主として学校現場で行われる。したがって、研究フィールドとなる学校現場に入る際には、先生方や生徒から学ばさせていただくという真摯な態度で臨むこと。また、先生方と可能な限り、コミュニケーションを取ることで、研究の考察を深めていく手掛かりを得ることも重要である。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。					
<b>【授業時間外学修】</b>					
学校現場でのデータ収集、映像データ等の取り込み、分析等について、受講生自身で進めておき、授業内で発表できるようにしておく。					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
適宜資料を配布する。					
<b>【成績評価方法】</b>					
研究への取り組み姿勢や授業で提出する研究結果のレポート等を総合的に評価する。					
<b>【関連科目】</b>					
体育・スポーツ教育論特講、スポーツ教育科学特演Ⅰ，Ⅱ，Ⅳ					

科目名	スポーツ教育科学特演Ⅲ		担当者	都 筑 真	
英文名	Seminar in Sport Pedagogy Ⅲ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
本演習では、研究計画に応じたデータ収集を行い、データを分析していく。また、データ分析後に研究結果を文章としてまとめ、発表・討論していく。					
<b>【授業計画】</b>					
1. ガイダンス		9. データの収集と分析⑧：一次資料の分析④			
2. データの収集と分析①：二次資料の分析①		10. データの信頼性・妥当性の検討			
3. データの収集と分析②：二次資料の分析②		11. 研究結果の記述①			
4. データの収集と分析③：二次資料の分析③		12. 研究結果の記述②			
5. データの収集と分析④：二次資料の分析④		13. 研究結果の発表と討論①			
6. データの収集と分析⑤：一次資料の分析①		14. 研究結果の発表と討論②			
7. データの収集と分析⑥：一次資料の分析②		15. 総合討論			
8. データの収集と分析⑦：一次資料の分析③					
<b>【到達目標】</b>					
(1) 適切な方法でデータを収集することができる。					
(2) 収集したデータについて適切な手続きに基づいて分析できる。					
(3) データに基づいた研究結果をわかりやすく文章化できる。					
<b>【受講上の留意点】</b>					
体育・スポーツ史における研究のデータの一部はインターネットで収集可能なものもあるが、大部分は学内外の図書館での地道な検索作業によって収集可能となる。地道な作業を厭わずに、手と足と目を使ってデータ収集に臨むこと。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。					
<b>【授業時間外学修】</b>					
学内外でのデータ収集と分析等は、受講生自身で進めておき、授業内でデータの収集結果と分析結果を発表できるようにしておく。					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
必要に応じて適宜資料を配布する。					
<b>【成績評価方法】</b>					
研究に取り組む姿勢や授業で提出する研究結果のレポート等を総合的に評価する。					
<b>【関連科目】</b>					
体育・スポーツ史特講、体育・スポーツ教育論特講、スポーツ教育科学特演Ⅰ，Ⅱ，Ⅳ					

科目名	スポーツ教育科学特演Ⅳ		担当者	須甲理生	
英文名	Seminar in Sport Pedagogy IV				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b> 科学論文の構成（諸言・研究方法・結果・考察・結論・文献・注）の仕方等について理解するとともに、スポーツ教育科学特演Ⅲで作成した研究結果を基に、論文全体を執筆する力を修得していく。					
<b>【授業計画】</b>					
1. 科学論文の構成の仕方 2. 諸言の記述の仕方① 3. 諸言の記述の仕方② 4. 研究方法の記述の仕方① 5. 研究方法の記述の仕方② 6. 研究結果の記述の仕方① 7. 研究結果の記述の仕方② 8. 考察の記述の仕方① 9. 考察の記述の仕方② 10. 結論の記述の仕方 11. 文献の整理と作成の仕方① 12. 文献の整理と作成の仕方② 13. 論文発表の仕方① 14. 論文発表の仕方② 15. 総合討論					
<b>【到達目標】</b> (1) 論文の構成の仕方について理解できる。 (2) 適切な論文構成に基づいて、論文を執筆できる。 (3) 他者にわかりやすく論文発表するための方法について理解できる。					
<b>【受講上の留意点】</b> 本科目は、受講生による実践、発表、討論を中心に行う。したがって、受講生自身の主体的な学びの姿勢を持って授業に臨むこと。また、毎回の課題について、確実に実施してくること。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。					
<b>【授業時間外学修】</b> 毎時間に指定される課題（諸言や研究方法の記述等）について作成しておく。					
<b>【教科書・参考書など】</b> 適宜資料を配布する。					
<b>【成績評価方法】</b> 研究への取り組み姿勢や論文発表等を総合的に評価する。					
<b>【関連科目】</b> 体育・スポーツ教育論特講、スポーツ教育科学特演Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ					

科目名	スポーツ教育科学特演Ⅳ		担当者	都 筑 真	
英文名	Seminar in Sport Pedagogy Ⅳ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
本演習では、学術論文の構成（緒言・研究方法・結果・考察・結論・文献・注）の仕方等について理解するとともに、スポーツ教育科学特演Ⅲで作成した研究結果をもとに、論文全体を執筆する能力を修得していく。					
<b>【授業計画】</b>					
1. 学術論文の構成の仕方		9. 考察の記述の仕方②			
2. 緒言の記述の仕方①		10. 結論の記述の仕方			
3. 緒言の記述の仕方②		11. 文献の整理と作成の仕方①			
4. 研究方法の記述の仕方①		12. 文献の整理と作成の仕方②			
5. 研究方法の記述の仕方②		13. 論文発表の仕方①			
6. 研究結果の記述の仕方①		14. 論文発表の仕方②			
7. 研究結果の記述の仕方②		15. 総合討論			
8. 考察の記述の仕方①					
<b>【到達目標】</b>					
(1) 論文の構成の仕方について理解できる。 (2) 適切な論文構成に基づいて論文を執筆できる能力を身につける。 (3) 他者にわかりやすく論文を発表するための方法について理解できる。					
<b>【受講上の留意点】</b>					
本演習は、受講生による資料の精読、発表、討論を中心に行う。したがって、受講生自身が主体的に学ぶ姿勢をもって授業に臨むこと。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。					
<b>【授業時間外学修】</b>					
毎時間に指定される課題（緒言や研究方法の記述等）について作成しておく。					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
必要に応じて適宜資料を配布する。					
<b>【成績評価方法】</b>					
研究に取り組む姿勢や論文作成能力等を総合的に評価する。					
<b>【関連科目】</b>					
体育・スポーツ史特講、体育・スポーツ教育論特講、スポーツ教育科学特演Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ					



科目名	舞踊学特演 I		担当者	松澤慶信	
英文名	Seminar in Dance I				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
舞踊という現象を特化するための方法論的考察、つまり舞踊「学」とは何かを反省する。最初は比較芸術学的考察を徹底して、舞踊という現象の本質を浮き彫りにしていく。その後に舞踊に迫る方法論そのものを検討する。学問という営為を、舞踊を対象に考察するものである。					
<b>【授業計画】</b>					
1. 比較芸術学的考察とは何か。 9. 舞踊人類学的アプローチの可能性					
2. 絵画と舞踊Ⅰ：静止的二次元構造との比較 10. 社会学的考察から見えてくること					
3. 絵画と舞踊Ⅱ：構図、配置（フォーメーション）としての舞踊 11. 芸術批評と舞踊批評					
4. 音楽と舞踊Ⅰ：時間分節の共有 12. 舞踊教育に舞踊の本質を探る。					
5. 音楽と舞踊Ⅱ：意味論的意味の共有・ライトモチーフ 13. コンセプチュアル・アートと舞踊					
6. 演劇と舞踊Ⅰ：ことばとダンシング 14. 21世紀アートと舞踊					
7. 演劇と舞踊Ⅱ：舞台空間の共有、観客という場 15. 舞踊美学あるいは舞踊芸術学とは何か。					
8. 芸術史学と舞踊史学：美的受容体験の様式史					
<b>【到達目標】</b>					
結論がでることではないので、こんな考察の仕方もあるという、学問という営為の反省的鑑として舞踊を対象に、学問そのものを省察したい。各人の舞踊「学」を少しでも持ってもらえれば幸いである。					
<b>【受講上の留意点】</b>					
積極的に授業のための準備にのぞむこと。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。					
<b>【授業時間外学修】</b>					
講義中に紹介した文献の読解					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
授業時に指示する。					
<b>【成績評価方法】</b>					
授業ごとの受講者の取り組み方を、対話を通じて確認し、評価する。					
<b>【関連科目】</b>					
舞踊演出法特講 比較舞踊学特講					

科目名	舞踊学特演 I		担当者	宮本乙女																	
英文名	Seminar in Dance Study I																				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択																
<b>【授業概要・方法】</b>																					
<p>「舞踊学特演」では、舞踊教育や体育科教育についての研究の進め方と論文の書き方について理解を深め、その実践力を身につけることを目的とする。特演 I では、講義と関連文献を通じて、この領域における研究動向を概観し、各領域での議論や研究方法の特徴を知る。</p>																					
<b>【授業計画】</b>																					
<table border="0"> <tr> <td>1. 舞踊教育学の性格と領域</td> <td>9. 舞踊教育と体育科教育における研究方法の検討③</td> </tr> <tr> <td>2. 舞踊教育と体育科教育における研究課題①カリキュラム</td> <td>10. 舞踊教育と体育科教育における研究方法の検討④</td> </tr> <tr> <td>3. 舞踊教育と体育科教育における研究課題②学習内容</td> <td>11. 各自の課題と関連した先行研究の精読と討論①</td> </tr> <tr> <td>4. 舞踊教育と体育科教育における研究課題③学習指導</td> <td>12. 各自の課題と関連した先行研究の精読と討論②</td> </tr> <tr> <td>5. 舞踊教育と体育科教育における研究課題④学習者</td> <td>13. 各自の課題と関連した先行研究の精読と討論③</td> </tr> <tr> <td>6. 舞踊教育と体育科教育における研究課題⑤教師</td> <td>14. 各自の課題と関連した先行研究の精読と討論④</td> </tr> <tr> <td>7. 舞踊教育と体育科教育における研究方法の検討①</td> <td>15. 各自の課題と関連した先行研究の精読と討論⑤</td> </tr> <tr> <td>8. 舞踊教育と体育科教育における研究方法の検討②</td> <td></td> </tr> </table>						1. 舞踊教育学の性格と領域	9. 舞踊教育と体育科教育における研究方法の検討③	2. 舞踊教育と体育科教育における研究課題①カリキュラム	10. 舞踊教育と体育科教育における研究方法の検討④	3. 舞踊教育と体育科教育における研究課題②学習内容	11. 各自の課題と関連した先行研究の精読と討論①	4. 舞踊教育と体育科教育における研究課題③学習指導	12. 各自の課題と関連した先行研究の精読と討論②	5. 舞踊教育と体育科教育における研究課題④学習者	13. 各自の課題と関連した先行研究の精読と討論③	6. 舞踊教育と体育科教育における研究課題⑤教師	14. 各自の課題と関連した先行研究の精読と討論④	7. 舞踊教育と体育科教育における研究方法の検討①	15. 各自の課題と関連した先行研究の精読と討論⑤	8. 舞踊教育と体育科教育における研究方法の検討②	
1. 舞踊教育学の性格と領域	9. 舞踊教育と体育科教育における研究方法の検討③																				
2. 舞踊教育と体育科教育における研究課題①カリキュラム	10. 舞踊教育と体育科教育における研究方法の検討④																				
3. 舞踊教育と体育科教育における研究課題②学習内容	11. 各自の課題と関連した先行研究の精読と討論①																				
4. 舞踊教育と体育科教育における研究課題③学習指導	12. 各自の課題と関連した先行研究の精読と討論②																				
5. 舞踊教育と体育科教育における研究課題④学習者	13. 各自の課題と関連した先行研究の精読と討論③																				
6. 舞踊教育と体育科教育における研究課題⑤教師	14. 各自の課題と関連した先行研究の精読と討論④																				
7. 舞踊教育と体育科教育における研究方法の検討①	15. 各自の課題と関連した先行研究の精読と討論⑤																				
8. 舞踊教育と体育科教育における研究方法の検討②																					
<b>【到達目標】</b>																					
<p>(1) 舞踊や体育に関連する研究領域の学術論文・専門文献を読解することが出来る。  (2) 舞踊や体育に関連する学術論文・専門文献を検索・収集することが出来る。  (3) 文献と各自の関心との関連を説明することが出来る。</p>																					
<b>【受講上の留意点】</b>																					
<p>この演習では、講義だけでなく実践、発表、討論を中心に進めていく。自分自身の課題や興味関心に応じて、自分の考えを述べる事が出来るようにしっかりと予習をして取り組む必要がある。  ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>																					
<b>【授業時間外学修】</b>																					
<p>舞踊学や体育科教育学などの基礎的な文献、関連文献を検索、収集する。文献を精読し、授業時間に用いる資料を作成する。</p>																					
<b>【教科書・参考書など】</b>																					
<p>必要に応じて資料を配付する。</p>																					
<b>【成績評価方法】</b>																					
<p>各授業での討議への貢献50%、担当文献の紹介20%、舞踊教育学研究に於ける各自の研究課題の位置づけに関する中間発表30%</p>																					
<b>【関連科目】</b>																					
<p>舞踊教育法特講 舞踊表現論特講 体育・スポーツ教育論特講</p>																					

科目名	舞踊学特演 I		担当者	八木ありさ	
英文名	Seminar in Dance Study I				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>「舞踊学特演」では、舞踊学領域における学術的知見を提出するための研究の進め方と論文の書き方について理解を深め、その実践力を身につけることを目的とする。特演 I では、講義と関連文献紹介を通じて、広く「ダンス」「舞踊」にかかわる領域における研究動向を概観し、各領域での議論や研究方法の特徴を知る。近接領域、関連領域との関連での「ダンス」「舞踊」の意味範囲についても考えながら、各自の研究課題に接近する。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. 「おどるところとからだ」の客観化に向けて			9. 舞踊学の研究課題：主要先行研究の抄読と討論③		
2. 関連論文の検索法と整理法			10. 教育媒体としての舞踊を扱う研究		
3. 伝統的学問領域と舞踊学①人文科学、自然科学、社会科学			11. 社会福祉・医療の素材としての舞踊を扱う研究		
4. 伝統的学問領域と舞踊学②人文科学、自然科学、社会科学			12. 舞踊学の研究課題：各自の課題と関連した先行研究の精読と討論①		
5. 舞踊学の研究課題：主要先行研究の抄読と討論①			13. 舞踊学の研究課題：各自の課題と関連した先行研究の精読と討論②		
6. 舞踊学の研究課題：主要先行研究の抄読と討論②			14. 舞踊学の研究課題：各自の課題と関連した先行研究の精読と討論③		
7. パフォーマンス研究と舞踊学①：表現か達成か			15. 舞踊学研究における各自の研究課題の位置づけ		
8. パフォーマンス研究と舞踊学②：日常か非日常か					
<b>【到達目標】</b>					
<p>(1) 舞踊学や関連する研究領域の学術論文・専門文献を読解するために必要な基礎的概念を理解し、説明することができる。</p> <p>(2) 舞踊学やそれに関連する学術論文・専門文献を検索・収集することができる。</p> <p>(3) 先行研究を正確に読み取ることができ、各自の関心との関連を説明することができる。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>この演習では講義と受講生による発表・討論を行う。受講生は、演習の題材として、教材の担当部分や収集した文献について十分理解し説明できるように準備しておく必要がある。また、自分の関心を活かしながらも、他者との意見交換による新しい視点の獲得に積極的であってほしい。</p> <p>※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
舞踊学基礎文献ならびに関連文献を実際に検索、収集する。文献を精読し、授業時間に用いる読解用資料を作成する。論考の類型と文献情報について理解しておく。					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>Butterworth, J. (2012). Dance Study. Routledge.</p> <p>Schechner, R. (2013). Performance Studies: An Introduction Revised, 3rd ed. Routledge.</p> <p>他、適宜、資料を配布する。</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
各授業での討議への貢献を50%、担当文献の紹介を20%、最終課題である「舞踊学研究における各自の研究課題の位置づけに関する小論文」を30%として評価する。					
<b>【関連科目】</b>					
舞踊表現論特講、舞踊教育法特講					

科目名	舞踊学特演Ⅱ		担当者	松澤慶信	
英文名	Seminar in Dance Ⅱ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b> 舞踊史学上のキーパーソンを取り上げ、彼らを軸にその時代毎のバレエのパラダイムを検証していく。					
<b>【授業計画】</b>					
1. カトリヌ・ド・メディチとアンリ2世の結婚による文化大移動					
2. バレエ元年である『王妃のためのバレエ・コミーク』					
3. 宮廷バレエを庇護し利用したルイ14世のバレエにおける業績					
4. コメディ・バレエの創作者たちモリエール、リュリ、ボーシャンと舞踊美学者メネストリエ					
5. マリー・カマルゴ、マリー・サレというプロフェッショナル・ダンサーの登場					
6. 舞踏譜の系譜：アルポー、ローザ、フィエ					
7. ジャン＝ジョルジュ・ノヴェールとバレエ・ダクション					
8. ドーベルヴァル、ヴェストリスという男性舞踊手の活躍					
9. カルロ・ブラジスの業績					
10. マリー・タリオーニらの舞姫の時代とロマンティック・バレエ					
11. ゴーチエ、ブルノンヴィーユ、サン＝レオンとロマンティック・バレエ					
12. マリウス・プティパ、レフ・イワーノフとクラシック・バレエ					
13. ミハイル・フォーキンの改革：19世紀バレエから20世紀バレエへの橋渡し					
14. モダン・バレエのパイオニアたち：バランシン、チューダー、クランコ、ベジャール					
15. コンテンポラリー・バレエという概念：キリアン、フォーサイス					
<b>【到達目標】</b> トピックスとなる人物の評伝ではなく、むしろ彼の生きた時代の「時代精神」を浮き彫りにすること。					
<b>【受講上の留意点】</b> 積極的に授業のための準備にのぞむこと。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。					
<b>【授業時間外学修】</b> 講義中に紹介した文献の読解					
<b>【教科書・参考書など】</b> 逐一、授業中に指示する。					
<b>【成績評価方法】</b> 授業ごとの受講者の取り組み方を、対話を通じて確認し、評価する。					
<b>【関連科目】</b> 舞踊演出法特講 比較舞踊学特講					

科目名	舞踊学特演Ⅱ		担当者	宮本乙女																	
英文名	Seminar in Dance StudyⅡ																				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択																
<b>【授業概要・方法】</b>																					
<p>「舞踊学特演」では、舞踊教育や体育科教育についての研究の進め方と論文の書き方について理解を深め、その実践力を身につけることを目的とする。特演Ⅱでは、特演Ⅰでの学修に基づいて、各自の関心領域と直接関わる研究論文を収集し、課題を明確にし、自身の研究にふさわしい方法を検討する。</p>																					
<b>【授業計画】</b>																					
<table border="0"> <tr> <td>1. 舞踊教育学の研究課題：各自の研究課題の意義</td> <td>9. 研究計画と予備的調査研究①</td> </tr> <tr> <td>2. 学術研究と倫理</td> <td>10. 研究計画と予備的調査研究②</td> </tr> <tr> <td>3. 個別研究テーマに応じた研究枠組み①</td> <td>11. 研究計画と予備的調査研究③</td> </tr> <tr> <td>4. 個別研究テーマに応じた研究枠組み②</td> <td>12. 研究計画と予備的調査研究④</td> </tr> <tr> <td>5. 個別研究テーマに応じた研究方法①</td> <td>13. 予備的調査研究成果の扱い①</td> </tr> <tr> <td>6. 個別研究テーマに応じた研究方法②</td> <td>14. 予備的調査研究成果の扱い②</td> </tr> <tr> <td>7. 個別研究テーマに応じた研究方法③</td> <td>15. 研究計画の修正</td> </tr> <tr> <td>8. 個別研究テーマに応じた研究方法④</td> <td></td> </tr> </table>						1. 舞踊教育学の研究課題：各自の研究課題の意義	9. 研究計画と予備的調査研究①	2. 学術研究と倫理	10. 研究計画と予備的調査研究②	3. 個別研究テーマに応じた研究枠組み①	11. 研究計画と予備的調査研究③	4. 個別研究テーマに応じた研究枠組み②	12. 研究計画と予備的調査研究④	5. 個別研究テーマに応じた研究方法①	13. 予備的調査研究成果の扱い①	6. 個別研究テーマに応じた研究方法②	14. 予備的調査研究成果の扱い②	7. 個別研究テーマに応じた研究方法③	15. 研究計画の修正	8. 個別研究テーマに応じた研究方法④	
1. 舞踊教育学の研究課題：各自の研究課題の意義	9. 研究計画と予備的調査研究①																				
2. 学術研究と倫理	10. 研究計画と予備的調査研究②																				
3. 個別研究テーマに応じた研究枠組み①	11. 研究計画と予備的調査研究③																				
4. 個別研究テーマに応じた研究枠組み②	12. 研究計画と予備的調査研究④																				
5. 個別研究テーマに応じた研究方法①	13. 予備的調査研究成果の扱い①																				
6. 個別研究テーマに応じた研究方法②	14. 予備的調査研究成果の扱い②																				
7. 個別研究テーマに応じた研究方法③	15. 研究計画の修正																				
8. 個別研究テーマに応じた研究方法④																					
<b>【到達目標】</b>																					
<p>(1) 自らの研究課題の意義や独自性を明確に説明できる。  (2) 課題を遂行するための研究方法を検討し、研究倫理について理解した上で研究計画を立案できる。  (3) 研究課題の設定、研究方法、これまでに進めた内容を文章としてまとめることができる。</p>																					
<b>【受講上の留意点】</b>																					
<p>各自の研究課題を有意義なものにするために、先行研究を丁寧に収集し読み込むこと、計画を立て実現するために必要なことについてよく検討することが必要である。予備的な調査や実践を行い、特演Ⅱの最終報告書としてまとめるということ意識して取り組むこと。  ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>																					
<b>【授業時間外学修】</b>																					
<p>必要な文献を精読し、研究に役立つように整理しておく。研究のスタイルにより、協力者を募ったり、図表作成・統計処理などを実習したりしておく。必要に応じて教育現場での活動などに参加して、フィールドを広げておく。</p>																					
<b>【教科書・参考書など】</b>																					
<p>必要に応じて資料を配付する。</p>																					
<b>【成績評価方法】</b>																					
<p>各授業での課題遂行状況60%、特演Ⅱの最終報告書40%。</p>																					
<b>【関連科目】</b>																					
<p>統計・調査法演習、舞踊教育法特講 舞踊表現論特講 体育・スポーツ教育論特講</p>																					

科目名	舞踊学特演Ⅱ		担当者	八木ありさ	
英文名	Seminar in Dance Study Ⅱ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>「舞踊学特演」では、舞踊学領域における学術的知見を提出するための研究の進め方と論文の書き方について理解を深め、その実践力を身につけることを目的とする。特演Ⅱでは、特演Ⅰでの学修を基に、各自の関心領域と直接関わる研究論文を収集ならびにレビューし、研究課題を明確化する方法や適した研究方法について検討する方法を学ぶ。研究倫理についても学ぶ。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. 舞踊学の研究課題：各自の研究課題の意義		9. 研究計画と予備的調査研究②			
2. 学術研究と倫理		10. 研究計画と予備的調査研究③			
3. 個別研究テーマに応じた研究枠組み①		11. 研究計画と予備的調査研究④			
4. 個別研究テーマに応じた研究枠組み②		12. 研究計画と予備的調査研究⑤			
5. 個別研究テーマに応じた研究方法①		13. 予備的調査研究成果の扱い①			
6. 個別研究テーマに応じた研究方法②		14. 予備的調査研究成果の扱い②			
7. 個別研究テーマに応じた研究方法③		15. 研究計画の最適化			
8. 研究計画と予備的調査研究①					
<b>【到達目標】</b>					
<p>(1) 自らの研究課題の意義や独自性を明確に説明できる。  (2) 課題を遂行するための研究方法を検討し、研究倫理に悖らぬ研究計画を立案することができ、その妥当性を説明できる。  (3) 自らがその研究課題を設定するに至った経緯をまとめ、具体的に文章としてまとめることができる。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>各自の研究課題を有意義なものにするために、関連する論文を丁寧に調査し、論点と方法の関係について十分に検討して参考にする必要がある。受講生には継続的な文献の収集と精読を求める。また、研究計画を明確にしてゆく過程で、予備的調査研究を行い、その成果を特演Ⅱの最終報告書としてまとめることになる。  ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>独自に収集した関連文献の読解により、レビューノートを作成する。授業内で企画する調査の細部を検討し、協力者を募って実施し、結果を取りまとめるまでの一連の流れを確かめる。図表の作成方法、文献情報の整備方法を実習しておく。</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>教科書は特に指定しない。適宜、資料を配布する。</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>各授業での課題遂行状況を60%、最終課題である「各自の研究計画立案に関する小論文」を40%として評価する。</p>					
<b>【関連科目】</b>					
<p>統計・調査方法演習、舞踊表現論特講、舞踊教育法特講</p>					

科目名	舞踊学特演Ⅲ		担当者	松澤慶信	
英文名	Seminar in Dance Ⅲ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b> 舞踊の持つ総合性、溶解力を確認し、舞踊芸術の存在論を構築する。					
<b>【授業計画】</b>					
1. 総合芸術としての舞踊					
2. 意味論的意味の指示機能の曖昧性から生じる舞踊の「溶解力」					
3. ジャンルに固有の形成法則としての舞踊とは何か。					
4. ワグナー的総合芸術Gesamtkunstwerkとは何か。					
5. 民主的な総合芸術としての『パレード』					
6. 複合性 (conglomerate)					
7. 非協同的共同としての共存					
8. カニングハムのチャンス・オペレーション					
9. 統一性をはかる受容体験側の認識論的地平					
10. パフォーマティヴという概念					
11. 総合芸術とパフォーマンス・アーツ					
12. パフォーマンス・アーツの戦略					
13. ポストモダンの「記号論的戯れ」					
14. ミニマル・アーツ					
15. それでもダンシングすること					
<b>【到達目標】</b> 舞踊に固有の形成法則とは何かをつねに反省することから、舞踊という作品の存在論的考察に向かいたい。					
<b>【受講上の留意点】</b> 積極的に授業のための準備にのぞむこと。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。					
<b>【授業時間外学修】</b> 講義中に紹介した文献の読解					
<b>【教科書・参考書など】</b> 授業時に指示する。					
<b>【成績評価方法】</b> 授業ごとの受講者の取り組み方を、対話を通じて確認し、評価する。					
<b>【関連科目】</b> 舞踊演出法特講 比較舞踊学特講					

科目名	舞踊学特演Ⅲ		担当者	宮本乙女	
英文名	Seminar in Dance StudyⅢ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>「舞踊学特演」では、舞踊教育や体育科教育についての研究の進め方と論文の書き方について理解を深め、その実践力を身につけることを目的とする。特演Ⅲでは、各自の研究計画に基づき、理論や、実証的な研究を進める。得られた情報をどのように分析、考察していくかについて学ぶ。各自の研究データを題材にしたプレゼンテーションを中心として授業を進行することによって、学術的な表現スキルを養う。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
<p>1. 研究の見通し</p> <p>2. 予備的調査研究の成果をもとにした文献または実践研究①</p> <p>3. 予備的調査研究の成果をもとにした文献または実践研究②</p> <p>4. 予備的調査研究の成果をもとにした文献または実践研究③</p> <p>5. 収集した情報の分析①</p> <p>6. 収集した情報の分析②</p> <p>7. 収集した情報の分析③</p> <p>8. 収集した情報の分析④</p> <p>9. 収集した情報の分析⑤</p> <p>10. 研究成果のプレゼンと討論</p> <p>11. 研究成果のプレゼンと討論</p> <p>12. 研究成果のプレゼンと討論</p> <p>13. 研究成果のプレゼンと討論</p> <p>14. 総合考察①</p> <p>15. 総合考察②</p>					
<b>【到達目標】</b>					
<p>(1) 予備的な調査研究を通して得られた新たな課題に基づき研究の深化の為に必要な情報を明らかに出来る。</p> <p>(2) 課題を明確にとらえた研究を実施することが出来る。</p> <p>(3) 得られた研究成果を整理・分析しプレゼンすることを通じて更に精緻なものとしていくことができる。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>研究のデータ収集に当たっては、学校教育現場をフィールドとする可能性が高い。常に先生方や生徒に感謝の気持ちをもって、臨む必要がある。</p> <p>※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>研究のスタイルにより、データの収集、取り込み、整理などを各自進める。必要な統計的な処理も行う。プレゼンテーションの準備を行う。</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>必要に応じて資料を配付する。</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>各授業での課題遂行状況60%、プレゼンテーションをまとめた小論文40%</p>					
<b>【関連科目】</b>					
<p>統計・調査法演習、舞踊教育法特講 舞踊表現論特講 体育・スポーツ教育論特講</p>					



科目名	舞踊学特演Ⅲ		担当者	八木ありさ	
英文名	Seminar in Dance Study Ⅲ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>「舞踊学特演」では、舞踊学領域における学術的知見を提出するための研究の進め方と論文の書き方について理解を深め、その実践力を身につけることを目的とする。特演Ⅲでは、各自の研究課題と研究計画に基づき理論研究あるいは実証研究を実施し、得られた情報についての分析と考察を行なう方法を学ぶ。各自の研究データを題材にしたプレゼンテーションを中心として授業を進行することによって、学術的表現スキルを養う。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. 研究の展望			9. 調査研究から得られた情報の整理と分析②		
2. 予備的調査研究の成果を基にした文献研究①			10. 調査研究から得られた情報の整理と分析③		
3. 予備的調査研究の成果を基にした文献研究②			11. 分析結果についての考察①		
4. 予備的調査研究の成果を基にした文献研究③			12. 分析結果についての考察②		
5. 進んだ段階の調査研究①			13. 分析結果についての考察③		
6. 進んだ段階の調査研究②			14. 総合考察①		
7. 進んだ段階の調査研究③			15. 総合考察②		
8. 調査研究から得られた情報の整理と分析①					
<b>【到達目標】</b>					
<p>(1) 予備的な調査研究を通して得られた新たな課題を理解し、研究を補強するための情報を取得することができる。  (2) 課題をより明確に捉えた調査研究を実施することができる。  (3) 調査研究実施により取得した情報等の成果を整理・分析し、研究課題と対応した知見の抽出に向けての考察を加えることができる。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>授業の材料となる各自の発表資料の作成にあたっては、情報媒体の特性に応じて明確な提示ができるように、表現方法の研究が必要となる。  ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>独自に収集した関連文献の読解により、レビューノートを作成する。クリティカルな思考を訓練し、独自テーマに関する論考の経過を、客観的に記述することで発表資料を作成する。授業内で指摘された情報の補強や論考の補強などの課題に取り組む。</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>教科書は特に指定しない。適宜、資料を配布する。</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>各授業での計画的・意欲的な課題遂行状況を50%、最終課題である「分析結果の考察に関する小論文」を50%として評価する。</p>					
<b>【関連科目】</b>					
<p>統計・調査方法演習、舞踊表現論特講、舞踊教育法特講</p>					

科目名	舞踊学特演IV		担当者	松澤慶信	
英文名	Seminar in Dance IV				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b> 舞踊を身体論的考察の俎上に乗せて考察すること、そしてその考察の意味を考える。					
<b>【授業計画】</b>					
1. なぜ舞踊は身体論にあこがれるのか。しかし舞踊は身体論の奴隷ではない。			9. 社会学的身体		
2. 心身二元論としての身体論			10. 技術論として：テクネーを手がかりに		
3. 心身二元論の克服とは何か。			11. ダンシングすることと身体		
4. メタレベルの身体論とは何か。			12. 身体による時間・空間の分節を共有するものとしての共振性		
5. 言語論的（意味論的）なバイアスがかからない身体論的方法論的反省			13. 認識論と存在論の交差する場としての身体		
6. 事実学と本質学			14. 間身体性とノエシス・ノエマ		
7. 価値論的考察とは何か。			15. 直感する身体		
8. 行動学としての身体論					
<b>【到達目標】</b> 身体論とはその内容だけでなく、その哲学的問題が立つ論理地平そのものを問うところにこの問題のアポリアとおもしろさがある。そして身体あるいは身体論が、どのように舞踊論に貢献するのか。その方法論的反省のための材料を与えたい。					
<b>【受講上の留意点】</b> 積極的に授業のための準備にのぞむこと。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。					
<b>【授業時間外学修】</b> 講義中に紹介した文献の読解					
<b>【教科書・参考書など】</b> 立ちはだかる問題へのヒントとなるであろうテキストを、その都度指示し、時とともに精読する。					
<b>【成績評価方法】</b> 授業ごとの受講者の取り組み方を、対話を通じて確認し、評価する。					
<b>【関連科目】</b> 舞踊演出法特講 比較舞踊学特講					

科目名	舞踊学特演Ⅳ		担当者	宮本乙女	
英文名	Seminar in Dance StudyⅣ				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>「舞踊学特演」では、舞踊教育や体育科教育についての研究の進め方と論文の書き方について理解を深め、その実践力を身につけることを目的とする。特演Ⅳでは、各自の研究課題と計画に基づいて行った研究の成果を精査し、学術研究論文として表現する方法を学ぶ。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
<p>1. 研究論文作成① 書式と研究の構成の仕方</p> <p>2. 研究論文作成② 図表の表記方法</p> <p>3. 研究論文作成③ 研究背景の書き方</p> <p>4. 研究論文作成④ 研究背景の書き方</p> <p>5. 研究論文作成⑤ 研究方法の書き方</p> <p>6. 研究論文作成⑥ 研究目的の書き方</p> <p>7. 研究論文作成⑦ 研究結果の書き方</p> <p>8. 研究論文作成⑧ 考察の書き方</p> <p>9. 研究論文作成⑨ 結論の書き方</p> <p>10. 文献一覧、資料他の作成方法</p> <p>11. 抄録、ポスターなどの作成方法</p> <p>12. 論文発表の仕方</p> <p>13. 論文発表の仕方</p> <p>14. 総合討論</p> <p>15. 総合討論</p>					
<b>【到達目標】</b>					
<p>(1)論文の構成について理解でき、実際に作成することが出来る。</p> <p>(2)他者にわかりやすく論文を発表できる。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>各自の執筆を進めつつ、完成に向けては、受講生同士のサポートを大事にして取り組む必要がある。</p> <p>※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
論文の完成に向けて文献のリストを整理し、毎時間で学修した内容を反映した執筆を進める。					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
必要に応じて資料を配付する。					
<b>【成績評価方法】</b>					
各授業での計画的・意欲的な進行状況40%、自身の研究課題に対して適切で独創的な研究論文が執筆できたか60%。					
<b>【関連科目】</b>					
統計・調査法演習、舞踊教育法特講 舞踊表現論特講 体育・スポーツ教育論特講					

科目名	舞踊学特演Ⅳ		担当者	八木ありさ																	
英文名	Seminar in Dance Study Ⅳ																				
標準履修年次	1・2年	単位	2単位	区分	特演・選択																
<b>【授業概要・方法】</b>																					
<p>「舞踊学特演」では、舞踊学領域における学術的知見を提出するための研究の進め方と論文の書き方について理解を深め、その実践力を身につけることを目的とする。特演Ⅳでは、各自の研究課題と研究計画に基づいて行なった理論研究あるいは実証研究の成果を精査し、学術研究論文として表現する方法を学ぶ。</p>																					
<b>【授業計画】</b>																					
<table border="0"> <tr> <td>1. 研究論文作成の作法①：書式と構文</td> <td>9. 理論研究の成果の記述方法①</td> </tr> <tr> <td>2. 研究論文作成の作法②：図表</td> <td>10. 実証研究の結果と考察の記述方法②</td> </tr> <tr> <td>3. 「研究方法」の記述方法</td> <td>11. 理論研究の成果の記述方法②</td> </tr> <tr> <td>4. 「研究の背景」の記述方法①</td> <td>12. 「総合考察」「まとめ」の記述方法</td> </tr> <tr> <td>5. 「研究の背景」の記述方法②</td> <td>13. 「結論」「抄録」の記述方法</td> </tr> <tr> <td>6. 「研究目的」の記述方法①</td> <td>14. 「文献一覧」「資料」他の作成方法</td> </tr> <tr> <td>7. 「研究目的」の記述方法②</td> <td>15. 口述発表のための資料作成方法</td> </tr> <tr> <td>8. 実証研究の結果と考察の記述方法①</td> <td></td> </tr> </table>						1. 研究論文作成の作法①：書式と構文	9. 理論研究の成果の記述方法①	2. 研究論文作成の作法②：図表	10. 実証研究の結果と考察の記述方法②	3. 「研究方法」の記述方法	11. 理論研究の成果の記述方法②	4. 「研究の背景」の記述方法①	12. 「総合考察」「まとめ」の記述方法	5. 「研究の背景」の記述方法②	13. 「結論」「抄録」の記述方法	6. 「研究目的」の記述方法①	14. 「文献一覧」「資料」他の作成方法	7. 「研究目的」の記述方法②	15. 口述発表のための資料作成方法	8. 実証研究の結果と考察の記述方法①	
1. 研究論文作成の作法①：書式と構文	9. 理論研究の成果の記述方法①																				
2. 研究論文作成の作法②：図表	10. 実証研究の結果と考察の記述方法②																				
3. 「研究方法」の記述方法	11. 理論研究の成果の記述方法②																				
4. 「研究の背景」の記述方法①	12. 「総合考察」「まとめ」の記述方法																				
5. 「研究の背景」の記述方法②	13. 「結論」「抄録」の記述方法																				
6. 「研究目的」の記述方法①	14. 「文献一覧」「資料」他の作成方法																				
7. 「研究目的」の記述方法②	15. 口述発表のための資料作成方法																				
8. 実証研究の結果と考察の記述方法①																					
<b>【到達目標】</b>																					
<p>(1) 研究論文の構造と作法を理解し、実際に作成できる。  (2) 論述内容の概要を説明できる。</p>																					
<b>【受講上の留意点】</b>																					
<p>文章、資料、口述いずれにおいても、一貫性のある明確な表現を実現する必要がある。計画に照らした進行状況を常に把握しつつ、柔軟に取り組むことが重要である。  ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>																					
<b>【授業時間外学修】</b>																					
<p>独自に作成しているレビューノートと連動した文献リストを実際に作成する。クリティカルな思考を訓練し、独自テーマに関する論考の経過を、客観的に記述することで発表資料を作成する。授業内で指摘された情報の補強や論考の補強などの課題に取り組む。</p>																					
<b>【教科書・参考書など】</b>																					
<p>教科書は特に指定しない。適宜、資料を配布する。</p>																					
<b>【成績評価方法】</b>																					
<p>各授業での計画的・意欲的な課題遂行状況を40%、研究課題に対して適切で独創的な研究論文が執筆できたかを60%として評価する。</p>																					
<b>【関連科目】</b>																					
<p>統計・調査方法演習、舞踊表現論特講、舞踊教育法特講</p>																					

科目名	測定方法演習		担当者	星川佳広																	
英文名	Practice for sports Physiology																				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	方法演習・選択																
<b>【授業概要・方法】</b>																					
<p>スポーツ科学研究におけるパフォーマンスや身体の構造・機能に関する基礎的な測定項目について幅広く学習する。測定の妥当性や再現性、測定方法の理論的背景について理解すると同時に、実際に測定を行うことで、測定技量を習得し、測定に伴う注意事項に習熟する。また、測定結果の分析、評価法についても学習する。</p>																					
<b>【授業計画】</b>																					
<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンスおよび妥当性と再現性の理解</td> <td>9. 形態と身体組成①（その生理学と測定・計算法）</td> </tr> <tr> <td>2. 酸素摂取量①（その生理学と測定・計算法）</td> <td>10. 形態と身体組成②（密度法、インピーダンス法、皮脂厚法、超音波法）</td> </tr> <tr> <td>3. 酸素摂取量②（ダグラスバック法、定常負荷運動時の応答、運動強度-酸素摂取量関係）</td> <td>11. 筋力①（その生理学と測定・計算法）</td> </tr> <tr> <td>4. 酸素摂取量③（エネルギー消費量の計算、メッツとの関係性）</td> <td>12. 筋力②（等速性筋力装置、関節角度-トルク、速度-力関係）</td> </tr> <tr> <td>5. 酸素摂取量④（ブレスバイブレス法、漸増負荷運動時の応答、無酸素性閾値、最大酸素摂取量）</td> <td>13. 身体重心①（概要、床反力計-力、速度、位置変位の関係性）</td> </tr> <tr> <td>6. 身体活動量・トレーニング量①（その生理学と、測定法・ウェアラブル装置の進化）</td> <td>14. 身体重心②（垂直跳時の重心変位と動作分析、キネマティクスとキネティクス）</td> </tr> <tr> <td>7. 身体活動量・トレーニング量②（心拍計、活動量計、加速度計、GPS）</td> <td>15. 身体重心③（データ分析）</td> </tr> <tr> <td>8. 身体活動量・トレーニング量③（1日のエネルギー消費量）</td> <td></td> </tr> </table>						1. ガイダンスおよび妥当性と再現性の理解	9. 形態と身体組成①（その生理学と測定・計算法）	2. 酸素摂取量①（その生理学と測定・計算法）	10. 形態と身体組成②（密度法、インピーダンス法、皮脂厚法、超音波法）	3. 酸素摂取量②（ダグラスバック法、定常負荷運動時の応答、運動強度-酸素摂取量関係）	11. 筋力①（その生理学と測定・計算法）	4. 酸素摂取量③（エネルギー消費量の計算、メッツとの関係性）	12. 筋力②（等速性筋力装置、関節角度-トルク、速度-力関係）	5. 酸素摂取量④（ブレスバイブレス法、漸増負荷運動時の応答、無酸素性閾値、最大酸素摂取量）	13. 身体重心①（概要、床反力計-力、速度、位置変位の関係性）	6. 身体活動量・トレーニング量①（その生理学と、測定法・ウェアラブル装置の進化）	14. 身体重心②（垂直跳時の重心変位と動作分析、キネマティクスとキネティクス）	7. 身体活動量・トレーニング量②（心拍計、活動量計、加速度計、GPS）	15. 身体重心③（データ分析）	8. 身体活動量・トレーニング量③（1日のエネルギー消費量）	
1. ガイダンスおよび妥当性と再現性の理解	9. 形態と身体組成①（その生理学と測定・計算法）																				
2. 酸素摂取量①（その生理学と測定・計算法）	10. 形態と身体組成②（密度法、インピーダンス法、皮脂厚法、超音波法）																				
3. 酸素摂取量②（ダグラスバック法、定常負荷運動時の応答、運動強度-酸素摂取量関係）	11. 筋力①（その生理学と測定・計算法）																				
4. 酸素摂取量③（エネルギー消費量の計算、メッツとの関係性）	12. 筋力②（等速性筋力装置、関節角度-トルク、速度-力関係）																				
5. 酸素摂取量④（ブレスバイブレス法、漸増負荷運動時の応答、無酸素性閾値、最大酸素摂取量）	13. 身体重心①（概要、床反力計-力、速度、位置変位の関係性）																				
6. 身体活動量・トレーニング量①（その生理学と、測定法・ウェアラブル装置の進化）	14. 身体重心②（垂直跳時の重心変位と動作分析、キネマティクスとキネティクス）																				
7. 身体活動量・トレーニング量②（心拍計、活動量計、加速度計、GPS）	15. 身体重心③（データ分析）																				
8. 身体活動量・トレーニング量③（1日のエネルギー消費量）																					
<b>【到達目標】</b>																					
<p>測定内容の妥当性や測定原理を理解した上で、実際に測定の応用ができるようになる。Excel等の表計算ソフトを利用し測定結果を多角的に分析し、評価する基礎的能力を身につける</p>																					
<b>【受講上の留意点】</b>																					
<p>測定原理、方法の理解をしたうえで実際に測定し、測定結果をコンピュータを使って分析するところまでを行う。受講生同士で検者、被検者を務めるので協力的に参加すること。測定機器の準備やメンテナンス等も重要な学習事項であるので、授業時間以外の活動も生じる場合がある ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>																					
<b>【授業時間外学修】</b>																					
<p>次回の測定内容について各自で事前に調べておくこと</p>																					
<b>【教科書・参考書など】</b>																					
<p>必要に応じて資料を配布する</p>																					
<b>【成績評価方法】</b>																					
<p>提出課題、レポートの完成度および授業への積極的参加態度で評価する</p>																					
<b>【関連科目】</b>																					
<p>スポーツ医学特講、スポーツ生理学特講、ライフステージと健康科学論特講、スポーツバイオメカニクス特講、スポーツ栄養学特講、スポーツ外傷リハビリテーション特講</p>																					

科目名	統計・調査方法演習		担当者	助友 裕子・永野 康治	
英文名	Statistical Surveys Practice				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	方法演習・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>スポーツ科学に関する研究活動にとって、調査設計、データ収集およびその解析は、研究活動の主軸をなすものである。近年、ICT技術の普及にともない様々な解析ソフトが開発されるなど、データ解析の利便性は飛躍的な向上をみせている。スポーツ科学に関する研究活動においては、種々の研究テーマに適合した調査ならびに解析方法を設計したり、解析結果を適切に解釈したりすることができるようにする必要がある。</p> <p>本演習では、統計解析を用いた結果の解釈方法や各種検定方法について学習し、統計解析ソフト等を活用しながら、スポーツ科学に関する研究テーマで用いられることの多い解析方法に取り組み、統計解析の応用についても考察する。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. 統計・調査方法概論			9. 仮説検定 (3) 効果量と検出力		
2. 統計解析の基礎 (1) データの整理			10. ランダム化と交絡		
3. 統計解析の基礎 (2) データの集計			11. 多変量解析		
4. 統計解析の基礎 (3) データ集計			12. 様々な研究デザイン		
5. 統計解析の基礎 (4) データの分析			13. 質的研究		
6. 統計解析の基礎 (5) データ集計の応用			14. 混合研究法		
7. 仮説検定 (1) 群間比較			15. 総合討論		
8. 仮説検定 (2) 検定の基礎					
<b>【到達目標】</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 統計解析の基礎的な方法論を理解し、スポーツ科学に関する先行研究の解析結果を適切に解釈することができる。</li> <li>2. 統計解析の基礎的な方法論を理解し、データベースの作成および各種検定を行うことができる。</li> <li>3. スポーツ科学に関する研究テーマにおいて調査設計を行うことができる。</li> <li>4. 様々な調査方法への理解を深め、自身の研究計画の独創性について考察することができる。</li> </ol>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>本演習では、先行研究を用いた結果の解釈、各種調査方法および統計解析方法の講義、統計解析の実際（演習）を組み合わせて進める。授業内でパソコンを使用することが必要となるが、本演習の受講に当たり新たに購入する必要はない。演習については教科書を基に進める。詳細は、授業内で指示する。</p> <p>※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
適宜課題を提示する。このほか、自身の研究計画にみあった各種論文の精読に取り組む。					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>・教科書 医療者のためのExcel入門 第2版（医学書院）</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
毎回の課題への取り組みを50%、レポート課題を50%として評価する。					
<b>【関連科目】</b>					
スポーツ医科学特演Ⅰ～Ⅳ、スポーツ運動学特演Ⅰ～Ⅳ、スポーツ健康科学特演Ⅰ～Ⅳ、スポーツマネジメント科学特演Ⅰ～Ⅳ、スポーツ教育科学特演Ⅰ～Ⅳ、舞踊学特演Ⅰ～Ⅳ					

科目名	マルチメディア方法演習		担当者	高野美和子	
英文名	Seminar of Methodology on Multimedia				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	方法演習・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>今日マルチメディアの使用はダンスやスポーツの研究領域においても、表現・伝達のコミュニケーション・ツールとして浸透してきている。この授業では、様々な情報、資料をPCを用いて加工・編集する技術について、実践を通じて理解、習得することを目的とする。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. 画像処理・製作方法（静止画の取り込み・加工・編集）					
2. 映像処理・製作方法（動画の録画、取り込み、加工・編集）					
3. 映像処理・製作方法（加工・編集）					
4. 映像処理・製作方法（加工・編集、書き出し）					
5. 音声・音楽処理・製作方法（録音、取り込み）					
6. 音声・音楽処理・製作方法（加工・編集）					
7. 音声・音楽処理・製作方法（加工・編集、書き出し）					
8. パワーポイントの編集方法①					
9. パワーポイントの編集方法②					
10. パワーポイントの編集方法③					
11. マルチメディア作品制作①					
12. マルチメディア作品制作②					
13. マルチメディア作品制作③					
14. マルチメディア作品制作④					
15. 作品発表 鑑賞 総括					
<b>【到達目標】</b>					
授業中に実践する各メディアの基本的な編集加工技術を習得し、自分の研究分野に活かすことができる。					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>本演習では、短い時間の中でPCをはじめ様々な機材を使用するため、それらの周辺機器を含め機材の扱い方も理解しながら、毎時間の課題に積極的に取り組む姿勢が求められる。  ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、別途課題を出して対応する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
毎回の授業後、学習した要点をまとめ、関連事項について資料収集等をする。					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
授業時に参考資料を配布する。					
<b>【成績評価方法】</b>					
授業内に提出される課題を80%、発表作品を20%として評価する。					
<b>【関連科目】</b>					
マルチメディア・パフォーマンス特講					

科目名	運動観察法演習		担当者	石塚 浩	
英文名	Seminar of methodology on movement observation				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	方法演習・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>経験科学において基礎となる「観察」について「実験」との対比から明らかにし、その科学的なアプローチの仕方について理解を深める。特にスポーツ科学の実践場面で主となる「覚える一教える」という関係系や、「表現」という生きた身体による意味の伝承といった部分などについても、観察の基礎理論を踏まえながら実践場面との関連を深めていく。コロキウム方式の授業を取り入れ、様々な視点からの議論を通して、構造的に理解を深める。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. 「観察」と「実験」の差異性と同一性(1)			9. 主観と客観という二律相反する構造と「身体性」の持つ意味		
2. 「観察」と「実験」の差異性と同一性(2)			10. 主観と客観という二律相反する構造の克己と「キネステーズ」の持つ意味		
3. 研究対象や認識対象とゾルゲの様態(1)			11. 間主観性と観察の問題性(1)		
4. 研究対象や認識対象とゾルゲの様態(2)			12. 間主観性と観察の問題性(2)		
5. 運動発生や運動修正における運動観察の問題性(1)			13. 錯視と視覚の問題性(1)		
6. 運動発生や運動修正における運動観察の問題性(2)			14. 錯視と視覚の問題性(2)		
7. 行為性と行動観察の差異とパトス的世界の持つ意味(1)			15. 指導場面における「運動観察」に関わる諸能力の検討とまとめ		
8. 行為性と行動観察の差異とパトス的世界の持つ意味(2)					
<b>【到達目標】</b>					
<p>運動の観察という意味内容が多岐にわたるものであり、解剖学的な「視覚」という意味ではないことを理解する。また、運動修正や運動発生が行われる「覚える」「教える」という関係系のなかで、どのような機能と役割を果たしているかを構造的に理解する。このような理解とともに、人間学的な視点や、現象学が扱う「意識の問題」との関わりにつながる端緒となるようにする。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>授業への出席は当然であり、厳密な理論に依拠した人間学的な領野の授業内容であるので、事前の予習、事後の復習は必須である。また、「みる」という行為をいったん括弧に入れて思考することが非常に重要となる。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>下記の【教科書・参考書など】の熟読（該当箇所は授業内で指示をする）と配布プリントによる復習が必須である。</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>「マイネル・スポーツ運動学」：クルト・マイネル著、金子明友著（大修館書店）、「教師のための運動学」：金子明友著・監修（大修館書店）、「動きの感性学」：金子明友著（大修館書店）、「ゲシュタルトクライス」：V. v. ヴァイツゼッカー（みすず書房）、動きの感じを描く：森直幹（明和出版）</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>授業への出席は必須であり、授業内容を踏まえた論旨が明確なレポート作成を義務づける。評価は、授業でのコロキウム方式によるディスカッション、レポート内容で行う。</p>					
<b>【関連科目】</b>					
<p>スポーツ運動発生論特講、スポーツコーチング論特講、スポーツ戦術論特講、スポーツ技術論特講</p>					



科目名	健康スポーツ指導方法演習		担当者	沢井史穂																	
英文名	Practice of programming and instruction technique for health and fitness exercise																				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	方法演習・選択																
<b>【授業概要・方法】</b>																					
<p>近年、先進諸国においては身体活動不足が死亡や要介護の危険因子となっている。我が国では、学校教育の中で定期的に身体を動かす機会が保証されているが、学校を卒業した後も健康づくりのために運動を習慣化している人の数は少ない。その理由の1つに、対象者に応じた適切な健康スポーツを指導できる人材の不足が挙げられる。超高齢社会を迎えた今、あらゆる年代の人々の健康保持・体力維持向上を図り、健康寿命の延伸につながる運動プログラムを作成し、その実践法を的確に伝えられる指導者が求められている。本授業では、対象者特性に応じた運動の質と量を見きわめ、安全性とトレーニング効果を兼ね備えた健康スポーツのプログラム作成法と参加者のモチベーションを高めるハイレベルの運動指導法を学ぶ。</p>																					
<b>【授業計画】</b>																					
<table border="0"> <tr> <td>1. 健康スポーツの動向・健康スポーツの基本プログラム 年齢・目的に応じた種目と構成</td> <td>9. コンディショニングの運動プログラミングと指導法② バランスボール</td> </tr> <tr> <td>2. 有酸素性運動のプログラミングと指導法① エクササイズウォーキング・リズムウォーキング</td> <td>10. コンディショニングの運動プログラムの実践指導 各自で作成した運動プログラムの実演指導練習</td> </tr> <tr> <td>3. 有酸素性運動のプログラミングと指導法② エアロビックダンスエクササイズ</td> <td>11. トレーニングプログラムのバリエーション① サーキットトレーニング/ステップエクササイズ</td> </tr> <tr> <td>4. 有酸素性運動の実践指導 各自で作成した運動プログラムの実演指導練習</td> <td>12. トレーニングプログラムのバリエーション② マーシャル・アーツ</td> </tr> <tr> <td>5. レジスタンス運動のプログラミングと指導法① 自重負荷トレーニング</td> <td>13. 高齢者向けの運動プログラミングと指導法</td> </tr> <tr> <td>6. レジスタンス運動のプログラミングと指導法② ダンベルトレーニング・チューブトレーニング</td> <td>14. 年齢・目的に応じた健康スポーツのプログラム作成 各自で作成した運動プログラムの発表と修正</td> </tr> <tr> <td>7. レジスタンス運動の実践指導 各自で作成した運動プログラムの実演指導練習</td> <td>15. 年齢・目的に応じた健康スポーツプログラムの指導 各自で作成した運動プログラムの実演指導練習</td> </tr> <tr> <td>8. コンディショニングの運動プログラミングと指導法① ストレッチングとセルフマッサージ</td> <td></td> </tr> </table>						1. 健康スポーツの動向・健康スポーツの基本プログラム 年齢・目的に応じた種目と構成	9. コンディショニングの運動プログラミングと指導法② バランスボール	2. 有酸素性運動のプログラミングと指導法① エクササイズウォーキング・リズムウォーキング	10. コンディショニングの運動プログラムの実践指導 各自で作成した運動プログラムの実演指導練習	3. 有酸素性運動のプログラミングと指導法② エアロビックダンスエクササイズ	11. トレーニングプログラムのバリエーション① サーキットトレーニング/ステップエクササイズ	4. 有酸素性運動の実践指導 各自で作成した運動プログラムの実演指導練習	12. トレーニングプログラムのバリエーション② マーシャル・アーツ	5. レジスタンス運動のプログラミングと指導法① 自重負荷トレーニング	13. 高齢者向けの運動プログラミングと指導法	6. レジスタンス運動のプログラミングと指導法② ダンベルトレーニング・チューブトレーニング	14. 年齢・目的に応じた健康スポーツのプログラム作成 各自で作成した運動プログラムの発表と修正	7. レジスタンス運動の実践指導 各自で作成した運動プログラムの実演指導練習	15. 年齢・目的に応じた健康スポーツプログラムの指導 各自で作成した運動プログラムの実演指導練習	8. コンディショニングの運動プログラミングと指導法① ストレッチングとセルフマッサージ	
1. 健康スポーツの動向・健康スポーツの基本プログラム 年齢・目的に応じた種目と構成	9. コンディショニングの運動プログラミングと指導法② バランスボール																				
2. 有酸素性運動のプログラミングと指導法① エクササイズウォーキング・リズムウォーキング	10. コンディショニングの運動プログラムの実践指導 各自で作成した運動プログラムの実演指導練習																				
3. 有酸素性運動のプログラミングと指導法② エアロビックダンスエクササイズ	11. トレーニングプログラムのバリエーション① サーキットトレーニング/ステップエクササイズ																				
4. 有酸素性運動の実践指導 各自で作成した運動プログラムの実演指導練習	12. トレーニングプログラムのバリエーション② マーシャル・アーツ																				
5. レジスタンス運動のプログラミングと指導法① 自重負荷トレーニング	13. 高齢者向けの運動プログラミングと指導法																				
6. レジスタンス運動のプログラミングと指導法② ダンベルトレーニング・チューブトレーニング	14. 年齢・目的に応じた健康スポーツのプログラム作成 各自で作成した運動プログラムの発表と修正																				
7. レジスタンス運動の実践指導 各自で作成した運動プログラムの実演指導練習	15. 年齢・目的に応じた健康スポーツプログラムの指導 各自で作成した運動プログラムの実演指導練習																				
8. コンディショニングの運動プログラミングと指導法① ストレッチングとセルフマッサージ																					
<b>【到達目標】</b>																					
<p>健康・体力づくりにつながる運動の質と量についてのガイドラインと健康スポーツの指導理論を踏まえて、対象者の能力や特性、運動目的に応じた適切な運動プログラムを作成できる能力と、それを安全で効果的に楽しく実演指導できる能力を身につける。</p>																					
<b>【受講上の留意点】</b>																					
<p>毎回、異なるテーマで実習を行うので、極力全授業に出席すること。実習中心なので、スポーツウエアとシューズ着用のこと。タオルと飲料水を持参すること。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>																					
<b>【授業時間外学修】</b>																					
<p>予め、次の授業に関連するテキストの章を読んでから授業に臨むこと。また、各回終了後に実習した内容を復習すること。学習内容を踏まえて独自の運動プログラムを作成し、実演指導できるよう練習をすること。</p>																					
<b>【教科書・参考書など】</b>																					
<p>「健康スポーツのすすめ」（日本評論社）。加えて毎回資料を配布する。</p>																					
<b>【成績評価方法】</b>																					
<p>授業への取り組み姿勢（ディスカッション能力含む）30%、課題（運動プログラミング能力）35%、プレゼンテーション能力35%</p>																					
<b>【関連科目】</b>																					
<p>ライフステージと健康科学論特講</p>																					

科目名	保健体育科指導方法演習 I		担当者	小海隆樹	
英文名	Practice of instruction for health and physical education I				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	方法演習・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>本科目では、2017・2018年改訂学習指導要領の保健体育科で求められる資質・能力を子供たちに習得させていくために必要な実践的指導力の育成を目的としている。具体的には、学部のスポーツやダンス実技に関する授業に指導補助者として関わりながら、指導実践とその省察を行っていく。また、主体的・対話的で深い学びを授業の中に具現化するための方法やICTを取り入れた実践を指導補助者として経験していく。本科目の最後には、指導実践と省察の往還のまとめとして、受講生同士で指導補助経験に関するプレゼンテーションとディスカッションを行う。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
<p>1. 実技授業に関わる事前指導①：学習指導要領で求められる資質・能力を子供達に確実に保証するための指導方法について</p> <p>2. 実技授業に関わる事前指導②：実技授業クラスの配置決定、指導補助者の役割の確認、省察課題の理解</p> <p>3. 実技授業の指導と省察①</p> <p>4. 実技授業の指導と省察②</p> <p>5. 実技授業の指導と省察③</p> <p>6. 実技授業の指導と省察④</p> <p>7. 実技授業の指導と省察⑤</p> <p>8. 実技授業の指導と省察⑥</p> <p>9. 実技授業の指導と省察⑦</p> <p>10. 実技授業の指導と省察⑧</p> <p>11. 実技授業の指導と省察⑨</p> <p>12. 実技授業の指導と省察⑩</p> <p>13. 実技授業の指導と省察⑪</p> <p>14. 実技授業の指導と省察⑫</p> <p>15. 総括：プレゼンテーションと討論</p>					
<b>【到達目標】</b>					
<p>(1) 効果的な授業を実践するための指導力を身に付ける。</p> <p>(2) 指導力量の形成や指導改善のための効果的な省察を行うことができる。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>自身が受けてきた体育授業や教育実習等で実践してきた体育授業のイメージを想起しながら受講すること。グループワークやディスカッションの際は、積極的な取り組みが求められる。</p> <p>※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>毎回の授業後、自身の指導補助に関する省察課題を行う。また、15回目でのプレゼンテーションのための資料作成を行う。</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>教科書は特に指定せず、適宜資料を配布する。</p> <p>(参考書) 高橋健夫ほか編 (2010) 「新版体育科教育学入門」大修館書店  高橋健夫編 (2003) 「体育授業を観察評価する：授業改善のためのオーセンティック・アセスメント」明和出版  竹田清彦ほか編 (1997) 「体育科教育学の探究：体育授業づくりの基礎理論」大修館書店</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>省察課題を40%、最終プレゼンテーションとレポート課題を60%として評価する。</p>					
<b>【関連科目】</b>					
<p>保健体育科指導方法演習 II、体育・スポーツ教育論特講</p>					

科目名	保健体育科指導方法演習Ⅱ		担当者	須甲理生	
英文名	Practice of instruction for health and physical education Ⅱ				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	方法演習・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>本科目では、2017・2018年改訂学習指導要領の保健体育科で求められる資質・能力を子供たちに習得させていくために必要な実践的指導力の育成を目的としている。具体的には、学部の保健や体育の模擬授業の指導補助者として、模擬授業観察、授業場面のデータ収集・分析（期間記録法、相互作用行動観察法）、授業者役への指導助言等に関わる。本科目の最後には、受講生同士で模擬授業の指導補助者の経験に関するプレゼンテーションとディスカッションを行う。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
<p>1. 授業に関わる事前指導①：授業場面のデータ収集・分析方法（期間記録法、相互作用行動観察法）の理解</p> <p>2. 授業に関わる事前指導②：模擬授業クラスの配置決定、指導補助者の役割の確認、省察課題の理解</p> <p>3. 模擬授業授業の指導補助と省察①</p> <p>4. 模擬授業授業の指導補助と省察②</p> <p>5. 模擬授業授業の指導補助と省察③</p> <p>6. 模擬授業授業の指導補助と省察④</p> <p>7. 模擬授業授業の指導補助と省察⑤</p> <p>8. 模擬授業授業の指導補助と省察⑥</p> <p>9. 模擬授業授業の指導補助と省察⑦</p> <p>10. 模擬授業授業の指導補助と省察⑧</p> <p>11. 模擬授業授業の指導補助と省察⑨</p> <p>12. 模擬授業授業の指導補助と省察⑩</p> <p>13. 模擬授業授業の指導補助と省察⑪</p> <p>14. 模擬授業授業の指導補助と省察⑫</p> <p>15. 総括：プレゼンテーションと討論</p>					
<b>【到達目標】</b>					
<p>(1) 効果的な授業を実践するための指導力を身に付ける。</p> <p>(2) 他者の授業実践を正確に観察・分析し、分析データから授業改善の視点を見付けることができる。</p> <p>(3) 他者の授業から自身の授業力量を形成するための省察能力を身に付ける。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>他者の模擬授業から改善点を見出し、自身の力量形成に繋げるための主体性が求められる。グループワークやディスカッションの際は、積極的な取り組みが求められる。</p> <p>※対面授業（面接受業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>模擬授業で行われる単元の前習、観察データの収集・分析、毎授業後の省察課題を行う。また、15回目でのプレゼンテーションのための資料作成を行う。</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<p>教科書は特に指定せず、適宜資料を配布する。</p> <p>（参考書）高橋健夫ほか編（2010）「新版体育科教育学入門」大修館書店  高橋健夫編（2003）「体育授業を観察評価する：授業改善のためのオーセンティック・アセスメント」明和出版  竹田清彦ほか編（1997）「体育科教育学の探究：体育授業づくりの基礎理論」大修館書店</p>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>省察課題を40%、最終プレゼンテーションとレポート課題を60%として評価する。</p>					
<b>【関連科目】</b>					
<p>保健体育科指導方法演習Ⅰ、体育・スポーツ教育論特講</p>					

科目名	スポーツ指導実践演習		担当者	渡部 誠	
英文名	Seminar in Sport Instruction Practice				
標準履修年次	2年	単位	2単位	区分	実践演習・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>新しい質の高いスポーツ指導者を育成するには、指導理論を踏まえた実践指導を体験し、そこで直面する様々な問題に対応できる指導力が求められる。スポーツ種目の特性と対象者や状況に応じた、指導計画の立案、指導方法について学ぶことが必要である。本演習では、主に世田谷区スポーツ振興財団の協力を得て、スポーツ指導における指導補助を行うことにより、指導実践能力の向上を目指すことを目的とする。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. 日本におけるスポーツ指導者の現状について					
2. スポーツ指導における基本理論					
3. スポーツ指導におけるスキル					
4～9. スポーツ教室におけるスポーツ指導実習					
10. スポーツ指導実習の中間報告					
11～14. スポーツ行事及びNPO法人での実習					
15. 討論					
<b>【到達目標】</b>					
<p>スポーツ指導における実習を体験し、その実態と現状を把握できる。さらに、指導方法の基本的な理論を理解し、スポーツ指導の基本スキルについて習得すること。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>学外での実習であるので、積極的で丁寧な対応が望まれる。  ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>1～3回については、理解出来たかを確認しよう。4～9回については、実習日誌にまとめよう。10回目は、報告会の準備をしよう。11～14回目は、実数日誌にまとめよう。15回目は討論の準備をしよう。</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<b>【成績評価方法】</b>					
<p>実習への取り組み方50%、報告・レポート50%として評価する。</p>					
<b>【関連科目】</b>					

科目名	スポーツ事業所実践演習		担当者	芳地泰幸	
英文名	Practice of Sport Business Organization				
標準履修年次	2年	単位	2単位	区分	実践演習・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>スポーツクラブやスポーツ用品メーカー、体育・スポーツ施設など、スポーツ関連産業における事業所での実務実習を通じて、現場における様々な問題点を発見し、その具体的な改善策を提案・実施できるようになることを目的とする。修士課程における各自の研究活動を通じて身につけた能力を、実務に役立つ課題解決力に結び付けるための実践的な学修をおこなう。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. 概要説明、実習の進め方、希望実習先ヒアリング					
2. 希望実習先とのマッチング（各種提出書類の準備）					
3. 実習先の概要把握、実習課題の明確化、実習ノート等の準備					
4～14. 事業所での実習（一つを選択する）					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロスポーツ企業</li> <li>・スポーツ用品メーカー</li> <li>・体育・スポーツ施設管理</li> <li>・フィットネスクラブ</li> <li>・その他（スポーツ関連産業）      など</li> </ul>					
15. 実習報告（プレゼンテーション）と報告書の提出					
<b>【到達目標】</b>					
<p>①スポーツ産業（事業）の運営上生じる問題点を的確に把握できる。  ②把握した問題点に対して適切な改善策を考案できる。  ③考案した改善策をわかりやすく提案することができる。  ④これまでに身につけた能力を実際の業務に役立て、他者と協働して業務を遂行することができる。</p>					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>実習先および実習期間は、科目担当者と相談のうえ、確定する（自身で実習先を確保できることが望ましい）。与えられた実習先で与えられた課題をこなすのではなく、どのような提案ができるかを考え、主体的に取り組むことを求める。守秘義務を順守するとともに、「報・連・相」の実行を徹底し、事業所の一員として全体の利益に貢献する姿勢を持つこと。  ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
<p>実習に向けた各種準備、実習中のノート作成や実習先から提示された課題、実習後の実習報告書（レポート）作成やプレゼンテーションの準備等は全て時間外学習となる。必ず、作成・提出期日を厳守すること。</p>					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
特に定めない。					
<b>【成績評価方法】</b>					
実習前準備及び実習中の評価等50%、実習の報告及び報告書の評価を50%を基に総合的に評価する。					
<b>【関連科目】</b>					
スポーツマーケティング特講、スポーツ組織論特講					

科目名	スポーツ科学研究施設実践演習		担当者	湯田 淳	
英文名	Practical Seminar in Institute of Sports Sciences				
標準履修年次	2年	単位	2単位	区分	実践演習・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>スポーツ科学は多領域からなりたっている。各領域の専門家の知識と技術を結集した国立スポーツ科学センター(JISS)では、スポーツ科学・医学・情報など先端的な研究のもと、充実した最新施設、器具・機材を活用し、各分野の研究者、医師等の専門家集団が連携しあって我が国の国際競技力向上のための支援に取り組んでいる。</p> <p>本演習では、JISSのスポーツ科学研究部研究員の指導によりJISSで測定等を行い、スポーツ科学に関連した分野における実務者教育を行う。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. 授業のガイダンス(学内)		9. JISSにおける実習⑤			
2. 我が国のスポーツ医・科学の動向とJISSの概要説明①(学内)		10. JISSにおける実習⑥			
3. 我が国のスポーツ医・科学の動向とJISSの概要説明②(学内)		11. JISSにおける実習⑦			
4. 実習中の諸注意等(学内)		12. JISSにおける実習⑧			
5. JISSにおける実習①		13. JISSにおける実習⑨			
6. JISSにおける実習②		14. JISSにおける実習⑩			
7. JISSにおける実習③		15. 実習報告と総合討議(学内)			
8. JISSにおける実習④					
<b>【到達目標】</b>					
我が国の国際競技力向上のための支援について理解を深め、スポーツ現場でサポートを実施する際に必要な知識と技術及びサポートスタッフとしての立ち居振る舞いを身につける。					
<b>【受講上の留意点】</b>					
<p>スポーツ医・科学に関するサポートの最前線である施設での実習を伴うため、測定技術が全くない者あるいは受講態度が悪い者に関しては受講を断ることがある。また、希望人数が多い場合には面接を行ったうえで受講者を決定することがある。JISSにおける実習の日程は先方の都合により決定し、授業担当教員から個別に通知する。</p> <p>※対面授業(面接授業)がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。</p>					
<b>【授業時間外学修】</b>					
国立スポーツ科学センター(JISS)の各種事業を概観し、スポーツ医・科学研究およびスポーツ現場のサポート活動の具体的内容を把握する。					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
<b>【成績評価方法】</b>					
実習後に提出されたレポートを踏まえ、受講状況についてJISSからの意見を考慮して評価する。					
<b>【関連科目】</b>					
スポーツ組織論特講、スポーツ生理学特講、スポーツバイオメカニクス特講					

科目名	舞踊団実践演習		担当者	坂本秀子	
英文名	Practical Seminar in Dance Company				
標準履修年次	2年	単位	2単位	区分	実践演習・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
<p>現在、活躍しているバレエ団、舞踊団、カンパニー、舞踊研究所等の公演活動（主に制作スタッフとして、場合によっては踊り手を兼ねても良い）に参加し、舞台上演に至るまでの経過を辿る。専門的な舞台制作の知識とその活用を通して、様々な体験を積むことを目的とする。また、舞踊団、バレエ団の日常のレッスン（年齢別、習熟度別など）について調査、研究し、理想の指導方法を模索する。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
1. 作品成立のための諸条件など基本的な事柄について			9. 各バレエ団、舞踊団におけるレッスンの見学または参加(2)		
2. 舞台上演についての具体的な手順について(1)			10. 各バレエ団、舞踊団におけるレッスンの見学または参加(3)		
3. 舞台上演についての具体的な手順について(2)			11. 発表、ディスカッション(1)		
4. 各バレエ団、舞踊団における公演活動の実践的体験、研究(1)			12. 発表、ディスカッション(2)		
5. 各バレエ団、舞踊団における公演活動の実践的体験、研究(2)			13. 「芸を極めること」とはどういうことかについて考える		
6. 各バレエ団、舞踊団における公演活動の実践的体験、研究(3)			14. 「創作者、舞踊家、指導者として大切なこと」とは何か		
7. 日常的なレッスンはどうあるべきか、理想的な形態を探る			15. 総合討論		
8. 各バレエ団、舞踊団におけるレッスンの見学または参加(1)					
<b>【到達目標】</b>					
何事にも興味を持って、自主的に調査・研究し、己の研究活動や舞踊活動に役立てられるようにする。					
<b>【受講上の留意点】</b>					
舞踊の専門ジャンルは問わないが、研究心を持って取り組んでほしい。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。					
<b>【授業時間外学修】</b>					
授業参加前にバレエ団、舞踊団の事前調査、授業参加後に実習レポート、最後に講義全体のレポート提出。					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
適宜プリントなどを配付する。					
<b>【成績評価方法】</b>					
レポート点70%、授業への参加度30%					
<b>【関連科目】</b>					
舞踊教育法特講、舞踊表現論特講					

科目名	健康運動指導実践演習		担当者	夏井裕明	
英文名	Practical Seminar in Health Fitness Program				
標準履修年次	2年	単位	2単位	区分	実践演習・選択
<b>【授業概要・方法】</b>					
榊原記念病院リハビリテーション室において、心臓疾患からの回復期にある患者に対して健康運動指導を行う。					
<b>【授業計画】</b>					
1. オリエンテーション			9. 健康運動指導実践(4)		
2. 心臓リハビリテーションをとりまく状況			10. 心臓リハビリテーション外来見学		
3. 健康運動指導現場見学			11. 健康運動指導実践(5)		
4. 健康運動指導実践(1)			12. 健康運動指導実践(6)		
5. 健康運動指導実践(2)			13. 健康運動指導実践(7)		
6. 心疾患患者に対する運動負荷試験			14. 自彊術		
7. ヨガ			15. 総合討論		
8. 健康運動指導実践(3)					
<b>【到達目標】</b>					
健康運動指導の実践を通して、健康運動指導の能力および資質の向上をはかる。					
<b>【受講上の留意点】</b>					
大学院1年次までに健康運動指導士もしくは健康運動実践指導者資格を取得している者を受講対象とする。 実習先病院の受け入れ状況によっては開講できないことがある。 ※対面授業（面接授業）がおこなえない場合には、遠隔授業で実施する。					
<b>【授業時間外学修】</b>					
健康運動指導士関連の参考書を十分理解しておく。					
<b>【教科書・参考書など】</b>					
健康運動指導士養成講習会テキスト上・下					
<b>【成績評価方法】</b>					
授業への取り組み方及び患者への態度、総合討論における理解度を総合して評価する。					
<b>【関連科目】</b>					
スポーツ医学特講、スポーツ生理学特講、体力とスキルのトレーニング科学特講、ライフステージと健康科学論特講、スポーツ栄養学特講					